

ANNUAL REPORT

2013

THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART

新潟県立近代美術館

新潟県立万代島美術館

The Niigata Bandaijima Art Museum

年報



目次

平成25年度の流れ	近代美術館				3
	万代島美術館				4
事業報告					
展覧会	近代美術館	常設展	第1期	近代美術館の名品	7
				いのりの絵画	7
				水彩画の魅力	7
			第2期	20周年記念コレクション展	9
			第3期	尾竹三兄弟展	11
				新収蔵品展	11
				境界のイメージ	11
				近代美術館の名品	11
			第4期	近代美術館セレクト	13
			第5期	朝に夕に	15
				近代美術館の名品	15
				齋藤三郎生誕100年	15
				セザンヌの水浴	15
		企画展		東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華	17
				ルーベンス	19
				オランダ・ハーグ派展	24
				館長 庵野秀明 特撮博物館	29
				岩田正巳展	32
		共催展		新潟の風景～未来への記録	33
				第68回新潟県美術展覧会長岡展	33
				第43回世界児童画展	33
				第15回亀倉雄策賞受賞記念平野敬子展ならびにJAGDA新人賞展2013	39
				第17回新潟県立美術館友の会作品展	40
				第44回新潟県ジュニア美術展覧会長岡展	40
				こどもものづくり大学校作品展覧会	41
	万代島美術館	所蔵品展		ひとの姿／人のかたち	42
				新潟の日本画100年	43
		企画展		ミュシャ展	47
				京都 清水寺展	55
				篠山紀信展 写真力	60
				梅佳代展	65
近代美術館開館20周年記念事業					69
教育普及	近代美術館	イベント			71
				館外活動・地域との連携	73
				刊行物・鑑賞資料	75
				作品解説会	77
				団体への解説	77
				学校教育等との連携	78
				観覧料免除	80
				アートボランティア	81
				博物館実習	82
	万代島美術館	イベント			83
				刊行物	85
				作品解説会	85
				団体への解説	86
				学校教育との連携	86
				観覧料免除	88
				サポートメンバー	89
				博物館実習	89
調査・研究	近代美術館				90
	万代島美術館				92
収集・保存	美術品の収集			平成25年度収集作品	93
	美術品の保存			美術品の修復	95
				美術品の燻蒸	95
	美術品の貸出			美術品の貸出	95
管理・運営					
	開館及び入館状況	近代美術館			102
		万代島美術館			103
	施設の貸出	近代美術館			104
	アンケート集計	近代美術館			105
		万代島美術館			107
	組織及び業務				110
	職員				110
施設	近代美術館				111
	万代島美術館				113
審議会等	美術館協議会（含 自己評価に対する委員評価）				115
	美術品収集委員会				122
	新潟県立美術館友の会				123
沿革					124

平成25年度の流れ (新潟県立近代美術館)

4月	2日(火)	コレクション展第1期 開会
	21日(日)	「富士美術館所蔵 近代日本画の精華」講演会「『近代日本画の精華』展について」
	23日(火)	「開館20周年ロゴマーク展」2階ギャラリーにて開会
	27日(土)	美術鑑賞講座「装いからみる美人画」
5月	5日(日)	ワークショップ「富士美作品でつくるミニ掛軸」
	8日(水)	企画展「東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華」閉会 コレクション展第1期 閉幕 「開館20周年ロゴマーク展」閉会
	9日(木)	館内設備点検のため休館
6月	7日(金)	
	8日(土)	共催展「新潟の風景～未来への記憶」開会
	12日(水)	共催展「新潟県美術展覧会 長岡展」開会
	18日(火)	「新潟県美術展覧会 長岡展」閉会
	23日(日)	ワークショップ「はっけん! びじゅつかんツアー」 「新潟の風景～未来への記憶」閉会
	28日(金)	企画展「ルーベンスー栄光のアントワープ工房と原点のイタリア」開場式
	29日(土)	「ルーベンス」展 開会 コレクション展第2期 開会 「ルーベンス」展 記念講演会「ルーベンス工房と若き日のヴァン・ダイク」
	30日(日)	「ルーベンス」展 お話& DVD「ルーベンスの足跡を訪ねて」「ルーベンス～ネロの愛したルーベンス」
7月	2日(火)	「HANAを咲かそう!」作品展示 ロビーにて開会
	3日(水)	開館20周年記念 ポスター展 2階ギャラリーで開会
	6日(土)	美術鑑賞講座「新収蔵 2003-2012 この10年を振り返る」
	7日(日)	「ルーベンス」展 ワークショップ「ゲームでルーベンス」
	13日(土)	アニメ完結版鑑賞会「フランダースの犬」
	15日(月)	開館記念日 コレクション展無料・特許うちわ配布
	18日(木)	博物館実習初日
	20日(土)	映画鑑賞会「世界名作劇場 フランダースの犬」
	21日(日)	「ルーベンス」展 学芸員によるスライドトーク「パロックの巨匠ルーベンスの魅力」
	23日(火)	開館20周年記念 ポスター展 閉会
	26日(金)	アニメ完結版鑑賞会「フランダースの犬」
	27日(土)	美術鑑賞講座「近代美術館の名品から」
	28日(日)	「ルーベンス」展 学芸員によるスライドトーク「パロックの巨匠ルーベンスの魅力」
31日(水)	博物館実習生による作品ガイド・博物館実習最終日	
8月	10日(土)	ギャラリートーク 美術でおしゃべり
	11日(日)	「ルーベンス」展 閉会
	13日(火)	共催展「第43回世界児童画展」2階ギャラリーにて開会
	17日(土)	ギャラリートーク 美術でおしゃべり
	18日(日)	コレクション展第2期 閉会 「第43回世界児童画展」閉会 友の会ワークショップ「キンビでカラーレッスン」 「HANAを咲かそう!」作品展示 閉会
	22日(木)	コレクション展第3期 開会
	24日(土)	ギャラリートーク 美術でおしゃべり
	28日(水)	企画展「特撮博物館」強遠近法ミニチュアセット先行展示開始(～10/14)
	30日(金)	企画展「オランダ・ハーグ派展」開場式
	31日(土)	「オランダ・ハーグ派展」開会 「オランダ・ハーグ派展」記念講演会「ファン・ゴッホとハーグ派」

9月	7日(土)	映画鑑賞会「オランダの光」
	8日(日)	こどもものづくり大学校 学外ワーク①「美術館をきりとろう もうひとつの美術館」
	11日(水)	第15回亀倉雄策賞受賞記念 平野敬子展ならびにJAGDA 新人賞展 2013 開会
	15日(日)	こどもものづくり大学校 学外ワーク②「美術館をきりとろう もうひとつの美術館」
10月	16日(月)	映画鑑賞会「オランダの光」
	22日(日)	JAGDA 新人賞 2013 開催記念 田中義久 平野篤史 宮田裕美詠 トークショー、平野敬子展開催記念講演会
	23日(月)	コレクション展第3期展示室3「尾竹三兄弟」閉会 第15回亀倉雄策賞受賞記念 平野敬子展ならびにJAGDA 新人賞展 2013 閉会
	25日(水)	コレクション展第3期展示室3「新収蔵品展」開会 「特撮博物館」記者会見
	28日(土)	長岡大学茶道部によるお茶会
	29日(日)	ワークショップ「ゴッホ式・風景をつかまえよう」
	5日(土)	美術鑑賞講座「日常にひそむ境界」
	12日(土)	ジュニア映画鑑賞会「生涯をかけた情熱と表現 フィンセント・ファン・ゴッホ」
11月	14日(月)	「オランダ・ハーグ派展」閉会
	20日(日)	コレクション展第3期 閉会
	29日(火)	コレクション展第4期 2階ギャラリーにて開会
	7日(木)	企画展「館長 庵野秀明 特撮博物館」開場式
12月	8日(金)	「館長 庵野秀明 特撮博物館」開会
	9日(土)	特撮塾@にいがた
	30日(土)	「特撮博物館」ウルトラマン撮影会
	7日(土)	「特撮博物館」円谷プロ特撮映画上映会
1月	14日(土)	「特撮博物館」ウルトラセブン撮影会
	29日(日)	年末年始の休館
2月	1日(水)	
	19日(日)	「特撮博物館」樋口真嗣さんと行く長岡 特撮展と特撮の魅力を知る旅(～1/20)
	21日(火)	「館長 庵野秀明 特撮博物館」閉会
	26日(日)	コレクション展第4期 閉会
	31日(金)	コレクション展第5期 開会
3月	8日(土)	共催展「新潟県ジュニア美術展覧会 長岡展」開会 映画鑑賞会「シャレード」
	19日(水)	「新潟県ジュニア美術展覧会 長岡展」閉会
	22日(土)	映画鑑賞会「ローマの休日」
	28日(金)	企画展「岩田正巳展」開場式
3月	1日(土)	「岩田正巳展」開会
	9日(日)	コレクション展第5期展示室3「齋藤三郎生誕100年」閉会
	11日(火)	コレクション展第5期展示室3「セザンヌの水浴」開会
	15日(土)	美術鑑賞講座「セザンヌの水浴をめぐる」
	16日(日)	映画鑑賞会「巴里の屋根の下」
	22日(土)	美術鑑賞講座「『新興大和絵』の時代」
	29日(土)	「岩田正巳展」映画鑑賞会「せたがや文化人・人と風土 岩田正巳」

平成25年度の流れ（新潟県立万代島美術館）

4月	14日(日)	美術鑑賞講座「学芸員のおすすめ 海外の美術館と世界遺産①トルコ編」
	28日(日)	美術鑑賞講座「学芸員のおすすめ 海外の美術館と世界遺産②オランダ編」
5月	12日(日)	美術鑑賞講座「学芸員のおすすめ 海外の美術館と世界遺産③ロシア編」
	19日(日)	所蔵品展「ひとの姿／人のかたち」閉会
	20日(月)～30日(木)	展示替えのため休館
	31日(金)	企画展「ミュシャ財団秘蔵ミュシャ展 パリの夢 モラヴィアの祈り」開場式
6月	1日(土)	企画展「ミュシャ財団秘蔵ミュシャ展 パリの夢 モラヴィアの祈り」開会
	8日(土)	ミュシャ展ミュージアムコンサート「パリとチェコの調べ」
	15日(土)	ミュシャ展関連イベント「教えて！ミュシャ」
	22日(土)	ミュシャ展関連イベント「ミュシャ二都物語ーパリとプラハ」
7月	6日(土)	ミュシャ展関連イベント「教えて！ミュシャ」
	14日(日)	美術鑑賞講座「チェコの美術とミュシャ」
	20日(土)	ミュシャ展関連イベント「教えて！ミュシャ」
	23日(火)	博物館実習初日
8月	1日(木)	博物館実習最終日
	11日(日)	企画展「ミュシャ財団秘蔵ミュシャ展 パリの夢 モラヴィアの祈り」閉会
	12日(月)～22日(木)	展示替えのため休館
	23日(金)	企画展「京都 清水寺展」開場式・開会 清水寺展関連イベント「『清水寺展』 出開帳について」

9月	8日(日)	清水寺展関連イベント「清水寺奥の院千手観音像めぐって」
10月	14日(月)	企画展「京都 清水寺展」閉会
	15日(火)～25日(金)	展示替えのため休館
	26日(土)	所蔵品展「新潟の日本画100年」開会
11月	3日(日)	万代島美術館開館10周年記念事業
	9日(土)	美術鑑賞講座「新潟の日本画家」
12月	1日(日)	所蔵品展「新潟の日本画100年」閉会
	2日(月)～12日(木)	展示替えのため休館
	13日(金)	企画展「篠山紀信展 写真力」開場式
	14日(土)	企画展「篠山紀信展 写真力」開会 篠山紀信展関連イベント「篠山紀信×金森稜」
	28日(土)	年末年始の休館
1月	3日(金)	
	18日(土)	篠山紀信展関連イベント「写真家・篠山紀信氏アーティスト・トーク&サイン会」
2月		
3月	2日(日)	企画展「篠山紀信展 写真力」閉会
	3日(月)～13日(木)	展示替えのため休館
	14日(金)	企画展「梅佳代展 UMEKAYO」開場式
	15日(土)	企画展「梅佳代展 UMEKAYO」開会

事業報告





常設展(コレクション展)



【趣旨】

当館の所蔵品による展示。

本年度は、開館20周年にあたることから、開館記念日を含む第2期には全室を使用して「20周年記念コレクション展」を開催し、多くの名品を展示紹介した。また、11月から1月にかけては、企画展でコレクション展示室も併せて使用したため、第4期は2階のギャラリーへと会場を変更し、寄贈作品を中心とした「近代美術館セレクト」を開催した。

その他の会期には「尾竹三兄弟展」や「齋藤三郎生誕100年」など、当館のコレクションを生かした展示となったほか、各期に「近代美術館の名品」をテーマとした展示室を設け、名品を目当てに来館する遠来の来館者にも応えた。

【観覧料】

- 一般……………420円(340円)
- 大学・高校生……………200円(160円)
- 中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金

※同時期の企画展観覧券で観覧可

第1期 2013年4月9日(火)～5月8日(水) (27日間)

展示室1 近代美術館の名品

展示室2 いのりの絵画

展示室3 水彩画の魅力

いのりの絵画

【趣旨】

人知を超えた存在である神仏への期待、何かを願う気持ちというものは、現代においても通底してあるものである。仏やキリストの姿を捉えた作品から、鎮魂や平和への想いを託した作品まで、様々な「いのりのかたち」を概観する。

【総括】

●評価すべき点

- ・当館コレクションのうち、これまで展示機会があまりなかった作品を紹介することができた。

●検討課題

- ・テーマも相まって難解な印象となってしまった。

担当 伊澤朋美

水彩画の魅力

【趣旨】

所蔵品により、チャールズ・ワグマンの指導に始まる日本の水彩画の歴史を概観し、水彩画の魅力を探る。

【総括】

●評価すべき点

- ・所蔵する水彩画で、日本への移入、展開、発展と小規模の展示ながら歴史を辿って紹介することができた。また水彩画の所蔵品への認識を新たにすることができた。
- ・所蔵水彩画について、館員の認識が改まった。

●検討課題

- ・常設展全般にわたる問題だが、どのように周知し、多くの県民が利用する状況を作るかということが大きな課題と考える。

担当 松矢国憲

【出品リスト】

展示室1 近代美術館の名品

作家名	作品名	制作年
大矢 黄鶴	はつなつの譜	1965
市橋 敏雄	萌生	1977
下村 観山	菅公幼児	大正中期
鏡木 清方	狐火	1943年
鏡木 清方	保名	1943年
鏡木 清方	辰橋	1943年
荒木 十畝	月下飛雁	1936
鏡木 清方	桜姫	1923
土田 麦穂	扇売美人の図	c1906
加山 又造	白い華	1995
岩田 正巳	鏡	1953
三輪 晃久	曉霞	1984
大矢 紀	風渡る	1999
佐藤 哲三	柿を持つ女	1934
牧野 虎雄	T婦人像	1928
田中 道久	メクネスの城塞 (モロッコ)	1976
梅原 龍三郎	紫禁城	1942
岸田 劉生	冬枯れの道路 (原宿附近写生)	1916
萬 鉄五郎	木の間風景	1918
佐伯 祐三	広告塔	1927
小山 正太郎	仙台の桜	1881
A. フォンタネージ	ブジェイ高原	c1858-60
J. デュブレ	羊飼いの	c1883
C. コロー	ビプリ	1874-75
C.-F. ドービニー	オワース河、イル・ド・ヴォーの夜明け	1869
C. モネ	コロンブの平原、霜	1873
M. ドニ	夕映えの中のマルト	1892
細野 稔人	鳥と少女	1976

ロビー

本間 一秋	冬夏青々	1977
-------	------	------

回廊

竹田 康宏	Under the leaves	1994
-------	------------------	------

展示室2 いのりの絵画

作家名	作品名	制作年
ほとけへのいのり		
畠中 光享	スジャータ奉粥	1988
畠中 光享	散華IV	1996
長崎 真人	敦煌石窟 西魏432窟	1979
長崎 真人	敦煌石窟 北魏248窟	1979
桐谷 洗麟	釈尊一代記 第三巻 出城	1915
桐谷 洗麟	釈尊一代記 第四巻 苦行林	1915

聖なる像

	イコン:キリストの復活と12の奇蹟	19世紀
	イコン:カザンの聖母	19世紀
	イコン:聖ソフィア	18世紀
	イコン:ハウスクロイツ	19世紀
中山 爾郎	聖像の窓	1976
木津 一夫	未来への遺産II	1987
笹岡 一	ウィリアム物語	1978
河内 文夫	エル・カミーノ	2007
河内 文夫	アストリアスへの旅	1996

聖地巡礼

宮 芳平	聖地巡礼シリーズ・1	1970
	1 マリアの驚き	
	2 降誕	
	3 逃避	
	4 ベテスダの池	
	5 ニカノルの門	
	6 ユダの椅子	
	7 ニザンの月	
	8 ゴルゴタ	
	9 埋葬	
	10 マグダラのマリアの悲しみ	
	11 エフタとその娘	
	12 サロメ	
	13 ルツとナオミ	

われらの父よ(主のいのり)

H. M. ベヒシュタイン	《われらの父よ(主の祈り)》	1921
	御国がきますように 御心が天におけるように	
	われらが自分たちに負い目あるものを赦しましたように	
	永遠に アーメン	

いのりのかたち

上野 泰郎	もろびと	1975
近藤 直行	発掘された祈りC	1968
近藤 直行	祈り	1988
小林 哲夫	サンサーラ(輪廻転生)	1985
市橋 敏雄	吹分オベリスク 南冥の鎮魂碑	1995
藤田 熊雄	とむらい	1959
亀倉 雄策	恐怖と悲しみ! ガン!	1959
亀倉 雄策	ヒロシマアビールズ	1983

展示室3 水彩画の魅力

作家名	作品名	制作年
C. ワーグマン	新潟の家	1870
浅井 忠	岩礁のある海	不明
浅井 忠	海辺夕景	不明
浅井 忠	洋館風景	不明
古賀 春江	初館の水辺	不明
古賀 春江	花	不明
鶴田 吾郎	風景	1935
鶴田 吾郎	与板風景	不明
中西 利雄	高原風景	不明
荒谷 直之介	婦人像	1940
長谷川 利行	浅草界限	不明
小山 良修	曲	1937
小山 良修	布上	1943
小堀 進	山麓	1952
小山 良修	五月の花	1947
小山 良修	時速	1955
阿部 展也	作品5 1	1951
阿部 展也	なめくじ夜曲	1947
巖 嘸	素描	不明
野間 仁根	舞踏する男女	1965
野間 仁根	風景	不明
高島 達四郎	嵐	不明
小山 良修	花	不明
小山 良修	柿	1970
杉全 直	亀甲	不明
山口 長男	作品	1980
山口 長男	作品	不明
山口 長男	作品	不明
五十嵐 二郎	石狩平野	1984
五十嵐 二郎	ドナウ河驟雨	1985
五十嵐 二郎	越後海景	1986

第2期 2013年6月29日(土)～8月18日(日) (47日間)

前期：6月29日(土)～7月21日(日)

後期：7月23日(火)～8月18日(日)

20周年記念コレクション展

【趣 旨】

開館20周年を記念したコレクション展として、できるだけ多くの名品を展示紹介しようと作品を選定した。各展示室の特徴を生かし、見やすくするため、すべてのジャンルから選ぶことは難しく、展示室1では「日本美術の逸品」、展示室2では「西洋美術の逸品」と「日本洋画の逸品」、展示室3では「西洋版画の逸品」とし、それぞれの展示室には県内の重要無形文化財保持者の工芸作品や彫刻の名品も配置した。それぞれの作品には簡略な作品解説も設置した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・当館所蔵の多くの名品が一堂に展示され、見ごたえのある豪華な展示となった。

●検討課題

- ・名品を選定しただけの展示であったが、全体を貫く大きなテーマを設定した方が、より当館の所蔵品を特徴付けることができたかもしれない。
- ・戦前の軸装などの日本画も、名品と思われるものはできるだけ出品したため、作品を休ませる期間が重なり、次年度は出品や貸出が難しくなった。

担当 宮下東子

【出品リスト】

展示室1

日本画の逸品			
作家名	作品名	制作年	
【全会期】			
5代 伊藤 赤水	無名異練上鉢	1988	
小島 丹彦	待つ	1965	
横山 操	炎炎桜島	1956	
三輪 晃勢	瀟	1964	
村山 徑	朝の火山	1978	
岩田 正巳	いかづち	1955	
加山 又造	月と駱駝	1957	
工藤 甲人	夜	1963	
麻田 鷹司	緒那智	1960	
東山 魁夷	森の静寂	1964	
佐々木 象堂	蠟型鍍銅獣装耳小花入	1959	
玉川 宣夫	木目金花瓶	2000	
三浦 小平二	青磁飾り壺「シルクロード」	2003	

【前期】

山本 丘人	湖上嶺	1951	
川合 玉堂	春苑	1919	
富田 淡仙	鶴の巢籠図	不明	
横山 大観	早春	1924	
鏡木 清方	春の夜のうらみ	1922	
土田 麦履	芥子	1926	
小林 古径	雨	1917	

【後期】

江口 草玄	不動明王	1964	
橋本 雅邦	秋景山水図	1892	
下村 観山	入日	1915	
中村 岳陵	嵐山朝陽・東山夕照	1926	
小林 古径	紫苑	1933	
小林 古径	飛鴨	1930	
土田 麦履	牽牛花	1935	
土田 麦履	山茶花	1933	
土田 麦履	清暑	1905	

回廊

北村 四海	すみれ	c 1920
-------	-----	--------

ロビー

斎藤 義重	“反対称”三角形No.1	1976
斎藤 義重	“反対称”三角形No.2	1976

展示室2

西洋画の逸品			
作家名	作品名	制作年	
【全会期】			
J.-E. ミレイ	アリス・グレイの肖像	1859	
C. トロワイヨン	リンゴの取り入れ	c 1840	
T. ルソー	ボートに乗る人のある夏の風景	c 1845	
A. フォンタネージ	ブジェイ高原	c 1858-60	
A. ロダン	考える人	1880	
A. プーシェ	朝顔	c 1892	
G. クールベ	エトルタ海岸、夕日	1869	
C. モネ	コンブの平原、霜	1873	
C. コロー	ビプリ	1874-75	
J. デュプレ	羊飼ひ	c 1883	
G. ルオー	晩秋No.3	1948-52	
M. ドニ	夕映えの中のマルト	1892	
P.=E. ランソン	収穫する7人の女性	1895	
M. エルンスト	鳥=人頭	1934-35 (1992铸造)	

日本洋画の逸品

【全会期】			
坂本 繁二郎	牛	1915	
岸田 劉生	冬枯れの道路(原宿附近写生)	1916	
萬 鉄五郎	木の間風景	1918	
中村 彝	洲崎義郎氏の肖像	1919	
溝谷 国四郎	裸婦	1923	
前田 寛治	赤い帽子の女	1925	
佐伯 祐三	広告塔	1927	
里見 勝蔵	赤と緑の静物	1928	
梅原 龍三郎	紫禁城	1942	
安井 曾太郎	読書	1942	
藤田 嗣治	私の夢	1947	
脇田 和	あらいそい	1955	
糸園 和三部	鳩	1958	
高岡 惣七	海・風	1960	
岡 鹿之助	朝の城	1970	
柳原 義達	坐る	1960	
菅井 汲	ナショナルルート No.12	1964	
岡本 太郎	顔	1965	
山口 長男	漢	1972	
白髪 一雄	志賀# 107	1973	
高橋 秀	アリスの月(黒)	1976	
李 禹煥	線より	1976	
猪熊 弦一郎	犬とネクタイ	1991	
小山 正太郎	仙台の桜	1881	
高村 真夫	裸婦	1921	
安宅 安五郎	姉弟	1931	
牧野 虎雄	秋近き濱	1934	
佐藤 哲三	残雪	1952	
阿部 展也	R-29	1967	
木下 晋	101年の胎動	2001	
有元 利夫	(無題)	1983	

展示室3

西洋版画の逸品			
作家名	作品名	制作年	
【全会期】			
K. コルヴィッツ	母と二人の子	1932-36	
E. バルラッハ	ロシアの恋人たち	1908	

【前期】

K. コルヴィッツ	戦争		
1	犠牲	1922-23	
2	志願兵	1922-23	
3	両親	1922-23	
4	未亡人I	1922-23	
5	未亡人II	1922-23	
6	母親	1922-23	
7	群衆	1922-23	

M. ドニ	アムール(愛)		
	表紙	1892-99	
1	寓意	1892-99	
2	物腰は優しく清らかな	1898	
3	朝のブーケ、悲しみ	1892-99	
4	それは敬虔な神秘さだった	1892-99	

P. ボナール	パリ生活の諸相		
2	森のアヴェニュー	1895-99	
3	街角	1895-99	
4	中庭に面した家	1895-99	
5	上方から見た街路	1895-99	
6	大通り	1895-99	

E. ヴェイヤール	風景と室内		
2	大通り	1896-99	
3	野原を横切る	1896-99	
4	吊りランプのある室内	1896-99	
5	バラ色の壁紙のある室内I	1896-99	
6	バラ色の壁紙のある室内II	1896-99	

A. デューラー	黙示録		
	扉絵 聖母子を仰ぎ見るヨハネ	1498	
	初版扉絵 ヨハネの殉教	1498	
	第1図 七つの壺台を見るヨハネ	1498	
	第2図 神の玉座を囲む二十四人の長老	1498	
	第3図 四人の騎者	1498	
	第4図 第五および第六の封印を切る	1498	

J. カロ	狩猟図	c 1620	
J. カロ	使徒たちの殉教		
	扉絵:キリスト磔刑図	1632	
	1 ベテロの殉教	1632	
	2 パウロの殉教	1632	
	3 アンデレの殉教	1632	

【後期】

K. コルヴィッツ	農民戦争		
1	耕す人	1906/1907	
2	凌辱	1907/1908	
3	大鎌	1905	
4	地下室で武器を取れ	1906	
5	蜂起	1902/1903	
6	戦場	1907	
7	囚人	1908	

M. ドニ	アムール(愛)		
6	たそがれは古い燈籠のような優しさを持つ	1892-99	
8	そして彼女の手が優しく触れる	1892-99	
9	私たちの潮はゆっくりとした動作の中に	1892-99	
10	青白い鏡の長椅子の上で	1892-99	
11	人生は貴重な憤り深いものとなる	1892-99	

P. ボナール	パリ生活の諸相		
8	八百屋	1895-99	
9	橋	1895-99	
11	街路、夕暮れ、雨	1895-99	
12	凱旋門	1895-99	
13	上方から見た街角	1895-99	

E. ヴェイヤール	風景と室内		
8	炉辺	1896-99	
9	ヨーロッパ橋で	1896-99	
10	洋菓子店	1896-99	
11	料理人	1896-99	
12	義姉妹	1896-99	

A. デューラー	黙示録		
第5図	風を止める四位の天使	1498	
第6図	喇叭を吹く七位の天使	1498	
第7図	エウフラテス河畔の四位の天使	1498	
第8図	食物を食べるヨハネ	1498	
第9図	太陽の女性と七頭の竜	1498	
第10図	聖ミカエル、竜を倒す	1498	
大受難伝:第3葉	オリフ山上のキリスト	1497-1500	
大受難伝:第4葉	キリスト捕縛	1510	
	メレンコリアI	1514	

第3期 2013年8月22日(木)～10月20日(日) (52日間)

前期：8月22日(木)～9月23日(月・祝)

後期：9月25日(水)～10月20日(日)

展示室1 前期：尾竹三兄弟展 後期：新収蔵品展

展示室2 境界のイメージ

展示室3 近代美術館の名品

尾竹三兄弟展

【趣旨】

現在の新潟市に生まれた日本画家、尾竹越堂、竹坡、国観は「尾竹三兄弟」と呼ばれ、初期文展の花形として活躍した。その業績は長らく正当に評価されて来なかったが、近年、美術雑誌の特集などを契機として、にわかに注目を集めるようになっている。

当館では昨年度、尾竹竹坡の遺族から貴重な初期作品や関連資料の一括寄贈を受けた。本展は、当館で既に収蔵している三兄弟の出品作等とともに、これら新収蔵品を初公開する趣旨で開催した。

【総括】

●評価すべき点

- ・新収蔵となった竹坡の初期作品と既収蔵作品をあわせて展示し、作風の変遷がたどれるようにした。
- ・画帳、写真・印章等の関連資料、豊富なパネル・キャプションによって三兄弟の画業が多角的に把握できるようにした。

●検討課題

- ・新収蔵品には状態が悪く、展示を見合わせざるを得ないものもあったが、作品修復予算の減額により、修復が十分に出来ない状況である。
- ・三兄弟の画業には未解明の部分が多く、今後の継続的な調査研究が必要である。

【関連記事】

●新聞

9月3日(火) 新潟日報

文化欄「『尾竹三兄弟展』に寄せて」／長嶋圭哉

その他 新潟日報 (9/3(火))

担当 長嶋圭哉

新収蔵品展

【趣旨】

平成24年度に収蔵した作品を紹介する。

【総括】

●評価すべき点

- ・当館の収集活動を紹介できた。

担当 松矢国憲

境界のイメージ

【趣旨】

「境界」とは二つの世界の境目を意味する。古くより自然と共に暮らしてきた人間にとって、自然は豊かな恵をもたらすものでありながら、害や畏怖をもたらす異界、また崇めるべき聖域として見なされてきた。また、水平線・地平線の彼方など、遙か遠いところも憧憬の念を持って異界と捉えられる。二つの世界を超越するには、両界を結ぶイメージ——たとえば水辺や橋、窓といったモチーフがその役割を果たし、見る者を作品の向こう側の世界へと誘う。二つの世界の接するところである「境界」の多様な表現を紹介する。

【総括】

●評価すべき点

- ・これまで展示機会が余りなかった作品も含めて紹介することができた。
- ・新たな切り口のテーマから、新鮮味のある作品の構成ができた。

●検討課題

- ・展示内容にさまざまなトピックを盛り込んだので、全体として散漫な印象になってしまった。

担当 伊澤朋美

近代美術館セレクト Present for Museum 2004-2013

【趣 旨】

当館には毎年貴重な作品の寄贈がある。本展では開館20周年にあたる節目の年に、寄贈者の方々に感謝をこめて、2004年から2013年に至る当館への寄贈作品の中から、主な作品を2階のギャラリーで展示した。これらの寄贈作品の数々は一般の方々から当館への重要なプレゼントであるという意味を込めて、“Present for Museum”とサブタイトルをつけ、また、20周年記念という想いも込めて、観覧料を無料とした。当館に作品を寄贈された方々の強い「想い」が感じられる展覧会となった。

【総 括】

●評価すべき点

- ・最近10年間の寄贈作品をテーマにこだわらず 展示したことで、展示作品の新たな魅力を紹介できた。
- ・寄贈作品が当館の重要な所蔵作品であることを再確認する良い機会となった。

●検討課題

- ・「館長庵野秀明 撮博物館」開催中の展覧会であり、企画展示室及びコレクション展示室を使用する展覧会のため、来館者に余力がなく、会場が2階のため導線がつかないことから、当初は入館者数が少なかった。

担当 藤田裕彦

【出品リスト】

近代美術館セレクト Present for Museum

作家名	作品名	制作年
洋画		
佐藤 哲三	越後の晩秋(鴻沼村を望む)	1935
安宅 安五郎	シャバノヌ模写(冬)	1921
安宅 安五郎	シャバノヌ模写(夏)	1921
國領 経郎	女醫さん	1947
末松 正樹	作品	1951
水島 清	海郷	1953
倉石 隆	駅近く	1976
阪本 文男	酒楽	1958
阪本 文男	ヘルマフロディトス-赤による	1967
田中 稔之	円の光景'82-14	1982
星 兼雄	階段のある-変容-Ⅲ	1981
富岡 惣一郎	氷の海 流氷	1985
早津 剛	小出の家(中魚沼郡中里村小出にて)	1979
池山 阿有	炉ばた	1993
河内 文夫	アストリアスへの旅から	1996
本田 真吾	実相#116	1997

相澤コレクション

塚谷 政義	A氏像	1952
伊藤 久三郎	作品	1966
小柏 龍太郎	作品	2002
関川 正七	ポリネシア(1)	1980-82
関川 正七	海底の人	1980-82
関川 正七	ハリケーン	1980-82

亀倉雄策と亀倉コレクション

亀倉 雄策	東京オリンピック 陸上	1962
亀倉 雄策	札幌オリンピック フィギュアスケート	1969
亀倉 雄策	ヒロシマアビールズ1983	1983
海老原 喜之助	市場	1937
阿部 展也	O-Roma	1964
堂本 尚郎	黒い太陽-W	1973
G. カボグロッシ	表面.30B	1959
イサム・ノグチ	女(リシ・ケシュにて)	1956

作家名	作品名	制作年
工芸		
熊井 恭子	DRAPE-G	1989
宮田 宏平	終わりのない物語「月下独酌 唐・李白に捧ぐ」	1991
広川 青五	O1「スペース・XⅢ」	2001
亀倉 康之	白い馬	1992
岩田 藤七	皿	1976
齋藤 三郎	色絵竹垣文金彩茗荷大皿	1962
齋藤 三郎	色絵金彩茗荷文角皿	c 1975
三浦 小平二	軸裏紅大皿「魚文」	1975
三浦 小平二	青磁茜豆彩大皿「ラジャスタン」	2003
写真		
岡田 紅陽	湖畔の春(本栖湖)	1935
岡田 紅陽	黒富士(三ツ峠)	1943
蕪木 研爾	流氷<オホーツク>作品1979-I	1979
蕪木 研爾	流氷<オホーツク>作品1979-II	1979
蕪木 研爾	流氷<オホーツク>作品1980-II	1980
堺 時雄	異人池	不明
渡辺 義雄	「戦中・戦後の東京」半地下壕1945年8月	1945/2001
渡辺 義雄	「戦中・戦後の東京」焼けた銀座通り、手前は三越、奥は松屋1945年9月	1945/2001
渡辺 義雄	「戦中・戦後の東京」銀座1946年7月	1945/2001
渡辺 義雄	ミラノ、ドゥオモ	1956/2001
渡辺 義雄	フィレンツェ、アカデミア美術館	1956/2001

第5期 2014年1月31日(金)～4月13日(日) (63日間)

前期：1月31日(金)～3月9日(日)

後期：3月11日(火)～4月13日(日)

展示室1 朝に夕に

展示室2 近代美術館の名品

展示室3 前期：齋藤三郎生誕100年 後期：セザンヌの水浴

朝に夕に

【趣旨】

朝と夕方の光景を描いた作品を選び展示した。朝の風景と夕の風景を、導線上ではなく、展示室を二つに仕切って作品を配置し、作品ごとに解説をつけた。立体作品では、伊藤赤水の壺を、本来の意味ではないが夕日に見立てて展示した。

【総括】

●評価すべき点

- ・シンプルなテーマであっただけにわかりやすく、共感をもって受け入れられた。

●検討課題

- ・テーマをさらに深く掘り下げる解説が必要であったかもしれない。

担当 宮下東子

齋藤三郎生誕100年

【趣旨】

齋藤三郎は栃尾（現長岡市）で生まれ、高田（現上越市）に築窯し、「雪国の風土に根差す美」を探究し続けた。気品漂う名作を多数残し、端正な白磁、雪椿の色絵が象徴的な作品となっている。また、堀口大學、小杉放菴、會津八一、相馬御風ら日本を代表する文化人と交友を深め、地域文化の振興にも貢献した。

2013年は齋藤の生誕100年にあたる。これを記念し、齋藤の人と芸術を振り返る展示を行った。「椿の色絵」「白磁」「多彩な陶技」の3つの視点から、齋藤の陶技を紹介。また、交流のあった人々の言葉やエピソードを通して、人としての魅力を再考した。

【総括】

●評価すべき点

- ・郷土の陶芸家・齋藤三郎の人と芸術を紹介することができた。来館者アンケートには、「地域の陶芸家の魅力を再確認できた」との記載があった。

●検討課題

- ・半期の展示であったが、長期間の展示によって多くの人に知ってもらいたい作家である。今後も郷土の作家として展示の機会をつくっていきたい。

担当 佐藤久美子

セザンヌの水浴

【趣旨】

神話や聖書には「水浴」のエピソードがしばしば登場し、西洋美術においては伝統的な主題の一つとして水浴図が描かれることが多い。南仏出身の画家ポール・セザンヌ（1841～1906）は、少年の頃から川遊びを好み、生涯に200点を超す水浴図を残したことで知られている。当館寄託のセザンヌ作《水浴》を起点として、「裸体を盗み見する」「生きる喜び」「聖なる裸体」「フォームの探究」「セザンヌ憧憬」という5つのテーマに沿って所蔵品を展示し、水浴という主題の魅力に迫ることを試みた。

【総括】

●評価すべき点

- ・1点の作品をとりあげ、多角的に迫るという実験的な試みを通して、重要な主題を掘り下げることに成功した。
- ・寄託という保管期間が限定された作品について、意欲的な紹介方法を採用し、当館に作品が存在することをアピールする機会となった。
- ・関連講座を開催し、作品の背景を詳細に解説することで愛好者の関心に応えることができた。

●検討課題

- ・今後は、西洋美術展の開催時にあわせるなど、さらなる集客の工夫が必要であろう。

担当 平石昌子

【出品リスト】

展示室1 朝に夕に

作家名	作品名	制作年
〈朝〉の光景		
村山 径	朝の火山	1978
三輪 晃久	曉霞	1984
三輪 晃久	晞	1986
原 雅幸	霧と残雪	1985
米谷 清和	街・朝	1986
岡 鹿之助	朝の城	1970
西村 満	黎明	1991

〈夕〉の光景

米谷 清和	街・夜	1986
米谷 清和	街・夕方	1986
新保 兵次郎	帰巢	1969
村山 径	薄暮	1974
三輪 晃久	遙	1981

越後の夕景

小島 丹次	河口暮色	1956
山崎 隆夫	砂丘晩夏	1985
川端 龍子	夕茜(越後出雲崎展望)	1953
佐藤 哲三	風景	c1953
佐藤 哲三	帰路	1954
5代 伊藤 赤水	無名異壺	1988

展示室2 近代美術館の名品

作家名	作品名	制作年
小山 正太郎	仙台の桜	1881
浅井 忠	農人	1890
坂本 繁二郎	牛	1915
萬 鉄五郎	雪の景(土沢)	1915
岸田 劉生	冬枯れの道路(原宿附近写生)	1916
牧野 虎雄	麦扱く農婦等	1918
中村 彝	洲崎義郎氏の肖像	1919
矢部 友衛	習作	1920
高村 真夫	裸婦	1921
坂田 一男	椅子による裸婦	1924
佐伯 祐三	バンテオン寺院	1928
里見 勝蔵	赤と緑の静物	1928
吉原 治良	静物	1929
峰村 リツ子	桜井浜江像	1930
北川 民次	大地	1939
佐藤 哲三	稲	1941
安井 曾太郎	読書	1942
梅原 龍三郎	紫禁城	1942
藤田 嗣治	私の夢	1947
脇田 和	あらい	1955
海老原 喜之助	燃える	1957
斎藤 義重	作品1	1957
児島 善三郎	森と聚落	1958
村井 正誠	ものうり	1958
前田 常作	人間誕生6	1963
北村 四海	空想に耽り居る女	1916
C. トロワイヨン	りんごの取り入れ	c1840
T. ルソー	ボートに乗る人のいる夏の風景	c1845
A. フォンターネージ	ブジェイ高原	c1858-60
J. -E. ミレイ	アリス・グレイの肖像	1859
G. クールベ	エトルタ海岸、夕日	1869
C. モネ	コロンブの平原、霜	1873
C. コロー	ビブリー	1874-75
J. デュプレ	羊飼いの	c1883
P. =E. ランソン	収穫する7人の女性	1895
M. ドニ	ベンガル虎 バッカス祭	1920
A. ロダン	考える人	1880

展示室3 〈前期〉齋藤三郎生誕100年

作家名	作品名	制作年
楕の色絵		
齋藤 三郎	色絵唐草窓絵楕模様大壺	1977
	色絵楕文壺	1975
	色絵楕文面取壺	1975-81
	色絵楕文大花瓶	1966
	雪楕敷楕壺	1974-84
	色絵楕文壺	1975-81
	色絵楕文壺	1975-81
	色絵楕楕文皿	c1965
	色絵楕文額皿	1968
	色絵付楕文松皮菱向付(5客組)	1965-69
	色絵楕文筆管	昭和50年代

白磁

齋藤 三郎	白磁連弁文陰刻蓋付壺	1977
	白磁壺	c1975
	白磁控面取瓢形瓶(2客)	1965-70
	白磁壺	1977
	白磁蓋付小壺	1965-70
	青白磁透彫台付円面碗	1965-70
	青白磁水滴	1965-70

多彩な陶技

齋藤 三郎	呉須播落牡丹文瓶	1943
	辰砂陰刻牡丹文瓶	1948
	辰砂葡萄文大壺	1980-81
	瑠璃釉丸瓢形瓶	c1975
	赤絵面取瓢形瓶	c1975
	辰砂楕楕陶板	c1970
	色絵唐辛子文大皿	c1975
	色絵茄子文皿	昭和20年代
	辰砂鉄絵播落牡丹文大皿	1955-65
	染付吹墨梅文皿	1970-74
	色絵柚子香盒	不明
	染付曲家水滴	c1951
	辰砂牡丹文偏壺	c1965
	窓絵楕小紋面取壺	不明
	陶齋画賛「偲泰全文」楕樹冬罔図	不明
濱谷 浩	昭和男性諸君 多芸博覧強記の陶工、齋藤三郎さん	1947

展示室3 〈後期〉セザンヌの水浴

作家名	作品名	制作年
1. 裸体を盗み見る		
P. セザンヌ	水浴	1875-77 *
F. ブラックモン	ブラックモンによる6枚の朝食銅版画: 驚いた鴨	1887
M. クリンガー	オヴィディウス「変身譚」の犠牲者たちの救済 表紙	1879
	ナルキッソスとエコー I	1879
	ナルキッソスとエコー II	1879

2. 生きる喜び

F. ヴァロットン	小さな浴女たち	
	ずわる二人の浴女	1893
	水に入る	1893
	草の上に横たわる浴女たち	1893
	水から上がる	1893
	下着姿の女の子ふたり	1893
	下着を脱ぐ女の子	1893
	太陽のもとで遊ぶ	1893
	嵐に驚く浴女たち	1893
	子供のいる浴女	1893
	白鳥と浴女	1893

〈参考出品〉

有島生馬著	「画家ポール・セザンヌ」	1910
E. ノルデ	跪く少女	1907
H. M. ベヒシュタイン	第1回ブリュク展カタログ: 水浴する人たち	1910
R. ゼーヴァルト	現代ドイツ版画家集: 表紙/水浴する人たち	1920

3. 聖なる裸体

安宅 安五郎	夏(原作ピュヴィス・ド・シャヴァンヌの模写)	1921
M. ドニ	アムール	
	彼女は夢よりも美しかった	1892-99
	けれどあまりにも高鳴る心	1892-99
A. プーシェ	朝顔	c1896

4. フォームの探求

A. ロダン	疲れ	c1887
F. ヴァロットン	怠惰	1896
國領 経郎	遠い海	1987
小出 楳重	ソファの裸体B	1930
田中 道久	裸婦	1961
千野 茂	フォーム	1976

5. セザンヌ憧憬

E. ベルナル	ボン=タヴェンのぼら色の道	1892
小野 末	風景	1951
牧野 虎雄	秋近き濱	1934
牧野 虎雄	T婦人像	1928

※*は寄託作品

企画展



東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華

【趣旨】

1983年に開館した東京富士美術館は、古今東西の絵画や彫刻・工芸、写真など、約30,000点の所蔵品を誇る。本展では、多岐にわたる同館コレクションのなかから横山大観・竹内栖鳳・川合玉堂・上村松園・錦木清方など近代日本画を代表する画家たちの作品約60点を展示し、併せて日本画の源流とも位置づけられる葛飾北斎・歌川広重らの浮世絵、谷文晁らの文人画など、江戸絵画約20点を紹介した。山水画・花鳥画・美人画など多彩なジャンルの作品に触れ、日本の四季の美を感じてもらおう展覧会とした。

【総括】

●評価すべき点

- ・年度を跨いで展覧会期を設定したため、春季展ながら予算案通過のタイミングに関わらず広報を開始できた点がよかった。
- ・掛幅をアクリルカバーによって展示し、作品を間近に鑑賞できるようにしたことが好評であり、この展示方法は今後も生かせると思う。
- ・ジャンル別の展示構成、わかり易い解説キャプション、休憩用ソファを多めにするなど、来場者への配慮にも評価の声が多かった。

●検討課題

- ・ターゲットとして設定した中高年が主要な来場者層となったが、印刷物のデザインによって企画したより若年層の取り込みについては、具体的な効果は上げられなかった。
- ・来場者の満足度（大変満足・まあまあ満足）は9割超とはならず、今後の企画展選定においては作品や企画の質について、より厳しく吟味する必要がある。

【開催日・その他】

＝2013年3月16日(土)～5月8日(水)（47日間）＝

休館日：月曜日、4/29は開館、4/30は休館、5/1以降は無休

主催：近代日本画の精華展実行委員会、新潟県立近代美術館、新潟日报社、NST

後援：長岡市、長岡市教育委員会、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、ケーブルテレビのエヌ・シティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FMなごおか80.7

協力：東京富士美術館、新潟日報美術振興財団

企画協力：アート・ベンチャー・オフィス ショウ

観覧料：一般……………1,000円（800円）

大学・高校生……………800円（600円）

※中学生以下無料

※（ ）内は有料20名以上の団体料金及び前売券料金

【関連行事】

・講演会

「『近代日本画の精華』展について」

4月21日(日) 14:00～ 講堂

講師：野口玲一氏

（本展監修者、三菱一号館美術館学芸グループ長）

参加者数：55名

・美術鑑賞講座

「装いから見る美人画」

4月27日(土) 14:00～ 講堂

講師：宮下東子（当館学芸課長代理）

参加者数：45名

・ワークショップ

「富士美作品でつくるミニ掛軸」

5月5日(日) 13:00~ 講座室

講師：宮下東子(当館学芸課長代理)

長嶋圭哉(当館主任学芸員)

参加者数：10名

・作品解説会

3月17日(日)/3月24日(日)/3月31日(日)/4月7日(日)/

4月14日(日)/4月28日(日) 14:00~

参加者数：25名/20名/30名/20名/25名/25名

【図録】

仕様：20.0×22.3cm 本文103頁

編集：アート・ベンチャー・オフィス ショウ

発行：アート・ベンチャー・オフィス ショウ

内容：ごあいさつ

謝辞

「近代日本画の精華」展によせて／野口玲一

図版

I 山水画と風景画、北斎と大観の富士

II 文人画の系譜

III 花鳥画の系譜～雪・月・花三部作

IV 肖像：美人と歴史人物

東京富士美術館紹介

作家年表

作家略歴

出品目録



【関連記事】

●新聞

3月3日 新潟日報

「近代日本画の精華」展 16日開幕(特集記事)

4月18日 新潟日報

「近代日本画の精華」展に寄せて／長嶋圭哉(当館主任学芸員)

その他 新潟日報(2/26、3/16、4/16、4/23、5/2)

栃尾タイムス(3/25)

聖教新聞(4/22)

〈連載〉

・新潟日報「近代日本画の精華」(作品紹介/10回)

3/13~16、3/19~20、3/22~23、3/26~27

【観覧者数】

※4/1~5/8

有料観覧者数	当日	7,302
	前売	2,542
無料観覧者数	無料	1,993
	免除	749
総観覧者数		12,586
有料率(%)		78.2

※全会期

有料観覧者数	当日	9,754
	前売	3,317
無料観覧者数	無料	2,594
	免除	962
総観覧者数		16,627
有料率(%)		78.6

担当 長嶋圭哉

※本展の展示図面及び出品リストは、平成24年度版年報の47ページを参照してください。



ルーベンス —栄光のアントワープ工房と原点のイタリア

【趣旨】

17世紀バロック絵画の巨匠ルーベンス(1577-1640)の画業を、イタリア滞り時代から晩年にいたるまでの自筆作品を中心に振り返る展覧会。ルーベンス研究の第一人者を監修者として迎え、良質かつ意欲的な内容となった。ルーベンスがアントワープで組織した工房に焦点を当てると同時に、ルーベンスが静物、動物、風景を専門とする画家たちと共同制作した作品をも紹介した。ルーベンスの全貌を明らかにする日本で初めての試みだったと言える。

【総括】

●評価すべき点

- ・開館20周年という節目の年に、長岡市の共催や地元メディア3社との実行委員会というバックアップを得て質の高い展覧会を開催したことは、美術館の将来の経営について考える上で得るところがあった。
- ・「バロック最大の宗教画家」の個展という重厚な内容で、集客が困難なことが予想されたが、日本のアニメによる画家の知名度も高く、幅広い年齢層の入場者を迎えることができた。
- ・解説シートや目録など新潟で独自に工夫した普及方法が親しみやすいと来館者から好評だった。

●検討課題

- ・若年層の来館が比較的少なかった。広報面で、当館ホームページ等に制約があり、柔軟な情報発信ができなかったことも、若者へのアピールが不足した原因の一つと考えられる。

【開催日・その他】

=2013年6月29日(土)~8月11日(日)(42日間)=

休館日：7/1、7/22

主催：新潟県立近代美術館、新潟日报社、BSN新潟放送、NST、「ルーベンス」新潟展実行委員会、毎日新聞社

共催：長岡市、長岡商工会議所

後援：外務省、イタリア大使館、オーストラリア大使館、ベルギー大使館、ベルギー・フランダース政府観光局、フランダースセンター、長岡市教育委員会、新潟県小学校長会・中学校長会・特別支援学校長会、新潟県高等学校長協会、新潟日報美術振興財団、NHK新潟放送局、エフエムラジオ新潟、FM PORT79.0、FMながおか80.7、燕三条FM放送

協賛：損保ジャパン、第一生命保険、大日本印刷、三菱商事

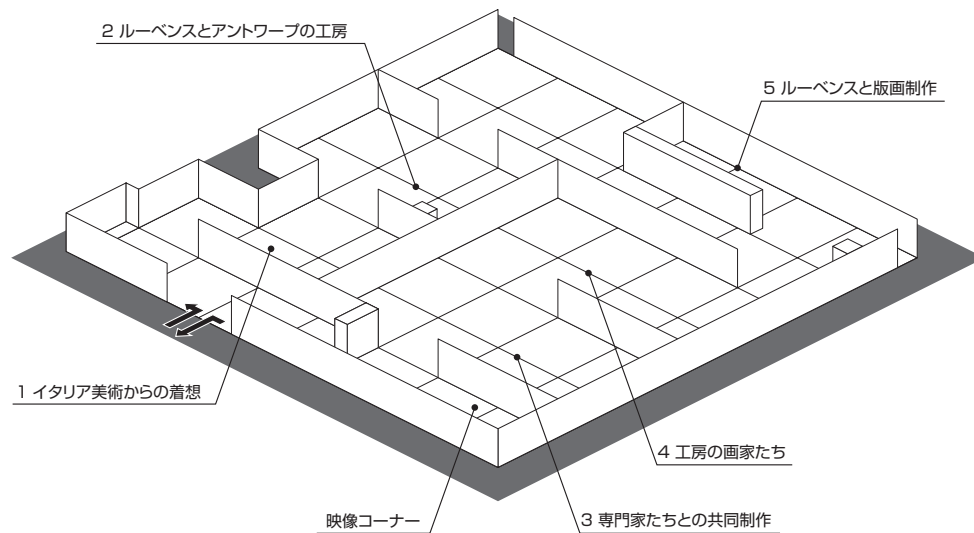
協力：アリタリア・イタリア航空、エールフランス航空、KLMオランダ航空

観覧料：一般……………1,200円(1,000円)

大学・高校生……………1,000円(800円)

※中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金及び前売券料金



【関連行事】

・講演会

「ルーベンス工房と若き日のヴァン・ダイク」

6月29日(土) 14:00～

講師：中村俊春氏（京都大学大学院教授、本展監修者）

参加者数：85名

・お話&DVD

「ルーベンスの足跡を訪ねて～ベルギー・アントワープ」

6月30日(日) 14:00～ 講堂

講師：ベルナルド・カトリッセ氏（フランダースセンター館長）／須藤美昭子氏（ベルギー・フランダース政府観光局日本地区局長）

参加者数：145名

・学芸員によるスライドトーク

「バロックの巨匠ルーベンスの魅力」

7月21日(日)／28日(日) 14:00～ 講堂

トーク：平石昌子（当館学芸課長代理）

参加者数：55名／60名

・ワークショップ

「ゲームでルーベンス」

7月7日(日) 14:00～ 講座室

講師：宮下東子（当館学芸課長代理）

参加者数：7名

・映画鑑賞会

アニメ完結版鑑賞会「フランダースの犬」

7月13日(土)／20日(土)／26日(金) 14:00～ 講堂

参加者数：202名／200名／100名

・長岡リリックホール連携イベント

「バロック・オルガン・コンサート」

7月18日(木) 19:00～ 長岡リリックホール

演奏：江崎浩司（リコーダー&バロックオーボエ）、波多野睦美（メゾ・ソプラノ）、宮崎容子（バロック・ヴァイオリン）、能登伊津子（ポジティブオルガン）

参加者数：400名

【図録】

仕様：A4判 272頁

編集：Bunkamuraザ・ミュージアム（廣川暁生、橋爪優子、柳澤宏美）、北九州市立美術館（奥田亜希子）、新潟県立近代美術館（藤田裕彦、平石昌子）、毎日新聞社事業本部（瀧口扶美、南田奈穂）

発行：毎日新聞社

内容：ごあいさつ、ルーベンス関連地図、ルーベンス関連年表
 カタログ 1. イタリア美術からの着想 2. ルーベンスとアントワープの工房 3. 専門画家たちとの共同制作 4. 工房の画家たち 5. ルーベンスと版画制作
 「ルーベンスの絵画制作－専門画家たちとの共同制作、および工房の助手ヴァン・ダイクをめぐって－」／中村俊春
 「ペーテル・パウル・ルーベンスとフランス・スナイデルス：共同制作事業」／デニス・P. ウェラー
 「フィレンツェの美術館コレクションにおけるルーベンスとフランドル絵画」／アンナ・ビシェリア
 文献一覧、出品リスト



【関連記事】

●新聞

- 6月23日 新潟日報（特集 見開き2頁）
 「バロックの潮流を代表」／中村俊春（監修者、京都大学大学院教授）
 「「ネロ」も憧れた壮かさ」／谷原章介（俳優）
- 7月23日 新潟日報（ふむふむ）
 「ふむっ子記者が行く」
- 7月30日 新潟日報（文化欄）
 「ルーベンスの光(上)」／平石昌子

7月31日 新潟日報（文化欄）

「ルーベンスの光(下)」／平石昌子

その他 新潟日報

（平成24年12/31、平成25年3/9、4/1、6/26、6/29、6/30、7/17、8/1、8/10）
 十日町タイムス(5/28)
 村上新聞(6/2)
 スポーツニッポン(6/1)
 十日町新聞(6/20)

〈連載〉

・新潟日報「栄光と原点」

- ①《ロムルスとレムスの発見》／平石昌子（7/17）
- ②《毛皮をまとった婦人像》／平石昌子（7/18）
- ③《熊狩り》／平石昌子（7/19）
- ④《髭を生やした男の頭部》／藤田裕彦（7/20）
- ⑤《自画像》／藤田裕彦（7/21）

●雑誌

キャレル7月号
 トキッ子ラウンジ8－9月号
 かけはしvol.34
 月刊ウインド10月号

●テレビ

7月2日 NHK
 「お昼はじよんのび」／平石昌子
 7月21日 BSN
 「県政ナビ」

●ラジオ

7月5日 FM PORT
 「中村ちひろのWeekend Switch」／藤田裕彦

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	24,588
	前売	9,076
無料観覧者数	無料	8,704
	免除	2,374
総観覧者数		44,742
有料率 (%)		75.2

担当 平石昌子

【出品リスト】

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦×横cm)	所蔵先
1章 イタリア美術からの着想						
1	ペーテル・パウル・ルーベンス	カスパール・ショッペの肖像	1604-05年頃	油彩・カンヴァス	116×88	バラティエーナ美術館
2	ペーテル・パウル・ルーベンス	聖ドミニコ	1606-07年頃	油彩・紙(板に貼り付け)	88.5×67.5	アカデミア・カッラーラ美術館
3	ペーテル・パウル・ルーベンスと工房 (16世紀イタリア画家の作品の模写)	婦人の肖像 (マントヴァ公妃エオノーラ・ゴンザーガ?)	1606-08年頃ある いは1610年代(?)	油彩・カンヴァス	115.5×97	ブルックス美術館
4	ペーテル・パウル・ルーベンス	ロムルスとレムスの発見	1612-13年頃	油彩・カンヴァス	210×212	カピトリナ絵画館
5	ルーベンス工房の画家(?)	勝利者としてのローマ		黒チョーク、水彩、白色の グワッシュによるハイラ イト、厚紙に貼られた紙	37.5×40.9	ブザンソン美術館
6	ペーテル・パウル・ルーベンス	毛皮をまとった婦人像 (ティツィアーノ作品の模写)	1629-30年頃	油彩・カンヴァス	91.8×68.3	クィーンズランド美術館
2章 ルーベンスとアントワープの工房						
7	ペーテル・パウル・ルーベンス	髭をはやした男の頭部	1609年頃	油彩・板	50.8×41.3	国立古美術館・コルシーニ宮殿
8	ペーテル・パウル・ルーベンス	兄フィリップス・ルーベンスの肖像	1611年頃	油彩・板	68.5×53.5	デトロイト美術館
10	パウルス・ボンティウス(ルーベンス原画)	9つの頭部		エングレーヴィング	35.4×25.2	フランクフルト博物館/市立版画素描館
11	パウルス・ボンティウス	《9つの頭部》のための銅の原板			33.2×22.5	フランクフルト博物館/市立版画素描館
12	ペーテル・パウル・ルーベンス	男の肖像 (ニコラース・ロココックス?)	1615年頃	油彩・板	39.4×31.3	フィラデルフィア美術館
13	ペーテル・パウル・ルーベンス	ご訪問	1611-14年頃	油彩・板	50×26	ストラスブール美術館
14	ペーテル・パウル・ルーベンス	キリスト哀悼	1614年頃	油彩・板	55.2×74	アントワープ王立美術館
15	ペーテル・パウル・ルーベンス	羊飼いの礼拝	1615-16年頃	油彩・板	46×34	ルーベンスの家
16	ペーテル・パウル・ルーベンス	復活のキリスト	1616年頃	油彩・カンヴァス	183×155	バラティエーナ美術館
17	ペーテル・パウル・ルーベンス(工房)	聖母子と聖エリザベツ、幼い洗 礼者ヨハネ	1615-18年頃	油彩・カンヴァス	154×119	バラティエーナ美術館
19	ペーテル・パウル・ルーベンス(工房)	自画像	1622-28年頃(?)	油彩・板	85×61	ウフィツィ美術館
20	ペーテル・パウル・ルーベンス	天使からパンと水を受け取る預 言者エリヤ	1626年頃	油彩・板	72×61.7	ボナ=エル=美術館
21	ペーテル・パウル・ルーベンス	ヘクトルを打ち倒すアキレス	1630-35年頃	油彩・板	107.4×126.7	ポー美術館
22	ペーテル・パウル・ルーベンス	煉獄の魂たちのために取りなす アピラの聖テレサ	1630-33年頃	油彩・板	44.8×37.1	ヴァイツ・ファン・カペンとカロリ=男爵美術館
23	ペーテル・パウル・ルーベンスと工房	二人の女性寓意像とアントワー プの城塞の眺望	1630-35年頃	油彩・板	64.6×50.5	ブザンソン美術館
24	ペーテル・パウル・ルーベンス(工房)	アッシジの聖フランチェスコ	1630年代中頃	油彩・カンヴァス	203×85	ストラスブール美術館
25	ペーテル・パウル・ルーベンス	アポロンとダフネ	1636年頃	油彩・板	28.3×26.5	ボナ=エル=美術館
26	ペーテル・パウル・ルーベンス	プシュケと眠るクビド	1636年頃	油彩・板	26.3×24	ボナ=エル=美術館
27	ペーテル・パウル・ルーベンス	ディアナとエンデュミオン	1636年頃	油彩・板	26.6×28	ボナ=エル=美術館
28	ペーテル・パウル・ルーベンス	グラウコスとスキュラ	1636年頃	油彩・板	25.3×31.1	ボナ=エル=美術館
29	ペーテル・パウル・ルーベンス	ヘラクレスの犬による紫の発見	1636年頃	油彩・板	28.4×32.6	ボナ=エル=美術館
30	ペーテル・パウル・ルーベンス	パンとシュリンクス	1636年頃	油彩・板	26×26.4	ボナ=エル=美術館
31	17世紀フランドルの画家	レウキッポスの娘たちの掠奪		油彩・カンヴァス	27.5×34	ウフィツィ美術館
3章 専門画家たちとの共同制作						
32	ヤン・ブリュゲル(父)の工房の画家	ガラス製の花瓶の花		油彩・銅板	43×33	アカデミア・カッラーラ
32	アントワープの2人の画家	マルタとマリアの家のキリスト		油彩・板	58×86	アカデミア・カッラーラ
34	ヤン・ブリュゲル(子)	エヴァの創造の見える楽園の風景	1630年代末	油彩・銅板	37×48.5	ブザンソン美術館
35	ペーテル・パウル・ルーベンス	台所の人物たちの習作	1630-33年頃	油彩・板	19.8×27.8	アントワープ王立美術館
36	フランス・スナイデルス	猟犬に襲われる猪	1620年代	油彩・カンヴァス	102.5×131.5	ゲント美術館
37	ペーテル・パウル・ルーベンスと フランス・スナイデルス、および工房	熊狩り	1639-40年	油彩・カンヴァス	130.8×196.9	ノース・カロライナ州立美術館
38	ペーテル・パウル・ルーベンス	シルヴィアの鹿の死	1639年	油彩・板	23.5×52.9	フィラデルフィア美術館
39	ヤン・ウィルデンス	踊る牧人たちのいる風景	1631の年紀	油彩・カンヴァス	134.9×201.3	アントワープ王立美術館
40	ヤン・ウィルデンスとフランス・ウテルス	牧人のいる風景		油彩・カンヴァス	173.5×218	ルーベンスの家
4章 工房の画家たち						
41	パウルス・ボンティウス (エラスムス・クエリヌス2世原画)	ルーベンスとヴァン・ダイク		エングレーヴィング	12.7×16.3	フランクフルト博物館 /市立版画素描館
42	アントーン・ヴァン・ダイク	悔悛のマグダラのマリア	1618-20年頃	油彩・カンヴァス	99.5×73	
43	アントーン・ヴァン・ダイク	若い男の頭部	1617-18年頃	油彩・板に貼り付けられた紙	51.2×41.4	ワシントン・ナショナルギャラリー
44	アントーン・ヴァン・ダイク	髭の男の頭部	1617-20年頃	油彩・カンヴァス	52.2×35	ブザンソン美術館
45	ルーベンス工房の画家	ルーベンスの肖像	1620年頃	油彩・板	41.3×33.7	ワシントン・ナショナルギャラリー
46	アントーン・ヴァン・ダイク周辺の画家	ニコラース・ロココックスの肖像	肖像主の年齢79、 1639の年紀	油彩・板	25×19.5	ストラスブール美術館
47	ヤーコブ・ヨルダーンス	羊飼いの礼拝	1616-17年頃	油彩・カンヴァス	155×115.2	アントワープ王立美術館

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦×横cm)	所蔵先
46	ヤーコブ・ヨルダーン(工房)	豊穣の寓意	1640年頃	油彩・カンヴァス	119×182	ゲント美術館
49	アブラハム・ファン・ディーペンベーク	黙示録の女	1640年代中頃	油彩・カンヴァス	73×54.5	バラティエナ美術館
50	アブラハム・ファン・ディーペンベーク	修道院に入るニヴェルの聖ゲルトロード	1645年頃	油彩・板	41×28	ストラスブル美術館
51	アブラハム・ファン・ディーペンベーク	聖ボナヴェントゥーラの法悦		油彩・カンヴァス	203×153	アントワープ王立美術館
52	ペーテル・パウル・ルーベンス作品の模写、ヤン・ファン・デン・フッケ制作(?)	聖家族と聖エリサベツ、幼い洗礼者ヨハネ	1630年代	油彩・板	33×45.5	ストラスブル美術館
53	ヤン・ブックホルスト	アポロとビュトン	1666-68年頃	油彩・カンヴァス	59.9×51.2	ゲント美術館

5章 ルーベンスと版画制作

54	コルネーリス・マセイス(ラファエッロ原画)	奇蹟の漁り	1538年頃	エンブレヴィング	22.8×29.8	ブラントゥン=モルトゥス博物館/市立版画業協館
55	コルネーリス・コルト(ティツィアーノ原画)	悔悛のマグダラのマリア	1566の年紀	エンブレヴィング	37.2×28.5	ブラントゥン=モルトゥス博物館/市立版画業協館
56	ヨハネス・ウィーリクス(マルテン・デ・フォス原画)	悔悛のマグダラのマリア		エンブレヴィング	22.2×18.1	ブラントゥン=モルトゥス博物館/市立版画業協館
57	ペーテル・パウル・ルーベンス	ヤン・ファン・ムルスの出版商標	1630-31年頃	油彩・板	19×20.5	ブラントゥン=モルトゥス博物館/市立版画業協館
58	コルネーリス・ハッレ(父)(ルーベンス原画)	ヤン・ファン・ムルスの出版商標		エンブレヴィング	12.7×16.3	ブラントゥン=モルトゥス博物館/市立版画業協館
59	コルネーリス・ハッレ(父)(ルーベンス原画)	ホロフェルネスの首を切り落とすユディット	1610年頃(?)	エンブレヴィング	52.1×37.6	ブラントゥン=モルトゥス博物館/市立版画業協館
60	作者不詳(ルーベンス原画のコルネーリス・ハッレ(父)の版画に基づく模写)	ホロフェルネスの首を切り落とすユディット		油彩・カンヴァス	61.5×40.4	スティッペルト美術館
61	ペーテル・パウル・ルーベンス	アレクサンドリアの聖カタリナ	1620-21年頃	エッチング	29.7×19.9	アントワープ王立美術館
62	リュカス・フォルステルマン(ルーベンス原画)	ソドムを去るロトとその家族	1620の年紀	エンブレヴィング	32.8×38.7	アントワープ王立美術館
63	リュカス・フォルステルマン(ルーベンス原画)	スザンナと長老たち	1620の年紀	エンブレヴィング	39.2×28.2	アントワープ王立美術館
64	リュカス・フォルステルマン(ルーベンス原画)	羊飼いの礼拝	1620の年紀	エンブレヴィング	29×44.5	アントワープ王立美術館
65	リュカス・フォルステルマン(ルーベンス原画)	聖家族のエジプトからの帰還	1620の年紀	エンブレヴィング	42×31.2	アントワープ王立美術館
66	リュカス・フォルステルマン(ルーベンス原画)	キリスト降架	1620の年紀	エンブレヴィング	58.5×43.5	アントワープ王立美術館
67	パウルス・ボンティウス(ルーベンス原画)	聖母マリアの被昇天	1624の年紀	エンブレヴィング	64.4×44.1	アントワープ王立美術館
68	パウルス・ボンティウス(ルーベンス原画)	トミュリスとキュロス	1630の年紀	エンブレヴィング	40.5×59	ブラントゥン=モルトゥス博物館/市立版画業協館
69	パウルス・ボンティウス(ルーベンス原画)	ルーベンスの肖像	1630の年紀	エンブレヴィング	37.8×28.5	ブラントゥン=モルトゥス博物館/市立版画業協館
70	ボエティウス・アダムスゾーン・ポルスウェルト(ルーベンス原画)	キリストの磔刑(槍の一突き)	1631の年紀	エンブレヴィング	60.7×43	ブラントゥン=モルトゥス博物館/市立版画業協館
71	スヘルテ・アダムスゾーン・ポルスウェルト(ルーベンス原画)	ライオン狩り		エンブレヴィング	43×59.2	ブラントゥン=モルトゥス博物館/市立版画業協館
72	スヘルテ・アダムスゾーン・ポルスウェルト(ルーベンス原画)	ヘロデの饗宴		エンブレヴィング	40.6×61	アントワープ王立美術館
73	スヘルテ・アダムスゾーン・ポルスウェルト(ルーベンス原画)、および同版画家(?)による加筆訂正	泉のそばの聖母子		エンブレヴィング、褐色のインクと白色のグワッシュ	29.8×24.1	アントワープ王立美術館
74	スヘルテ・アダムスゾーン・ポルスウェルト(ルーベンス原画)	泉のそばの聖母子		エンブレヴィング	29.8×24.1	アントワープ王立美術館
75	スヘルテ・アダムスゾーン・ポルスウェルト(ルーベンス原画)	奇蹟の漁り	1635-38年頃	エンブレヴィング	56.6×85	ブラントゥン=モルトゥス博物館/市立版画業協館
76	スヘルテ・アダムスゾーン・ポルスウェルト(ルーベンス原画)	井戸のある風景	1638の年紀	エンブレヴィング	28.7×41.8	ブラントゥン=モルトゥス博物館/市立版画業協館
77	スヘルテ・アダムスゾーン・ポルスウェルト(ルーベンス原画)	月明かりの風景		エンブレヴィング	32×44.5	アントワープ王立美術館
78	スヘルテ・アダムスゾーン・ポルスウェルト(ルーベンス原画)	マリアの教育		エンブレヴィング	44.6×32.7	アントワープ王立美術館
79	ピーテル・デ・ヨーデ(子)(ルーベンス原画)	ご訪問	1632-33年頃	エンブレヴィング	65.3×51	アントワープ王立美術館
80	クリストッフ・エル・イエーヘル(ルーベンス原画)	酔っ払ったシレノス		木版画	44.5×33.7	アントワープ王立美術館
81	クリストッフ・エル・イエーヘル(ルーベンス原画)	幼いキリストと子羊と戯れる洗礼者ヨハネ		木版画	33.8×45.8	アントワープ王立美術館
82	クリストッフ・エル・イエーヘル(ルーベンス原画)	エジプト逃避途上の休息		木版画	46×60.2	アントワープ王立美術館
83	クリストッフ・エル・イエーヘル(ルーベンス原画)、およびルーベンスによる加筆訂正	エジプト逃避途上の休息		木版画	46×60.2	アントワープ王立美術館
84	クリストッフ・エル・イエーヘル(ルーベンス原画)	エジプト逃避途上の休息		木版画	46×60.2	アントワープ王立美術館



近代自然主義絵画の成立 オランダ・ハーグ派展

【趣旨】

19世紀オランダのハーグで活動した「ハーグ派」と呼ばれる画家たちに焦点を当てた日本初の展覧会。ハーグ派は、フランスのバルビゾン派を手本としつつ、自国の風景画の伝統を新たな感性と技巧によって捉え直し、美しい海や空、そこでつましく生きる人々の日常を温かな眼差しで描き出した。それは、若き日のゴッホやモンドリアンにも強い影響を及ぼした。本展では、オランダのハーグ市立美術館の所蔵作品を中心に、クレラー＝ミュラー美術館や国内に所蔵されるバルビゾン派とゴッホの初期作品もあわせて紹介した。

【総括】

●評価すべき点

- ・ハーグ派に影響を受けたゴッホを導入として、展示会場の各所にゴッホの言葉を配した。それにより、馴染みの薄い画家たちへの関心を引きつけながら、ハーグ派の存在とその影響関係という本展の趣旨が一層理解されたと考える。
- ・パスポート形式の鑑賞資料を作成することで、鑑賞者にはオランダ各地を巡る感覚で、描かれた土地という視点から作品への関心を喚起させることができたと言える。

●検討課題

- ・展覧会企画会社とオランダ側との出品交渉の遅れから、広報と前売り期間が大幅に減少してしまった。さらに、県単独開催による広報予算の不足なども目標の観覧者数に及ばない結果要因となった。当初の計画どおりに開催できるよう、企画元との交渉及び情報収集がより強く求められる。

【開催日・その他】

＝2013年8月31日(出)～10月14日(月・祝)(39日間)＝

休館日：9/2、9/9、9/17、9/24、9/30、10/7

主催：新潟県立近代美術館

共催：NST

後援：オランダ王国大使館、オランダ政府観光局、長岡市、長岡市教育委員会、新潟オランダ協会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、FMながおか80.7、燕三条エフエム放送㈱

協力：KLMオランダ航空

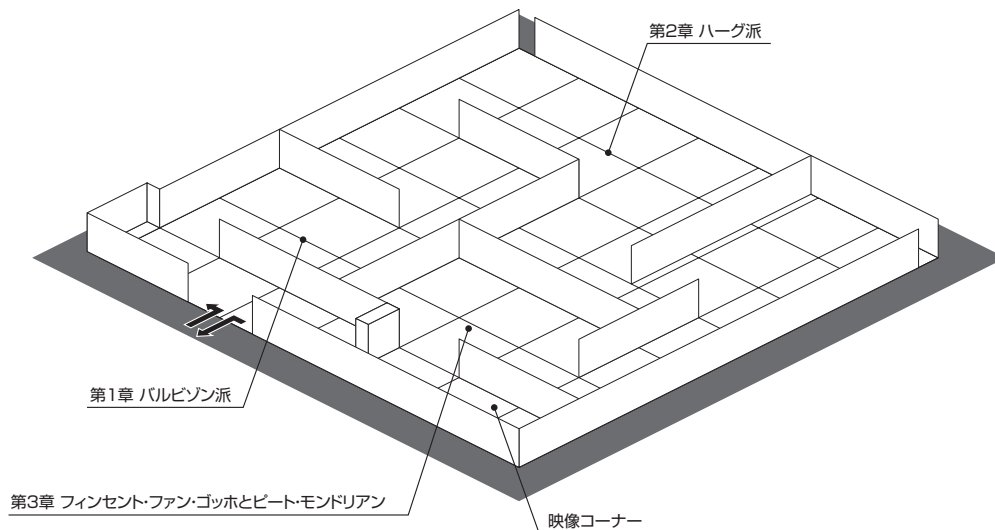
企画協力：株式会社プレーントラスト

観覧料：一般……………1,100円(900円)

大学・高校生……………900円(700円)

※中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金及び前売券料金

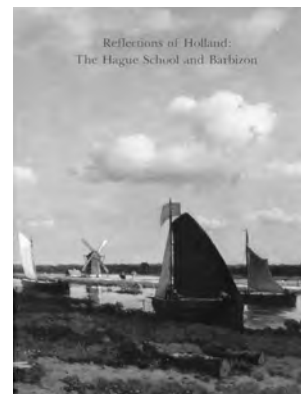


【関連行事】

- ・記念講演会
「ファン・ゴッホとハーグ派」
8月31日(土) 14:00～ 講堂
講師：古谷可由氏（公益財団法人ひろしま美術館学芸部長、本展日本側監修者）
参加者数：65名
- ・ワークショップ
「ゴッホ式・風景をつかまえよう」
9月29日(日) 13:00～ 講座室
講師：佐藤久美子（当館学芸課長代理）
参加者数：3名
- ・映画鑑賞会
「オランダの光」
9月7日(土)、16日(月・祝) 14:00～ 講堂
参加者数：84名
- ・ジュニア映画鑑賞会
「生涯をかけた情熱と表現 フィンセント・ファン・ゴッホ」
10月12日(土) 14:00～ 講堂
参加者数：35名
- ・作品解説会
会期中の日曜日 14:00～ 企画展示室内
参加者数：108名

【図録】

- 仕様：A4判 148頁
編集：(株)ブレントラスト
発行：「近代自然主義絵画の成立—オランダ・ハーグ派展」
カタログ委員会
内容：ごあいさつ
謝辞
「リフレクション：オランダへの影響、オランダからの影響～ハーグ派の新たな自然主義絵画について」アン・デュマ
「ハーグ派」ベンノ・テンベル、ハンス・ヤンセン
カタログ
- 1 序章：バルビゾン派
 - 2 ハーグ派
 - 3 終章：フィンセント・ファン・ゴッホとピート・モンドリアン
- 「オランダとフィンセント・ファン・ゴッホ」古谷可由
作家解説
ハーグ派関連年表
参考文献
出品リスト



【関連記事】

●新聞

9月17日 新潟日報
「オランダ・ハーグ派展」に寄せて／澤田佳三

その他 みつけ新聞 (8/15)
十日町タイムス (8/18)
十日町新聞 (8/22)
津南新聞 (8/30)
長岡新聞 (9/7)
新潟日報 (9/1、10/5)
信濃毎日新聞 (10/2)

●雑誌

2013年9月 月刊キャレル Vol.233
ゴッホの原点が分かる展覧会。オランダ・
ハーグ派展を観に行く。
2013年8月 季刊 新潟粹人 第16号
大人の秋旅 時空を超えて 美の旅、心の旅へ

●ラジオ

9月6日(金) FM PORT
Sw!tch

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	3,726
	前売	945
無料観覧者数	無料	2,825
	免除	504
総観覧者数		8,000
有料率 (%)		58.4

担当 澤田佳三



【出品リスト】

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦×横cm)	所蔵先
第1章 バルビゾン派						
1	ジョルジュ・ミシェル	パリ近郊の風景		油彩・カンヴァス	52.0×66.5	ハーグ市立美術館
2	ナルシス=ヴィルジル・ディアズ・ドラ・ペーニャ	フォンテーヌブローの榎の木(怒れる者)	1862	油彩・カンヴァス	71.4×93.5	山梨県立美術館
参考	ビエール=エティエンヌ・テオドール・ルソー	ボートに乗る人のいる夏の風景	1845頃	油彩・カンヴァス	76.0×96.0	当館
3	ビエール=エティエンヌ・テオドール・ルソー	山のなかの風景	1850頃	油彩・カンヴァス	90.5×117.3	ハーグ市立美術館
4	レオン=ヴィクトル・デュブレ	風景	1879	油彩・板	45.2×61.1	ハーグ市立美術館
5	シャルル=フランソワ・ドービニー	オワーズ河、イル・ド・ヴォーの夜明け	1869	油彩・カンヴァス	80.5×142.5	当館
6	シャルル=フランソワ・ドービニー	ブゾンの渡し舟	1850	エッチング・紙	11.9×19.2	ハーグ市立美術館
7	シャルル=フランソワ・ドービニー	茂み(ライスダールによる)	1855	エッチング・紙に薄紙	32.6×39.6	ハーグ市立美術館
8	シャルル=フランソワ・ドービニー	コウノトリのいる沼	1851	エッチング・紙に薄紙	15.1×21.6	ハーグ市立美術館
9	シャルル=フランソワ・ドービニー	鳥の群れる木々	1867	エッチング・紙に薄紙	18.3×27.8	ハーグ市立美術館
10	シャルル=フランソワ・ドービニー	舟のアトリエ(版画集『旅の舟』より)	1862	エッチング・紙	13.0×18.0	ハーグ市立美術館
11	ジャン=フランソワ・ミレー	母の幸せ		リトグラフ・紙	29.0×22.3	ハーグ市立美術館
12	ジャン=フランソワ・ミレー	羊飼いの女	1862	エッチング・紙	31.7×23.5	ハーグ市立美術館
13	ジャン=フランソワ・ミレー	海藻を集める人たち	1855	エッチング・ルレット紙	10.0×12.3	ハーグ市立美術館
14	シャルル=エミール・ジャック	豚の番人		エッチング・紙	8.6×15.5	ハーグ市立美術館
15	シャルル=エミール・ジャック	水飲み場		エッチング・紙	12.3×18.1	ハーグ市立美術館
参考	ジャン=パティスト=カミュー・コロ	ビプリ	1874-75	油彩・カンヴァス	113.5×152.5	当館
16	コンスタン・トロワイオン	近づく嵐	1859	油彩・カンヴァス	113.0×145.0	山梨県立美術館
参考	コンスタン・トロワイオン	りんごの取り入れ	1840頃	油彩・カンヴァス	52.0×71.0	当館
参考	アントニオ・フォンタネージ	ブジェイ高原	1858-60頃	油彩・カンヴァス	60.0×91.5	当館
参考	ジュリアン・デュブレ	羊飼い	1883頃	油彩・カンヴァス	148.0×207.0	当館
参考	ギュスターヴ・クールベ	エトルタ海岸、夕日	1869	油彩・カンヴァス	54.0×64.0	当館
17	ギュスターヴ・クールベ	ルー川源流にかかる橋の水車小屋	1863	油彩・カンヴァス	81.7×100.5	ハーグ市立美術館
18	ルイ=アドルフ・エルヴィエ	モンマルトルのムーラン・ドラ・ギャレット	1851-55	油彩・板	32.2×23.6	ハーグ市立美術館
19	ヨハン・バルトルト・ヨンキント	セーヌ河の月明かり	1855	油彩・カンヴァス	45.9×73.5	ハーグ市立美術館
20	ヨハン・バルトルト・ヨンキント	デルフトの眺め	1844	油彩・カンヴァス	23.3×31.6	ハーグ市立美術館
21	ヨハン・バルトルト・ヨンキント	シャトー・ミーウング	1878	油彩・カンヴァス	40.2×64.9	ハーグ市立美術館
第2章 ハーグ派						
1. 風景画						
22	ヴィレム・ルーロフス	ノールデンの5月	1882頃	油彩・板	20.1×42.2	ハーグ市立美術館
23	ヴィレム・ルーロフス	アプカウデ近く、風車のある干拓地の風景	1870頃	油彩・カンヴァス	47.1×74.6	ハーグ市立美術館
24	ヴィレム・ルーロフス	虹	1875	油彩・カンヴァス	57.7×110.8	ハーグ市立美術館
25	ヘラルト・ビルデルス	山のある風景(フランス、サヴォワ)	1858頃	油彩・板	70.0×100.6	ハーグ市立美術館
26	ヤン・ヘンドリック・ヴァイセンブルフ	トレックフリート	1870	油彩・カンヴァス	65.5×100.1	ハーグ市立美術館
27	ヤン・ヘンドリック・ヴァイセンブルフ	ハールレムの風景	1845-48	油彩・板	23.2×34.1	ハーグ市立美術館
28	ヤン・ヘンドリック・ヴァイセンブルフ	川の眺め		油彩・板	22.9×34.7	ハーグ市立美術館
29	ヤン・ヘンドリック・ヴァイセンブルフ	エルスハウト、舟のある川辺		油彩・紙、板で裏張り	27.0×37.5	ハーグ市立美術館
30	パウル・ハブリエル	干拓地の風景	1880-82	油彩・板	21.5×37.9	ハーグ市立美術館
31	ヴィレム・バステリアーン・トーレン	カーフの湖	1905	油彩・カンヴァス	22.5×31.0	ハーグ市立美術館
32	ヤコブ・マリス	絵を描く画家	1860頃	油彩・紙、板で裏張り	25.2×19.8	ハーグ市立美術館
33	ヤコブ・マリス	ハーグ近郊の菜園	1878頃	油彩・カンヴァス	64.0×55.0	ハーグ市立美術館
34	マタイス・マリス	オーステルベーク、デ・オールスプロングの森の景色	1860頃	油彩・カンヴァス	31.5×46.4	ハーグ市立美術館
35	マタイス・マリス	モンマルトル近くの石切り場	1871-73頃	油彩・カンヴァス	55.0×46.0	ハーグ市立美術館
36	マタイス・マリス	男の肖像(自画像?)		油彩・板	17.5×13.6	ハーグ市立美術館
2. 大地で働く農民						
37	マタイス・マリス	種をまく人(ミレーによる)	1883	エッチング・紙	50.0×40.0	ハーグ市立美術館
38	マタイス・マリス	糸を紡ぐ女		油彩・紙	24.5×22.0	ハーグ市立美術館
39	パウル・ハブリエル	ヒースの荒野にある小屋	1879	油彩・板	32.1×56.0	ハーグ市立美術館
3. 家畜のいる風景						
40	ヘラルト・ビルデルス	干拓地の風景のなかの牝牛(オーステルベーク)	1857頃	油彩・板にカンヴァス	44.5×62.5	ハーグ市立美術館
41	ヴィレム・マリス	口バの番をする少年	1865	油彩・カンヴァス	67.4×115.4	ハーグ市立美術館

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦×横cm)	所蔵先
42	ヴィレム・マリス	水飲み場の仔牛たち	1863	油彩・カンヴァス	36.0×63.0	ハーグ市立美術館
43	アントン・マウフェ	船を引く4頭の馬		油彩・板	19.5×32.0	ハーグ市立美術館
44	ヴィレム・マリス	泳ぎの練習	1880頃	油彩・カンヴァス	59.2×111.9	ハーグ市立美術館

4.室内と生活

45	ヨーゼフ・イスラエルス	日曜の朝	1880	油彩・板	40.5×28.3	ハーグ市立美術館
46	ヨーゼフ・イスラエルス	縫い物をする若い女	1880頃	油彩・カンヴァス	83.5×58.0	ハーグ市立美術館
47	ベルナルデス・ヨハネス・ブロンメルス	室内	1872	油彩・カンヴァス	47.3×40.8	ハーグ市立美術館
48	アルベルト・ヌウハウス	母と子どもたち		油彩・板	32.0×24.5	ハーグ市立美術館
49	アントン・ファン・ラッパルト	ヴェスト＝テルスヘリングの老婦たちの家	1884	油彩・カンヴァス	24.0×45.5	ハーグ市立美術館
50	マタイス・マリス	出会い(仔ヤギ)	1865頃	油彩・板	14.8×19.7	ハーグ市立美術館
51	ヴィレム・デ・スヴァルト	版画集を見る	1894	油彩・カンヴァス	64.0×57.0	ハーグ市立美術館
52	アントン・マウフェ	ラーレンの女と仔羊	1885	油彩・カンヴァス	50.0×75.0	ハーグ市立美術館

5.海景画

53	アンドレアス・スヘルフハウト	スヘフェニンゲンの浜辺と船	1840	油彩・板	20.5×26.0	ハーグ市立美術館
54	ヤン・ヘンドリック・ヴァイセンブルフ	浜辺の景色	1887	油彩・カンヴァス	72.8×102.9	ハーグ市立美術館
55	ヘンドリック・ヴィレム・メスダッハ	オランダの海岸沿い	1885	油彩・カンヴァス	79.0×141.0	ハーグ市立美術館
56	ヤコブ・マリス	漁船	1878	油彩・カンヴァス	124.0×105.0	ハーグ市立美術館
57	フィリップ・サデー	貧しい人たちの運命	1901	油彩・カンヴァス	78.0×123.0	ハーグ市立美術館
58	ベルナルデス・ヨハネス・ブロンメルス	浜辺		油彩・カンヴァス	75.0×125.0	ハーグ市立美術館
59	ヨーゼフ・イスラエルス	エビをとる人	1900頃	油彩・板	39.0×23.0	ハーグ市立美術館
60	ヨーゼフ・イスラエルス	漁師の女		油彩・板	42.2×28.8	ハーグ市立美術館
61	ヴィレム・マリス	浜辺の口バ	1865頃	油彩・カンヴァス	38.1×54.7	ハーグ市立美術館

第3章 フィンセント・ファン・ゴッホとピート・モンドリアン

62	アントン・マウフェ	自画像	1884-88	油彩・カンヴァス	65.0×43.0	ハーグ市立美術館
63	フィンセント・ファン・ゴッホ	ヘースト街のパン屋	1882	ペン、鉛筆・紙	20.9×33.7	ハーグ市立美術館
64	フィンセント・ファン・ゴッホ	ほうきを持つ若い男	1882	鉛筆・紙	45.0×30.0	ハーグ市立美術館
65	フィンセント・ファン・ゴッホ	長い棒を持つ農婦	1885	油彩・カンヴァス	38.5×26.5	当館に寄託
66	フィンセント・ファン・ゴッホ	白い帽子をかぶった農婦の顔	1884-85	油彩・カンヴァス	44.0×35.9	クレラー＝ミュラー美術館
67	フィンセント・ファン・ゴッホ	じゃがいもを掘る2人の農婦	1885	油彩・カンヴァス	31.5×42.5	クレラー＝ミュラー美術館
68	フィンセント・ファン・ゴッホ	じゃがいもを食べる人たち		リトグラフ・紙	26.4×32.1	ハーグ市立美術館
69	ピート・モンドリアン	アムステルダム東、オーストザイゼの風車	1907頃	油彩・カンヴァス	75.0×63.0	ハーグ市立美術館
70	ピート・モンドリアン	ドンビュルクの風車	1908	油彩・厚紙	76.5×63.5	ハーグ市立美術館
71	ピート・モンドリアン	夕暮れの風車	1917頃	油彩・カンヴァス	103.0×86.0	ハーグ市立美術館
72	ピート・モンドリアン	ダイフェンドレヒトの農場	1916頃	油彩・カンヴァス	85.5×108.5	ハーグ市立美術館



館長 庵野秀明 特撮博物館 ミニチュアで見ると昭和平成の技

【趣旨】

「エヴァンゲリオン新劇場版:Q」の大ヒットでも知られる庵野秀明の原点は「特撮」である。円谷英二が始めた世界に誇る日本の特撮は、デジタル技術の発展とともに岐路に立たされ、貴重なミニチュア類は散逸しつつある。

本展ではこの状況を憂慮した庵野秀明自らが館長となり、実際に使用されたミニチュアやデザイン画など約500点を、企画展示室だけでなく常設展示室も使用して紹介した。

また、庵野秀明企画、樋口真嗣監督によるスタジオジブリ製作オリジナル特撮短編映画（展覧会版）「巨神兵東京に現わる」を併せて公開した。

【総括】

●評価すべき点

- ・中高年層の観覧比率が高く、また男女比も男性の方が高かった。その点で特撮で育った中高年層に強くアピールしたことがわかり、アンケートでは、97.3%という高い満足度を得ることができた。また、普段、美術館に足が向かない層の裾野を広げることができた。

●検討課題

- ・観覧者数が当初目標の7割にとどまった。
- ・特撮自体の違いが分からない観覧者の年代ギャップや、巨神兵像に対する小さい子どもたちの恐怖心を解消することができず、広報物に制約がある中、アミューズメント的イベントに関心を持っている子どもたちや女性層を取り込む仕掛けづくりをいかにしていくかが多数の動員を図ることになる。

【開催日・その他】

＝2013年11月8日(金)～2014年1月21日(火) (62日間)＝
休館日：月曜日、12/29～1/1、1/14

ただし12/23、1/13、1/20は開館

主催：「特撮博物館」新潟展実行委員会、新潟県立近代美術館、TeNYテレビ新潟

企画制作協力：スタジオジブリ、三鷹の森ジブリ美術館

展示コーディネーター：原口智生/西村祐次

特別協力：東宝、円谷プロダクション、角川書店、ピープロダクション、宣弘社、手塚プロダクション、本多プロダクション、Eternal Universe

協力：特撮研究所、早稲田大学芸術科学センター安藤紘平研究室、ウォルト・ディズニー・スタジオ・ジャパン、グッドスマイルカンパニー、原口智生コレクション、M1号、カラー、長岡造形大学

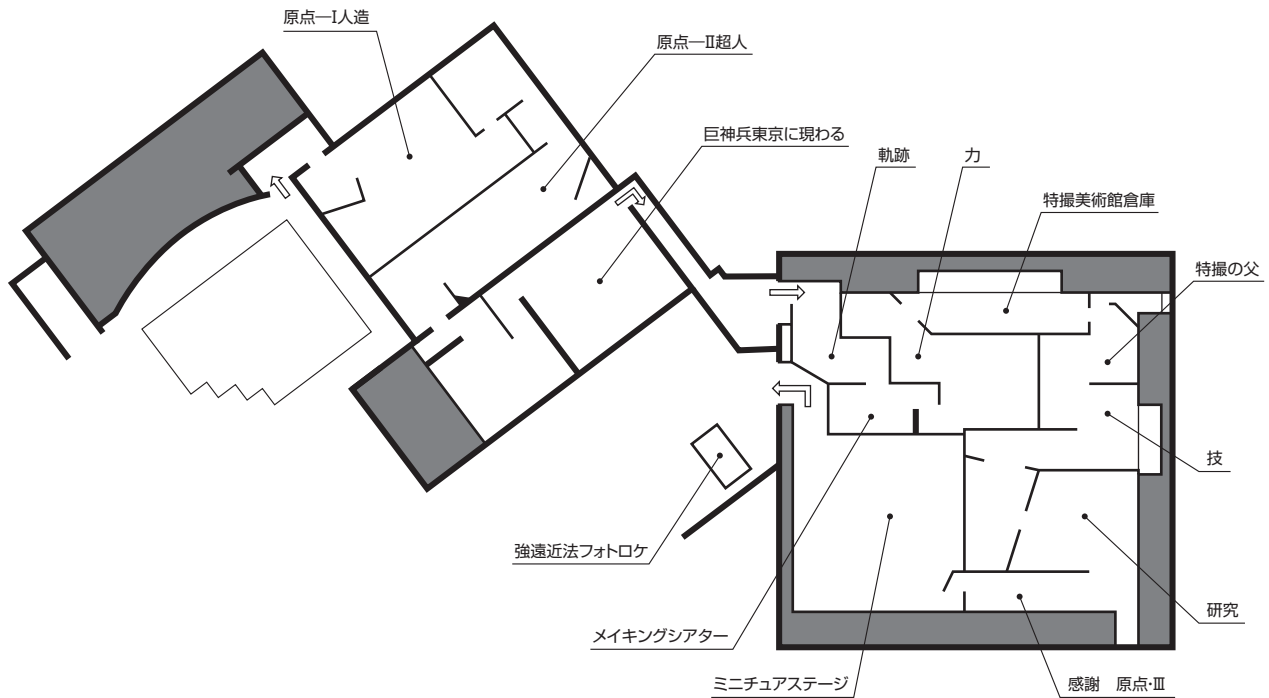
後援：長岡市、長岡市教育委員会、新潟県小学校長会・中学校長会・特別支援学校長会、新潟県高等学校長協会、新潟日报社、読売新聞新潟支局、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0

観覧料：一般……………1,300円 (1,000円)

大学・高校生……………1,100円 (900円)

※中学生以下は無料

※()内は有料20名以上の団体料金及び前売券



【関連行事】

- ・強遠近法ミニチュアセット先行展示
8月28日(水)～10月14日(月) エントランスホール
- ・記者会見
9月25日(水) 17:30～18:30 エントランスホール
登壇者：庵野秀明（特撮博物館館長／映画監督）
樋口真嗣（特撮博物館副館長／映画監督）
尾上克郎（株式会社特撮研究所専務取締役／特撮監督）
参加数：15社
- ・特撮塾@いかにた 特撮を語ろう、未来に向けて
11月9日(土) 13:00～15:00 講堂
主催：文化庁、「特撮博物館」新潟展実行委員会、新潟県立近代美術館、TeNYテレビ新潟
スピーカー：
尾上克郎（株式会社特撮研究所専務取締役／特撮監督）
原口智生（映画監督・特技監督・造形師）
樋口真嗣（映画監督）
三池敏夫（株式会社特撮研究所／特技監督）
参加者数：146名
- ・撮影会
ウルトラマン撮影会
11月30日(土) 10:30～11:00／12:00～12:30／
13:30～14:00／15:00～15:30
参加者数：700名
ウルトラセブン撮影会
12月14日(土) 10:30～11:00／12:00～12:30／
13:30～14:00／15:00～15:30
参加者数：600名

- ・館長庵野秀明、副館長樋口真嗣セレクション円谷プロ特撮作品上映会
12月7日(土) 10:00～11:30／14:00～15:30 講堂
参加者数：69名／69名
- ・樋口真嗣さんと行く長岡 特撮展と特撮の魅力を知る旅
2014年1月19日(日)～1月20日(月)
主催：博報堂、JTB、Stitch、「特撮博物館」新潟展実行委員会、新潟県立近代美術館、TeNYテレビ新潟
参加者数：2名

【図録】

- 『館長 庵野秀明 特撮博物館』
- はじめに
ようこそ、空想特撮映像の素晴らしき世界へ／庵野秀明
ご挨拶／樋口真嗣
されど、われらが日々／鈴木敏夫
インタビュー／庵野秀明
ミニチュア特撮の意義—その原点と本質／氷川竜介
インタビュー：飯島敏宏・池谷仙克・三池敏夫・大岡新一
特別インタビュー／矢島信男
原点 I 人造
原点 II 超人
カ
特撮美術倉庫
特撮の父
技
研究
スタジオ再現
特撮の仕事

付記

館長 庵野秀明のコメント

副館長 樋口真嗣の展示解説

デザイナー 石森達也の特撮美術倉庫図解

「ウルトラマンになった男」と「ウルトラマンになりたかった男」／古谷敏×庵野秀明

庵野秀明監督の執念が支えた復元作業／原口智生

昭和特撮と歩んだ道 ～それは怪獣博から始まった～／西村祐次

ミニチュアに見る円谷特撮の魅力／池田憲章

庵野さんと初めて逢ったのは砵の怪獣倉庫だった。／桜井浩子

来たるべき特撮博物館の開館によせて／森山朋絵

展示物リスト

展示スタッフ

『巨神兵東京に現わる』(分冊)

解説

企画意図として／庵野秀明

ルーツ・イメージビルディング・イメージスケッチ・画コン

テ・巨神兵イメージデザイン・雛形造形・メカニカル造形・

巨神兵造形

特撮の秘密

STAFF INTERVIEW

『巨神兵東京に現わる』制作日誌／尾上克郎

オレもミニチュア特撮を撮ってみたい!と思わせたい。／樋口真嗣



【関連記事】

●新聞

10月6日 読売新聞

交差点 特撮を守れ／藤本宏

その他 新潟日報(9/22、11/8、12/27)

読売新聞

(9/26、11/6、11/9、12/4、1/6、1/12)

長岡よみうり(11/20、12/25、1/12)

十日町タイムス(10/18)

十日町新聞(10/17)

村上新聞(10/27)

栃尾タイムス(11/5、11/15)

朝日新聞(11/18)

上毛新聞(11/5)

長岡新聞(11/21)

妻有新聞(11/29)

●雑誌

月刊にいがた11月号

「INTERVIEW 庵野秀明／樋口真嗣／尾上克郎」

WEEK!10月18日号

「HUMAN 尾上克郎×庵野秀明／樋口真嗣」

月刊山形ZERO23 11月号

「特撮博物館 記者会見」

財界にいがた11月号

WEEK11月15日号

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	46,672
	前売	6,251
無料観覧者数	無料	22,134
	免除	2,186
総観覧者数		77,136
有料率(%)		68.4

担当 松矢国憲



生誕120年 岩田正巳展 新興大和絵、その清澄なる世界

【趣旨】

現在の三条市に生まれた日本画家・岩田正巳(1893～1988)は松岡映丘に師事し、「新興大和絵会」(大正10年)、「国画院」(昭和10年)を結成する一方、官展にも出品、戦後はほぼ毎年日展に出品を続け、温雅で格調高い画風を確立した。本展では、正巳の代表作を県内外から可能な限り集め、師・映丘や山口蓬春ら関連作家の作品も併せて紹介することで、「新興大和絵運動」における正巳の位置づけにも光を当てた。

【総括】

●評価すべき点

- ・戦前期に比重を置いた初の本格的な回顧展を実現し、かつ資料的価値の高い図録を作成できた。
- ・三条市や民間の識者等と連携しながら作品調査を進めることができた。

●検討課題

- ・県内で同一作家の展示が相次ぎ、県内主要メディアに広報の働きかけを行ったが十分な協力が得られなかったこともあり、目標の入場者数には遠く及ばなかった。当館として自主企画展を続けていくために、広報戦略の練り直しが必要。
- ・所在をつき止められなかった戦前作品が多数あり、今後の作家研究が必要。

【開催日・その他】

＝2014年3月1日(土)～4月13日(日) (38日間)＝

休館日：月曜日

主催：新潟県立近代美術館

後援：長岡市、長岡市教育委員会、新潟日报社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新潟、FMながおか80.7、燕三条エフエム放送株

協力：三条市、三条市歴史民俗産業資料館、三條新聞社

観覧料：一般……………1,000円(800円)

大学・高校生……………800円(600円)

※中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金及び前売券料金

【関連行事】

・美術鑑賞講座

『「新興大和絵」の時代』

3月22日(土)14:00～ 講堂

講師：長嶋圭哉(当館主任学芸員)

参加者数：42名

・映画鑑賞会

「せたがや文化人・人と風土 岩田正巳」

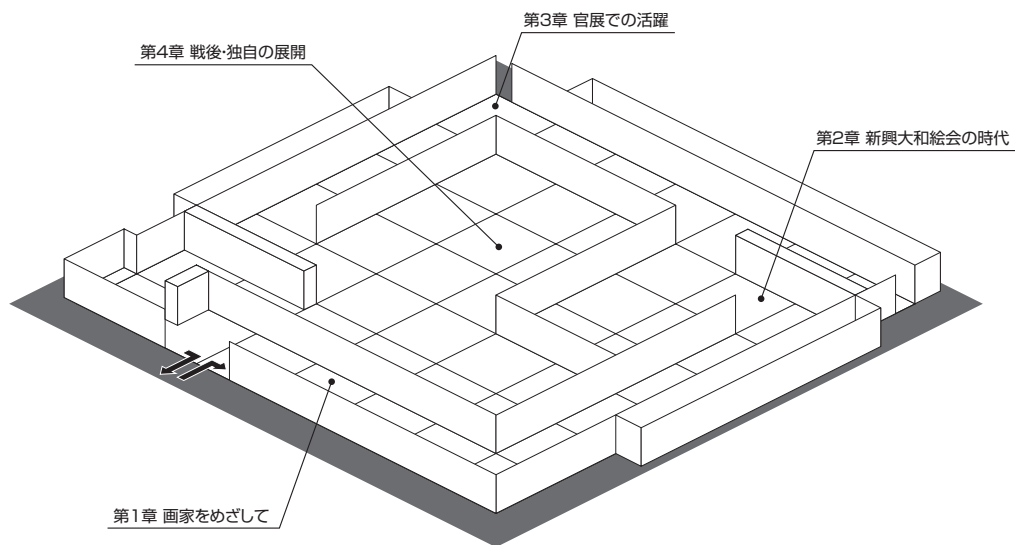
3月29日(土) 14:00～ 講堂

参加者数：9名

・作品解説会

3月2日(日) / 3月9日(日) / 3月23日(日)

参加者数：20名 / 10名 / 10名



【図 録】

仕 様：A4判変形（28.0×22.5cm） 本文151頁

編 集：新潟県立近代美術館

発 行：新潟県立近代美術館

内 容：ごあいさつ

謝辞

むかしのものを描いても、生きたものをかきたい

—岩田正巳の人と作品／長嶋圭哉

図版

第1章 画家をめざして

第2章 新興大和絵会の時代

—風景との出会い

第3章 官展での活躍

—歴史画家としてのあゆみ

第4章 戦後・独自の展開

参考図版（戦前期の美術雑誌等に掲載された岩田正巳作品）

新潟県立近代美術館・万代島美術館所蔵 岩田正巳大下

絵一覧

岩田正巳関連写真

年譜

参考文献一覧

自伝「雪をふんで」

出品目録



【関連記事】

●新聞

12月19日 三條新聞
特集記事（《大和路の西行》搬出）

3月1日 三條新聞
特集記事（開場式）

3月14日 新潟日報
ミュージアムへようこそ／長嶋圭哉

その他 みつけ新聞（2/20）
十日町新聞（2/20）
妻有新聞（2/21）
栃尾タイムス（2/15）
長岡新聞（2/18、3/11）
越南タイムズ（3/6）
新潟日報（3/11）

●テレビ

3月30日 NHK Eテレ
日曜美術館 アートシーン

●ラジオ

3月27日 FM-NIIGATA
サウンドスブラッシュ auプラチナ・スポット
セレクション

【観覧者数】

※3/1～3/31

有料観覧者数	当日	1,471
	前売	136
無料観覧者数	無料	768
	免除	176
総観覧者数		2,551
有料率 (%)		62

担当 長嶋圭哉



【出品リスト】

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	形状	寸法(縦×横cm)	所蔵先
第1章 画家をめざして							
1	岩田正巳	暮林清流	大正元年 (1912)	紙本墨画淡彩	軸装	128.0×61.5	
2	岩田正巳	木蘭征戎之図	大正5年 (1916)	絹本彩色	軸装	128.0×80.5	
3	岩田正巳	春	大正6年 (1917)頃	絹本彩色	軸装	137.7×62.4	東京藝術大学
4	岩田正巳	散華	大正7年 (1918)	絹本彩色	軸装	47.9×70.6	
5	岩田正巳	魏の節乳母	大正7年 (1918)	絹本彩色	二曲一双屏風	各157.1×163.5	東京藝術大学
6	岩田正巳	禁苑の大宮人	大正8年 (1919)	絹本彩色	軸装	122.0×41.6	
7	岩田正巳	阿弥陀聖衆来迎図 模写	大正7年 (1918)以前	紙、墨、彩色	軸装	205.4×205.8	
8	岩田正巳	仏画模写(8点)	制作年不明	紙、鉛筆、墨、彩色/ 紙、鉛筆、墨/ 紙、鉛筆、墨/ 紙、鉛筆、墨/ 紙、鉛筆、墨/ 紙、鉛筆、墨/ 紙、鉛筆、墨、彩色	まくり	28.0×40.5/ 27.2×39.0/ 19.7×27.6/ 39.3×27.5/ 39.0×27.3/ 39.8×27.9/ 39.8×27.8/ 28.0×40.0	三条市歴史民俗産業資料館
9	岩田正巳	法然上人絵伝 模写	制作年不明	紙、墨、彩色	卷子装	32.4×102.5/ 32.4×103.6	三条市歴史民俗産業資料館
10	岩田正巳	法然上人絵伝 模写	制作年不明	紙、墨、彩色	額装	22.0×25.0	三条市歴史民俗産業資料館
11	岩田正巳	法然上人絵伝 模写	制作年不明	紙、墨、彩色	額装	39.4×44.7	中野邸美術館
12	岩田正巳	法然上人絵伝 模写	制作年不明	紙、墨、彩色	額装	36.8×63.7	中野邸美術館
13	岩田正巳	法然上人絵伝 模写	制作年不明	紙、墨、彩色	額装	36.7×90.8	中野邸美術館
14	岩田正巳	法然上人絵伝 模写	制作年不明	紙、墨、彩色	額装	37.0×100.0	中野邸美術館
15	岩田正巳	法然上人絵伝 模写	制作年不明	紙、墨、彩色	額装	37.0×121.2	中野邸美術館
16	岩田正巳	若武者之絵	制作年不明	紙、墨、彩色	額装	71.3×47.2	中野邸美術館
17	狩野政次郎(光雅)	那智	大正8年 (1919)	絹本彩色	軸装	203.3×65.0	東京藝術大学
18	遠藤教三	斜陽	大正10年 (1921)	絹本彩色	軸装	100.3×139.2	東京藝術大学
19	高木保之助	那須野の秋	大正8年 (1919)	絹本彩色	二曲一双屏風	各175.5×171.0	東京藝術大学
第2章 新興大和絵会の時代—風景との出会い							
20	岩田正巳	初秋	大正12年 (1923)	絹本彩色	額装	84.5×62.0	
21	岩田正巳	霧たつころ(霧たつあさ)	大正12年 (1923)	絹本彩色	額装	70.8×82.2	
22	岩田正巳	初夏のさへづり 大下絵	大正12年 (1923)頃	紙、鉛筆、墨	額装	162.9×149.8	当館
23	岩田正巳	手向の花 大下絵	大正13年 (1924)頃	紙、墨、彩色	額装	220.4×86.9	当館
24	岩田正巳	武蔵野の秋 大下絵	大正14年 (1925)頃	紙、鉛筆、彩色	額装	167.9×164.6	当館
25	岩田正巳	十六夜日記より 大下絵	大正15年 (1926)頃	紙、墨、彩色	額装	269.2×117.4	当館
26	狩野光雅・ 春木一郎・ 岩田正巳・ 白井剛夫・ 木嶋柳鷗・ 服部有恒・ 吉村忠夫・ 山口蓬春(詞書 岩田正巳)	草枕絵巻(三巻のうち第一巻)	大正15年 (1926)	絹本彩色	卷子装	28.3×788.0	奈良国立博物館
27	岩田正巳	夕映え(夕ばえ)	昭和2年 (1927)	絹本彩色	軸装	51.5×71.7	
28	岩田正巳	雪のあした	昭和2年 (1927)	絹本彩色	軸装	125.0×40.8	
29	岩田正巳	春日垂跡	昭和2年 (1927)	絹本彩色	額装	258.0×139.0	当館
30	岩田正巳	鎌倉(日本新名勝図絵のうち)	昭和2年 (1927)	紙、木版画	額装	23.0×32.0	三条市歴史民俗産業資料館

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	形状	寸法(縦×横cm)	所蔵先
31	岩田正巳	比叡	昭和3年 (1928)頃	絹本彩色	額装	68.5×84.5	
32	岩田正巳	草徒美	昭和4年 (1929)	絹本彩色	軸装	32.0×45.5	雪梁舎美術館
33	岩田正巳	尾津の一つ松	昭和5年 (1930)	絹本彩色	六曲一双屏風	各168.8×362.4	
34	岩田正巳	月下舟遊弾弦	制作年不明	絹本彩色	六曲一隻屏風	141.5×278.0	中野邸美術館
35	岩田正巳	海の見える風景	制作年不明	絹本彩色	二曲一隻屏風	106.0×105.6	中野邸美術館
36	松岡映丘	伊香保の沼	大正14年 (1925)	絹本彩色	軸装	202.3×131.5	東京藝術大学
37	松岡映丘	さつきまつ浜村	昭和3年 (1928)	絹本彩色	六曲一隻屏風	101.5×189.0	
38	穴山勝堂	秋景山水	大正12年 (1923)	絹本彩色	四曲一隻屏風	137.5×218.0	山梨県立美術館
39	穴山勝堂	松林秋月	大正14年 (1925)	絹本彩色	額装	55.6×93.5	山梨県立美術館
40	山口蓬春	初夏の頃	大正13年 (1924)	絹本彩色	二曲一隻屏風	163.0×143.0	山口蓬春記念館
41	山口蓬春	秋二題	大正13年 (1924)	絹本彩色	二曲一隻屏風 仕立て	各97.0×130.0	常楽寺美術館

第3章 官展での活躍—歴史画家としてのあゆみ

42	岩田正巳	初陣	昭和3年 (1928)	絹本彩色	軸装	42.7×56.1	
43	岩田正巳	画帳	昭和5年 (1930)頃	紙、鉛筆／紙、鉛筆、 彩色	冊子	37.4×27.0	三条市歴史民俗産業資料館
44	岩田正巳	高野草創	昭和5年 (1930)	絹本彩色	軸装	248.5×172.8	親王院
45	岩田正巳	神功皇后	昭和6年 (1931)	絹本彩色	額装	260.0×150.0	新潟市美術館
46	岩田正巳	観世音菩薩	昭和8年 (1933)	絹本彩色	軸装	127.0×41.8	
47	岩田正巳	大和路の西行 大下絵	昭和9年 (1934)頃	紙、鉛筆、色鉛筆	額装	217.8×155.2	当館
48	岩田正巳	大和路の西行	昭和9年 (1934)	絹本彩色	額装	207.5×153.5	三條新聞社
49	岩田正巳	浜名をわたる源九郎義経	昭和11年 (1936)	絹本彩色	額装	147.0×209.0	当館
50	岩田正巳	磯山路	昭和11年 (1936)	絹本彩色	軸装	131.2×36.0	
51	岩田正巳	織田信長の勤皇	昭和13年 (1938)	紙本彩色	額装	151.0×181.0	神宮徴古館
52	岩田正巳	牛若	昭和14年 (1939)	絹本彩色	二曲一隻屏風	142.2×151.0	
53	岩田正巳	木下藤吉郎	昭和14年 (1939)	絹本彩色	額装	221.8×110.0	馬場幸一氏
54	岩田正巳	忠盛	昭和16年 (1941)	絹本彩色	額装	123.0×131.0	三条信用金庫
55	岩田正巳	運慶	昭和17年 (1942)	絹本彩色	額装	59.5×72.0	東京国立近代美術館
56	岩田正巳	剣の舞(月に躍る)	昭和17年 (1942)	絹本彩色	軸装	150.5×136.8	雪梁舎美術館
57	岩田正巳	聖僧日蓮	昭和19年 (1944)	絹本彩色	軸装	68.0×88.0	馬場幸一氏
58	岩田正巳	吉田松陰	昭和19年 (1944)	絹本彩色	額装	144.0×107.0	馬場幸一氏
59	岩田正巳	竹生鳥詣	制作年不明	絹本彩色	軸装	47.5×63.4	三条市歴史民俗産業資料館
60	岩田正巳	静御前	制作年不明	絹本彩色	軸装	113.6×34.3	
61	岩田正巳	五郎正宗	制作年不明	絹本彩色	軸装	56.5×65.3	馬場幸一氏
62	岩田正巳	義家初陣	制作年不明	絹本彩色	軸装	130.5×42.0	
63	松岡映丘	屋島の義経	昭和4年 (1929)	絹本彩色	額装	188.0×99.5	東京国立近代美術館
64	松岡映丘	矢表	昭和12年 (1937)	紙本彩色	六曲一双屏風	各163.9×369.1	姫路市立美術館
65	松岡映丘	後鳥羽院と神崎の遊女達	昭和12年 (1937)	紙本彩色	軸装	60.3×75.0	東京国立近代美術館

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	形状	寸法(縦×横cm)	所蔵先
第4章 戦後・独自の展開							
66	岩田正巳	愛犬 小下絵	昭和22年 (1947)頃	紙、鉛筆、色鉛筆	額装	24.5×11.4	
67	岩田正巳	愛犬	昭和22年 (1947)	絹本彩色	額装	192.0×105.0	
68	岩田正巳	第一步	昭和23年 (1948)	絹本彩色	軸装	168.3×98.5	
69	岩田正巳	少女	昭和24年 (1949)頃	絹本彩色	額装	69.8×67.7	燕市
70	岩田正巳	花さす人	昭和25年 (1950)	紙本彩色	額装	228.0×86.5	当館
71	岩田正巳	初夏(婦人像)	昭和25年 (1950)頃	絹本彩色	額装	68.0×72.0	馬場幸一氏
72	岩田正巳	幸若	昭和29年 (1954)	紙本彩色	額装	114.5×84.0	
73	岩田正巳	夢の姫君	昭和29年 (1954)	紙本彩色	額装	185.0×122.0	当館
74	岩田正巳	いかづち	昭和30年 (1955)	紙本彩色	額装	202.8×157.0	当館
75	岩田正巳	青夜	昭和32年 (1957)	紙本彩色	額装	153.7×108.0	BSN新潟放送
76	岩田正巳	夢	昭和33年 (1958)	紙本彩色	額装	77.0×57.5	
77	岩田正巳	瓜	昭和33年 (1958)	紙本彩色	額装	68.0×53.0	
78	岩田正巳	南風舞曲	昭和34年 (1959)	紙本彩色	額装	180.0×164.0	三条市
79	岩田正巳	石仏	昭和35年 (1960)	紙本彩色	額装	196.5×125.0	三条信用金庫
80	岩田正巳	備Ⅳ	昭和37年 (1962)	紙本彩色	額装	150.0×110.0	BSN新潟放送 (新潟市美術館寄託)
81	岩田正巳	李さんと七面鳥	昭和41年 (1966)	紙本彩色	額装	195.5×125.5	東京慈恵会医科大学
82	岩田正巳	春昼	昭和43年 (1968)	紙本彩色	額装	168.0×126.8	敦井美術館(新潟市)
83	岩田正巳	浴(印度ベナレス水浴)	昭和45年 (1970)	紙本彩色	額装	171.0×101.5	東京都現代美術館
84	岩田正巳	女神	昭和46年 (1971)	紙本彩色	額装	181.5×106.0	三条信用金庫
85	岩田正巳	鶯一将愛鳥鶯の美声をよろこぶ	昭和54年 (1979)	紙本彩色	額装	149.5×104.4	三条信用金庫
86	岩田正巳	夢	昭和57年 (1982)	紙本彩色	額装	142.0×142.0	当館
87	岩田正巳	供養の女達	昭和58年 (1983)	紙本彩色	額装	107.0×146.0	三条市
88	岩田正巳	面(能面)	昭和61年 (1986)	紙本彩色	額装	138.8×93.6	世田谷美術館
89	岩田正巳	瑞鳥とかたる 大下絵	昭和62~63年 (1987~88)	紙、鉛筆、色鉛筆、彩色	額装	135.0×99.0	三条市歴史民俗産業資料館
90	岩田正巳	画帳	制作年不明	紙、鉛筆／紙、鉛筆、 色鉛筆／紙、鉛筆、 色鉛筆／紙、鉛筆	冊子	34.0×25.0	三条市歴史民俗産業資料館
91	岩田正巳	画帳	制作年不明	紙、鉛筆／紙、鉛筆、 ／紙、鉛筆、色鉛筆	冊子	43.4×29.5(見開き)	三条市歴史民俗産業資料館
資料		肇国創業絵巻複製					三条市歴史民俗産業資料館
資料		スクラップブック(7冊)					中野邸美術館
資料		画材類					三条市歴史民俗産業資料館
資料		正巳による装丁本・挿絵					

共催展

新潟の風景～未来への記録

【趣旨及び総括】

写真家・天野尚が長年にわたって大判カメラで撮り続けてきた新潟の姿を、視力6.0に相当する精細な超特大写真パネルで紹介した。

精細な大画面は迫力があり、話題性も相まって、多くの観覧者を呼び、また撮影者のギャラリートークも大盛況であった。その一方で、作家の希望により大画面の作品を数多く展示したため、やや窮屈な印象があり、またキャプションの位置が見にくくなるなどの支障が出る等の課題が残った。

【開催日・その他】

=2013年6月8日(土)～6月23日(日) (15日間) =

主催：新潟の風景展実行委員会、BSN新潟放送、新潟日报社、新潟県立近代美術館

協賛：大光銀行

後援：長岡市、長岡市教育委員会、柏崎市教育委員会、小千谷市教育委員会、新潟県観光協会、JR東日本新潟支社

企画協力：株式会社アクアデザインアマン

観覧料：当日券……………500円

前売券……………400円

※中学生以下無料

会場：新潟県立近代美術館コレクション展示室

【関連行事】

・天野尚ギャラリートーク

6月8日(土) 11:00～

6月16日(日) 11:00～/14:00～

会場：コレクション展示室

講師：天野尚

担当 宮下東子

第68回新潟県美術展覧会 長岡展

【趣旨及び総括】

第68回を迎えた県展では、日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、書道、写真の7部門に、4,105人4,105点の応募があり、入賞作品54点、入選作品1,085点が選ばれた。

長岡展では、入賞作品、長岡市及び周辺地域の入選作品、並びに審査員、委員の作品、無鑑査作品を展示した。

【開催日・その他】

=2013年6月12日(水)～6月18日(火) (7日間) =

主催：新潟日报社、新潟県、新潟県教育委員会、新潟市、長岡市、上越教育委員会、佐渡市教育委員会

後援：新潟市教育委員会、長岡市教育委員会、上越市、柏崎市教育委員会、佐渡市、(財)新潟日報美術振興財団

入場料：一般450円、大学生以下無料

審査員：日本画：清水由朗、宮城真

洋画：絹谷幸二、長谷川功

版画：磯見輝夫、古谷博子

彫刻：大塚道男、柴田良貴

工芸：加藤令吉、宮田亮平

書道：市澤静山、古谷稔

写真：鬼海弘雄、野町和嘉

【関連行事】

・作品解説会

6月12日 村山徳成(洋画)、河面元(工芸)

6月13日 今井厚(洋画)、菊地美秋(日本画)

6月14日 荒川希伊(書道)、小川宏(版画)

6月15日 石丸雨虹(書道)、平澤実知雄(写真)

6月16日 目黒煌人(書道)、佐藤海雲(書道)、松本保忠(彫刻)、関登美恵(日本画)

6月17日 池山阿有(洋画)、渡辺寿(洋画)

・講座

写真講座「基礎から学ぶ写真教室」

6月13日(水) 13:00～14:00 講座室

講師：田辺千勝氏(県展委員)

6月15日(土) 13:00～14:00 講座室

講師：平澤実知雄氏(県展委員・無鑑査作家)

担当：青木善治

第43回世界児童画展

【趣旨及び総括】

世界児童画展は1970年3月に大阪で開かれた万国博覧会を機に開催されて、今回で43回を迎えた。この展覧会は、子どもたちの感性と理性の調和の取れた成長を願い、子どもたちが自らつくり出す造形文化の支援と、国境を超えて世界の人々を繋ぐ国際相互理解を目的として開催してきている。

今回は、日本と世界38の国と地域から約13万点の応募があり、このうち新潟県からの応募作品では「特別賞」に3作品、「特選」に17作品が選ばれた。新潟展では、これらに、新潟県からの応募で「入選」となった183作品を加え、計318点を展示した。6日間で1,705名と多数の来館者があり、盛況であった。

【開催日・その他】

=2013年8月13日(火)~8月18日(日) (6日間) =

主 催：公益財団法人美育文化協会、TeNYテレビ新潟、新潟県立近代美術館

後 援：外務省、文部科学省、新潟県教育委員会、読売新聞社、社団法人日本美術教育連合、全国造形教育連盟

協 力：べんてる株式会社

入場料：無料

会 場：2階ギャラリー

担当：青木善治

第15回亀倉雄策賞受賞記念 平野敬子展 Vision and Realization ならびにJAGDA新人賞展2013

【趣旨及び総括】

JAGDA（公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会）初代会長の故亀倉雄策のコレクションを所蔵する館として、氏を讃えて創設された「亀倉雄策賞」の受賞作家作品展を継続開催することで、更なるグラフィックデザインの発展に寄与する。また、「JAGDA新人賞」受賞作家作品展を併せて開催することによって、日本のグラフィックデザインの最新かつ最高の作品を展示し、広くデザインへの理解と親近感を醸成することを目的としてきている。

本年度は、長岡デザインフェア2013の関連事業として実施。運営については昨年度と同様、長岡造形大学、社団法人日本グラフィックデザイナー協会および当館による3者実行委員会形式で行った。

展示内容としては、平野敬子氏の第15回亀倉雄策賞受賞作となった、東京国立近代美術館の周年事業関連制作物を中心に、「Vision and Realization」をテーマに活動業績の一端を紹介した。

併設のJAGDA新人賞展2013では受賞作家田中義久、平野篤史、宮田裕美詠の仕事をプロダクトワークも含めて展示・紹介した。

【開催日・その他】

=2013年9月11日(水)~9月23日(月・祝) (12日間) =

会 場：新潟県立近代美術館 2Fギャラリー

主 催：亀倉雄策賞実行委員会（新潟県立近代美術館、長岡造形大学、公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会）

共 催：長岡デザインフェア2013実行委員会

協 力：新潟県立美術館友の会、クリエイションギャラリーG8、日本写真印刷株式会社、亀倉雄策賞事務局

入場無料

【関連行事】

・長岡デザインフェア2013講演会事業

JAGDA新人賞2013開催記念

田中義久 平野篤史 宮田裕美詠トークショー

9月22日(日) 10:30~12:00

講 師：田中義久氏 平野篤史氏 宮田裕美詠氏

会 場：長岡造形大学円形講義室及び近代美術館2Fギャラリー

参加人数：100名

・開催記念講演

2013年9月22日(日) 14:00~ 講堂

講 師：平野敬子氏、工藤青石氏

参加者数：80名

担当：伊澤朋美

第17回新潟県立美術館 友の会作品展

【趣旨及び総括】

友の会会員の制作した作品を募集し、会員の結束を図りながら、美術館の運営や活動に協力することを目的として、平成9年度に企画、以来開催を続けている。

第17回展では、会員11名による23点、及び近代美術館館長を始めとする美術館職員3名による4点、長岡造形大学の御法川先生と研究室の学生による作品21点を展示紹介した。また、法人会員のコーナーを設け、紹介をした。

なお、今年は初めて万代島美術館でも友の会作品展(近代美術館での作品展の縮小版)を開催した。

【開催日・その他】

近代美術館

開催日：10月1日～10月6日

会場：新潟県立近代美術館ギャラリー

万代島美術館

開催日：11月1日～11月10日

会場：新潟県立万代島美術館エントランス

主催：新潟県立美術館友の会

入場無料

担当 更科昌江（友の会事務局）

第44回新潟県ジュニア 美術展覧会長岡展

【趣旨及び総括】

感性豊かな子どもの育成と美術振興をねらいとして、44年間継続している全県規模のコンクールである。今回は、県内702の幼・保・小・中学校、特別支援学校等から35,161点の応募があった。9名の審査員により選ばれた2,060点を新潟市、上越市、柏崎市、長岡市の4会場に巡回展示した。

長岡展会場である当館には、10日間の会期中に3,110名の入場があり、家族で美術鑑賞を楽しむ場となった。

【開催日・その他】

会場：

新潟展 2013年11月30日～12月12日

新潟県民会館ギャラリーにて

上越展 2014年1月9日～1月14日

上越市市民プラザにて

柏崎展 2014年1月21日～1月26日

柏崎市ソフィアセンターにて

長岡展 2014年2月8日～2月19日

新潟県立近代美術館にて

主催：新潟日報社、新潟県教育委員会、新潟県立近代美術館、新潟県美術教育連盟、新潟市教育委員会、長岡市教育委員会、上越市教育委員会、柏崎市

後援：新潟日報美術振興財団

入場：無料

審査員（敬称略）

幼稚園・保育園 松本 健義（上越教育大学教授）

小学校1年 高須賀 昌志（埼玉大学教授）

小学校2年 山田 芳明（鳴門教育大学准教授）

小学校3年 結城 和廣（長岡造形大学教授）

小学校4年 水島 尚喜（聖心女子大学教授）

小学校5年 相田 隆司（東京学芸大学准教授）

小学校6年 阿部 宏行（北海道教育大学准教授）

中学校1～3年 村上 尚徳（環太平洋大学教授）

特別支援学校 磯部 洋司（愛知教育大学教授）

担当 佐藤久美子

長岡造形大学2013年度 こどもものづくり大学校作品展覧会 ～こども×カタチ展～

【趣旨及び総括】

長岡造形大学主催事業「こどもものづくり大学校」は、ものづくりのよろこびを体感してもらうことを目的とした、子どもを対象に行われる美術講座である。同大学のキャンパスを主な活動場所とし、今年度は156名の子どもが参加した。当館では9月8、15日に、学外ワーク「美術館をきりとりもうひとつの美術館」を実施した。本展覧会は、年間を通してガラス、陶芸、油彩、木工、クラフト——と、多岐にわたる講座を受講した子どもたちの作品を展示し、こどもものづくり大学校の活動を紹介するものである。今年度は342点の作品が展示され、会期中は、作品を出品した子どもの家族を中心に、736名の来場者でにぎわった。

【開催日・その他】

=2014年3月13日(木)～3月24日(月)=

会 場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

主 催：長岡造形大学

後 援：長岡市、長岡市教育委員会、新潟日报社、長岡新聞社、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT79.0、FMながおか80.7

入場無料

担当：伊澤朋美





所蔵品展

ひとの姿／人のかたち

【趣旨】

本展では、所蔵品の中から「ひと」の姿・かたちに関わる表現を広く取り上げ、「ひとの姿」と「人のかたち」の2部構成で紹介した。

第1部「ひとの姿」では、主に肖像、風俗等の具象的表現を中心に取り上げ、「1-1 肖像／自画像」「1-2 異国の生活／身近な暮らし」として展示した。

第2部「人のかたち」では、主に人体モチーフによる構成や抽象的傾向の作品を選んだ。「2-1 人体／裸体」「2-2 顔／表情」「2-3 からだの言葉」として紹介した。

【総括】

●評価すべき点

- ・テーマ設定により、幅広い分野から様々な所蔵品を取り上げ、新たな光を当てることができた。例えば自画像が少ない等、内容を検討していく途中で図らずも当館のコレクションの傾向についても再認できた。
- ・広報印刷物の作成では、ジブング展に引き続き、地元デザイナーに依頼した。親しみやすく、かつ斬新なイメージが案出された。

●検討課題

- ・説得力のあるテーマを設定するには、所蔵品についての深い理解が必要とされる。だが、多忙な業務の中では所蔵品研究は後回しになりがちで、容易に解決できないジレンマを常に抱えている。
- ・ポスター・チラシのデザイン力も、広報力不足を補おうには十分な効果を発揮するまでにはいかなかった。訴求力のある魅力的なテーマ設定と効果的で優れたデザインが相まって初めて、集客に結び付く。ただその絶妙な組み合わせは簡単には実現しない。

【開催日・その他】

=2013年4月1日(月)～5月19日(日) (42日間) =

※全体会期は3月20日(水・祝)～5月19日(日)(53日間)

休館日：月曜日

ただし4/29、5/6は開館、4/30、5/7は休館

主催：新潟県立万代島美術館

後援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟日报社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新潟、エフエム角田山ぼかぼかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

観覧料：一般……………310 (250) 円
大学・高校生……………150 (120) 円
※中学生以下無料
※()内は有料20名様以上の団体料金。

【関連行事】

・作品解説会
会期中の日曜・祝日 14:00～ 美術館展示室
(ただし他のイベントがある日を除く)
担当：当館学芸員
参加者数：のべ39名 (4/1～5/19 計8回)

【観覧者数】

※4/1～5/19

有料観覧者数	当日	1,522
	前売	—
無料観覧者数	無料	804
	免除	116
総観覧者数		2,442
有料率 (%)		62.3

※全会期

有料観覧者数	当日	1,890
	前売	—
無料観覧者数	無料	902
	免除	149
総観覧者数		2,941
有料率 (%)		64.3

担当 桐原浩

※本展の展示図面及び出品リストは、『新潟県立近代美術館・万代島美術館年報(平成24年度)』を参照のこと。



新潟の日本画100年

【趣旨】

新潟県はこれまでに数多くの優れた日本画家を輩出してきた。本展では、江戸時代に新潟で活躍した五十嵐俊明に始まり、中央画壇で活躍した土田麦僊、小林古徑や横山操のほか、現在も精力的に活躍を続ける作家の作品まで、所蔵品を中心に約70点展示し、連綿と受け継がれてきた新潟の日本画の流れを概観した。

さらに、当館で所蔵していない新潟ゆかりの画家の作品については、新潟県立図書館と新潟市歴史博物館から借用して併せて紹介した。

【総括】

●評価すべき点

- ・所蔵品に加えて、新潟県立図書館と新潟市歴史博物館から作品を借用し、所蔵していない新潟ゆかりの作家の作品を補うことで、新潟の日本画の歴史をたどる展示構成が可能となった。
- ・開館10周年を記念し、11月3日（日・祝）を無料開館日とする初めての試みをしたところ、519名の方が来館した。

●検討課題

- ・キャプションの文字数を減らし、内容も簡潔な記述を目指したが、今後も文字の大きさや解説文の難易度など、来館者の立場を考えて作成する必要性を実感した。
- ・来館者が中高年中心で、若年層が少なかった。若者にもアピールできるような方策を検討する必要がある。

【開催日・その他】

=2013年10月26日(土)～12月1日(日) (35日間) =

休館日：11/11、11/25

主催：新潟県立万代島美術館

後援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX 新潟テレビ21、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新潟、エフエム角田山ぼかぼかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

観覧料：一般……………310円 (250円)

大学・高校生……………150円 (120円)

※ 中学生以下無料

※ () 内は有料20名以上の団体料金

【関連行事】

・作品解説会

会期中の日曜・祝日 14:00～ 美術館展示室

担当：当館学芸員

参加者数：のべ121名 (計8回)

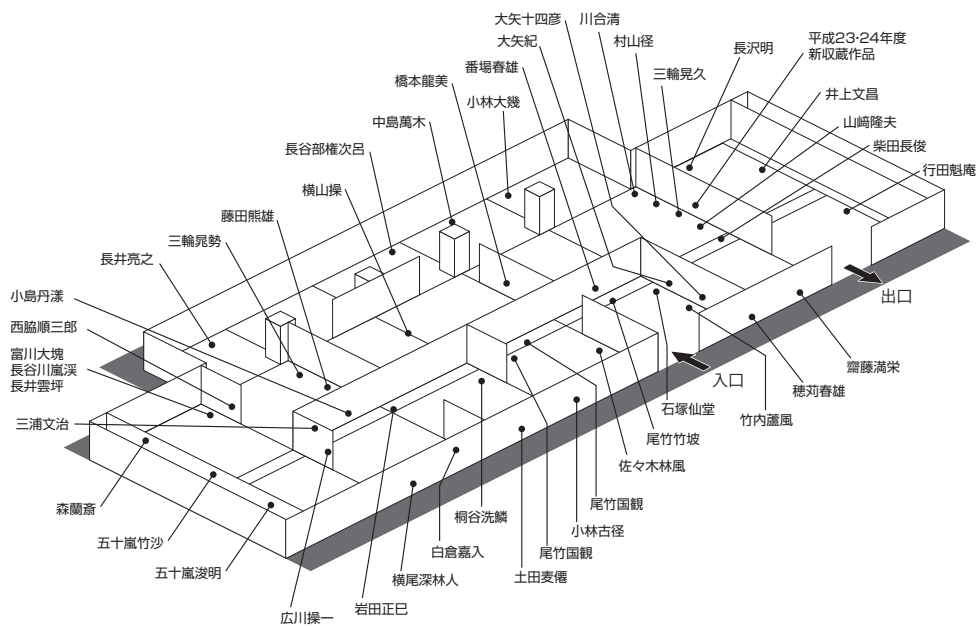
・美術鑑賞講座

「新潟の日本画家」

11月9日(土) 14:00～ 美術館ロビー

講師：飯島沙耶子 (当館美術学芸員)

参加者数：10名



・開館10周年記念 無料開館日

11月3日(日・祝)

参加者数：519名

【関連記事】

●新聞

11月12日 新潟日報

「『新潟の日本画100年』に寄せて」／

飯島沙耶子

その他 新潟日報 10/26

●雑誌

トットときガイド 11・12月号／飯島沙耶子

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	2,451
	前売	—
無料観覧者数	無料	1,128
	免除	276
総観覧者数		3,855
有料率 (%)		63.5

担当 飯島沙耶子



【出品リスト】

No.	作品名	作家名	制作年	素材・技法	形状	寸法(縦×横cm)	所蔵先
1	佐藤忠信の図	竹内蘆風	19-20世紀	絹本着色	1幅	127.3×56.2	
2	春江待渡の図	竹内蘆風	1928年(昭和3)	絹本着色	1幅	121×42	
3	極彩色孔雀の図	竹内蘆風	1926年(大正15)	絹本着色	1幅	144×51	
4	鷹	石塚仙堂	20世紀	絹本着色	1面	87.5×116.0	
5	大地円	尾竹竹坡	1925年(大正14)	絹本着色	3面1組	左/右 206.0×143 中央 206.0×173.0	
6	巴	尾竹国観	1930年(昭和5)頃	絹本着色	1面	233.0×172.0	
7	うたげの装	津端道彦	1911年(明治44)	絹本着色	1面	116.0×198.0	
8	柳におしどり	佐々木林風	19-20世紀	紙本銀地着色	2曲1双	各168.0×172.8	
9	紅梅	小林古径	1927年(昭和2)頃	絹本着色	1幅	128.7×41.8	
10	文珠	小林古径	1931年(昭和6)	紙本墨画金泥	1幅	130.8×42.2	
11	扇売美人の図	土田麦僊	1906年(明治39)頃	紙本着色	軸装	165.9×89.8	
12	春宵舞妓図	土田麦僊	1923年(大正12)	絹本着色	軸装	36.0×42.3	
13	生果	小林古径	大正後期	絹本着色	額装	42.0×57.0	寄託作品
14	鮭の図	土田麦僊	1924年(大正13)	紙本着色	額装	41.5×51.7	
15	筏	土田麦僊	1915年(大正4)	紙本着色	額装	24.6×54.8	
16	宇治白川村	土田麦僊	1915年(大正4)	紙本着色	額装	24.6×54.8	
17	釈尊一代記(第一巻・第二巻)	桐谷洗鱗	1915年(大正4)	絹本着色	卷子	各縦41.8	
18	夢の姫君	岩田正巳	1954年(昭和29)	紙本着色	額装	185.0×122.0	
19	花さす人	岩田正巳	1950年(昭和25)	紙本着色	額装	228.0×86.5	
20	緑扇	岩田正巳	1969年(昭和44)	紙本着色	額装	156.0×92.5	
21	鏡	岩田正巳	1953年(昭和28)	紙本着色	額装	159.0×117.0	
22	婦人抱琴図	岩田正巳	20世紀	紙本着色	額装	108.5×64.5	
23	阿仏尼	広川操一	1940年(昭和15)	紙本着色	額装	200×327.5	
24	比叡山	白倉嘉入	1962年(昭和37)	紙本着色	額装	111.0×128.8	
25	菖蒲	横尾深林人	20世紀	絹本着色	額装	72.0×86.0	
26	伊豆の山にて	横尾深林人	1955年(昭和30)	紙本着色	額装	301.4×149.2	
27	中国武将図屏風	五十嵐浚明	18世紀	紙本着色	六曲一双屏風	各159.2×336.0	
28	人物図	五十嵐浚明	18世紀	紙本着色	軸装	63×110	新潟県立図書館
29	秋景山水釣艇図	五十嵐竹沙	1811年(文化8)	絹本着色	軸装	37×98	新潟市歴史博物館
30	山水図	五十嵐竹沙	1833年(天保4)	紙本着色	軸装	74×207	新潟県立図書館
31	梅花叭々鳥図	森蘭斎	18世紀	紙本墨画	軸装	56×184	新潟県立図書館
32	蘭斎画譜(8冊)	森蘭斎	1782年(天明2)	紙本木版刷	冊子	30×30	新潟県立図書館
33	林間秋興	富川大塊	19世紀	絹本着色	軸装	119.8×44.8	
34	溪山重翠	長谷川嵐深	1846年(弘化3)	紙本墨画	軸装	107.5×33.0	
35	筍図	長井雲坪	19世紀	紙本墨画	軸装	135.6×44.5	
36	佐渡のイカ干し	三浦文治	1938年(昭和13)	紙本着色	額装	125.0×188.0	
37	河口暮色	小島丹漾	1956年(昭和31)	紙本着色	額装	160.8×209.0	
38	とむらい	藤田熊雄	1959年(昭和34)	紙本着色	額装	141.0×170.0	
39	草の上	三輪晃勢	1947年(昭和22)	紙本着色	額装	209.0×183.0	
40	万代橋風景	西脇順三郎	1941年(昭和16)	紙本着色	二曲一隻屏風	171.0×165.0	
41	砂丘(右隻)	長井亮之	1936年(昭和11)	紙本着色	六曲一双屏風	159.0×335.5	
42	カザフスタンの女	横山操	1951年(昭和26)	紙本着色	額装	240.3×117.4	
43	母子	横山操	1958年(昭和33)	紙本着色	額装	181.5×182.0	
44	十勝岳	横山操	1962年(昭和37)	紙本着色	額装	243.2×639.0	
45	TOKYO	横山操	1968年(昭和43)	紙本着色	額装	180.0×181.0	
46	高速四号線	横山操	1964年(昭和39)	紙本着色	額装	239.7×480.7	
47	女子警防団	長谷部権次呂	1943年(昭和18)	紙本着色	額装	190.0×85.0	
48	待春	中島萬木	1967年(昭和42)	紙本着色	額装	152.0×91.5	
49	佐渡の舟庫	小林大幾	1970年(昭和45)	紙本着色	額装	174.0×221.0	
50	風之唄	橋本龍美	1981年(昭和56)	紙本着色	三曲一隻屏風	146.5×189.3	
51	大雪嶺	番場春雄	1969年(昭和44)	紙本着色	額装	222.7×177.2	
52	残雪の椿園	番場春雄	1972年(昭和47)	紙本着色	額装	221.0×174.8	
53	秋	川合清	1983年(昭和58)	紙本着色	額装	80.7×116.7	
54	白粧	川合清	1983年(昭和58)	紙本着色	額装	130.0×89.4	
55	溜	村山径	1961年(昭和36)	紙本着色	額装	185.0×136.5	
56	秋氣	三輪晃久	2000年(平成12)	紙本着色	額装	160.0×220.0	
57	新雪	山崎隆夫	1980年(昭和55)	紙本着色	額装	222.5×180.5	

No.	作品名	作家名	制作年	素材・技法	形状	寸法(縦×横cm)	所蔵先
58	やわらかき夜	柴田長俊	1990年(平成2)	紙本着色	額装	162.0×130.3	
59	北に花咲く	大矢紀	1973年(昭和48)	紙本着色	額装	160.0×205.5	
60	明けゆく	大矢十四彦	2001年(平成13)	紙本着色	額装	212.8×167.7	
61	大河渡る	穂苅春雄	2002年(平成14)	紙本着色	額装	219.5×174.5	
62	橋(カレル)	齋藤満栄	2008年(平成20)	紙本着色	額装	175.0×220.0	
63	新潟年中行事絵巻	行田魁庵ほか	19世紀	紙本着色	卷子	40.7×781.9	
64	新がた後の月見	結城利之 (甘泉酔翁)	1819年(文政2)刊	紙本木版刷	冊子	17×12	新潟県立図書館
65	鷺の図	行田魁庵	19世紀	紙本着色	二曲一隻屏風	154.5×133.4	
66	新潟湊之真景	井上文昌	1859年(安政6)	紙本多色刷	軸装	508×732	新潟市歴史博物館
67	文昌画帖	井上文昌	1859年(安政6)	紙本着色	冊子	31×30	新潟県立図書館
68	Melodical Note	長沢明	1995年(平成7)	ミクストメディア		227.3×181.8	
69	Bookboard-Blue	長沢明	1999年(平成11)	ミクストメディア		164.0×121.0	

特別展示 平成23・24年度新収蔵作品

70	Sonic(A)	白木ゆり	1998年(平成10)	エッチング、ドライポイント	額装	92.0×128.5	
71	Sonic(B)	白木ゆり	1998年(平成10)	エッチング、ドライポイント	額装	92.0×128.5	
72	Sonic(C)	白木ゆり	1998年(平成10)	エッチング、ドライポイント	額装	92.0×128.5	
73	Sound-40	白木ゆり	2001年(平成13)	エッチング、ドライポイント	額装	180.5×127.5	
74	版画集 「SONIC・1992-2005」	白木ゆり	"1992-2005 (平成4-17)"	エッチング、エンブレイ ヴィング	冊子	各25.3~26.5×20.3 ×21.2	

※表記のないものは全て当館所蔵

企画展



ミュシャ財団秘蔵 ミュシャ展 パリの夢 モラヴィアの祈り

【趣旨】

本展は、ミュシャ財団の全面協力のもと、これまでの展覧会とは一線を画し、ミュシャの芸術家としての功績を通じて、作品のみならず、作家のコンセプトや芸術理念、さらには思想を考察するという斬新なものであった。とりわけ、チェコ出身というミュシャのバックグラウンドに注目し、その視点から作品を改めて再解釈した。

【総括】

●評価すべき点

- ・パリ時代のみならずブラハ時代もあわせた総合的なミュシャ展であり、ミュシャ財団も主催に加わった極めて質の高い展覧会となった。
- ・展覧会の展示構成や図録執筆にも当初から学芸員が積極的に関与し、その過程で発見した新知見を紀要論文の執筆や学会での口頭発表にもつなげた。
- ・当館の展示室の広さを活かし、ゆったりとした見やすい展示となった。アンケートでも、東京会場より見やすかったという声が多数あった。

●検討課題

- ・東京会場の集客数をみてやや楽観視していたが趣味が多様化している今日では、美術展覧会への大量の集客が簡単ではないことを再認識した。

【開催日・その他】

=2013年6月1日(土)~8月11日(日) (68日間) =
休館日：6/10、6/24、7/8、7/22

主催：新潟県立万代島美術館、TeNYテレビ新潟、ミュシャ展新潟展実行委員会、ミュシャ財団

後援：チェコ共和国大使館、新潟市、新潟市教育委員会、新潟日報社、読売新聞新潟支局、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエム角田山ぼかぼかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

特別協賛：木下工務店

協賛：大日本印刷、日本興亜損保

協力：全日本空輸、KLMオランダ航空、日本通運

企画協力：NTVヨーロッパ

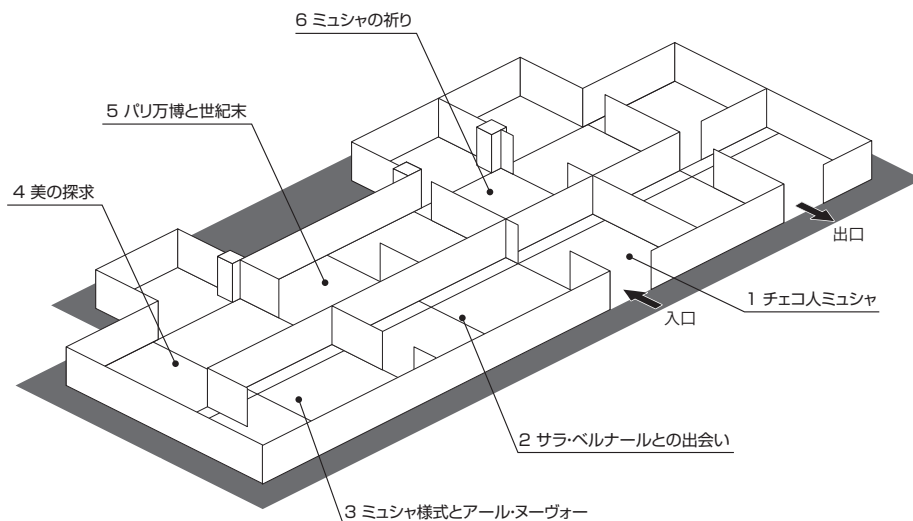
観覧料：一般……………1300円 (1100円) <1100円>

大学・高校生……………1100円 (900円)

※中学生以下無料

※ () 内は有料20名以上の団体料金

※ < > 内は前売券料金



【関連行事】

・記念講演会

「ミュシャ二都物語ーパリとプラハ」

6月22日(土) 14:00～ NICOプラザ会議室

講師：千足伸行（成城大学名誉教授、本展監修者）

参加者数：85名

・美術鑑賞講座

「チェコの美術とミュシャ」

7月14日(日) 14:00～ NICOプラザ会議室

講師：高晟俊（当館主任学芸員）

参加者数：52名

・ギャラリー・トーク

「教えて！ミュシャ」

①6月15日(土) 14:00～ 美術館展示室

語り手：高晟俊（当館主任学芸員）

聞き手：大平真理子（TeNYテレビ新潟アナウンサー）

参加者数：50名

②7月6日(土) 14:00～ 美術館展示室

語り手：桐原浩（当館業務課長）

聞き手：久保田沙也加（TeNYテレビ新潟アナウンサー）

参加者数：35名

③7月20日(土) 14:00～ 美術館展示室にて

語り手：今井有（当館主任学芸員）

聞き手：内田拓志（TeNYテレビ新潟アナウンサー）

参加者数：40名

・ミュージアム・コンサート

「パリとチェコの調べ」

6月8日(土) 14:00～ 美術館ロビー

出演：新潟市ジュニア合唱団

参加者数：80名

・ワークショップ

「ミュシャのスタンプでオリジナル・クロスをつくろう！」

会期中随時実施

有料参加者数：529名（クロス販売実績）

・タイアップ・メニュー

ホテル日航新潟およびカフェ・スポットにてミュシャの作品をイメージしたメニューを提供

・オリジナルしおりプレゼント

TeNYテレビ新潟のウェブサイトから待ち受け画面をダウンロードした方にしおりプレゼント

・ミュシャの誕生日

7月24日、アルフォンス・ミュシャの153回目の誕生日をお祝いし、来場者全員にしおりプレゼント

【図録】

仕様：A4 212頁

編集：日本テレビ放送網株式会社

発行：日本テレビ放送網株式会社

内容：

もうひとりのミュシャー思想家としての芸術家／佐藤智子

ミュシャとベル・エポック／千足伸行

図版

主要作品解説

ミュシャ年譜

主要参考文献（国内）

Selected Bibliography

Mucha Foundation：Exhibitions

出品目録



【関連記事】

●新聞

4月11日 読売新聞

「ミュシャ展」民族の自覚と思想／高野清見

6月1日 新潟日報

「ミュシャ展」に寄せて 祖国愛した別の顔／千足伸行

その他 新潟日報（6/1）

読売新聞（6/1、6/22、7/30）

〈連載〉

・読売新聞「ミュシャ展」

①「代理制作のポスター好評」／高晟俊（6/25）

②「女性美引き立てる曲線」／高晟俊（6/26）

③「5地域の紋章冠に」／高晟俊（6/27）

●雑誌

『週刊ポスト』7月5日号

漫画原作者 少女漫画的絵柄の起源はアールヌーヴォーと分析（書評）／大塚英志

『月刊にいがた』7月号

ミュシャ展で過ごす優雅な休日。／新潟デザイン専門学校 学生

『Komachi』7月号

魅力的な“曲線美”の世界 ミュシャ展、新潟で開催

『Komachi』8月号

華やかな作品に酔いしれる ミュシャ展 in 新潟 好評開催中

●テレビ

5月31日（金）TeNY（生中継）

夕方ワイド新潟一番

7月18日（休）全24回 TeNY

あなたが知らない本当のミュシャ

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	25,198
	前売	9,406
無料観覧者数	無料	7,976
	免除	2,166
総観覧者数		44,746
有料率（%）		77.3

担当 高晟俊

【出品リスト】

No.	作品名	制作年	技法	寸法(縦×横cm)
第1章：チェコ人 ミュシャ				
1	パレットを持った自画像	1907年頃	油彩・カンヴァス	44×30
2	妹アンジェラの肖像	1880年頃	油彩・カンヴァス	50×39.5
3	妹アンナの肖像	1885年頃	油彩・カンヴァス	55×34.5
4	ジリの肖像	1920年頃	油彩・カンヴァス	48×50
5	人形を抱くヤロスラヴァ	1917年	油彩・カンヴァス	47×45
6	ヤン・ヴォホチ(1865-1920) ヴァル＝ド＝ガラス通り、パリのミュシャのアトリエ	1903年	油彩・カンヴァス	80×100
7	ダヴィド・ヴィドホフ(1867-1933) アルフォンス・ミュシャの肖像	1899年	鉛筆・紙	42×32
8	フランティšek・クプカ(1871-1957) パリのベセータの任命書	1898年	鉛筆、インク、水彩、クレヨン・紙	54×35
9	イヴァンチツェの想い出	1909年	カラーリトグラフ	14×9.4
10	《イヴァンチツェの想い出》の習作	1903年	木炭、パステル・グレーの紙	45×27
11	イヴァンチツェ地方祭	1912年	カラーリトグラフ	93×59
12	シャルル・コーシャン(1872-1943) ミュシャの肖像彫刻	1902年	ブロンズ陶像	44×49×29
13	シュクレータ・クラブのメンバー、ミュンヘンにて	1886年頃	ガラスネガからプリント	18×24
14	ミュンヘン美術アカデミーの生徒であったチェコ人画家のカレル・ヴァツラフ・マシエク	1886年頃	ガラスネガからプリント	24×18
15	ミュシャと友人たち、グラント・ショミエール通り、パリのアトリエにて	1893-94年頃	ガラスネガからプリント	18×24
16	二人の妹、義弟と写るミュシャ、南モラヴィアのロシツェにて	1909年頃	ガラスネガからプリント	18×24
第2章：サラ・ベルナルとの出会い				
17	サラ・ベルナル主宰のルネサンス座の広告ポスターの下絵	1895年頃	ペン、インク・紙	29×79
18	サラ・ベルナルの頭部：《ロレンザッチオ》の習作	1896年	鉛筆・紙	25×21.5
19	レグロン(ナポレオン2世)に扮するサラ・ベルナル	1900年	鉛筆・紙	27.5×20
20	『ラ・ブリュム』誌版アート・ポスター：サラ・ベルナル	1897年	カラーリトグラフ	69×51
21	サラ・ベルナルのための午餐会(1896年12月9日)のメニューの校正刷	1896年	リトグラフ	29×19.8
22	『トリポリの姫君イルゼ』	1897年	挿絵本	30.1×24.2
23	アドルフ・アルマン・トリュフィエ(20世紀初め-1937年に活動) ミュシャの《遠国の姫君》に倣った照明器具	1900年頃	金メッキしたブロンズ、マラカイト、アメジスト、ラピスラズリ	42×27×11 木製の台座 51×36×13
24	『ヴェルテル』のプログラム	1903年	小冊子	24.8×15.3
25	シェイクスピア劇の衣装デザイン	1908年頃	鉛筆、水彩・紙	25×37.2
26	デュマの舞台『アスカニオ』の衣装デザイン、『舞台衣装』誌の挿絵	1890年	雑誌の図版	30.8×22.3
27	女優モード・アダムの肖像	1909年	鉛筆・紙	49.5×44
28	女優エセル・パリーモアの肖像	1909年頃	鉛筆・紙	49×44
29	『お気に召すまま』の舞台デザイン	1908年	鉛筆、水彩、グアッシュ・紙	48×63
30	『リプシエ』の舞台デザイン	1915-16年	鉛筆、水彩、白のハイライト・紙	21×25.6
31	演劇芸術のアレゴリー	20世紀初め	テンペラ・カンヴァス	147.5×389
32	椿姫	1896年	カラーリトグラフ	207.3×76.2
33	ロレンザッチオ	1896年	カラーリトグラフ	203.7×76
34	ジスモンダ	1894年	カラーリトグラフ	216×74.2
35	『椿姫』の特別プログラムの表紙と中ページの下絵	1896年	鉛筆、水彩・紙	見開き28×46
36	『ル・ゴーロフ』誌の別冊『ジスモンダ』特集	1894年	挿絵雑誌、リトグラフ	35×27
37	『ル・ゴーロフ』誌の別冊『ジスモンダ』特集の表紙の下絵	1894年	鉛筆、水彩・厚紙	32.5×25
38	メディア	1898年	カラーリトグラフ	206×76
39	トスカ	1899年	カラーリトグラフ	103×36
40	悪魔とトゥワルドフスキー：『パン・トゥワルドフスキーの物語』（『ファウスト』のヴァリエーション）の挿絵の習作	1888年頃	木炭、チョーク・紙	85×64.2
41	美しい宮殿：グザヴィエ・マルミエ著『おぼあちゃんのお伽話』の挿絵の習作	1891年	インク、グアッシュ・紙	29×21.5
42	空中宮殿：グザヴィエ・マルミエ著『おぼあちゃんのお伽話』の挿絵の習作	1891年	インク、グアッシュ・紙	32×20
43	ゲーテとシラー：シャルル・セニョボス著『ドイツの歴史の諸場面とエピソード』の挿絵の習作	1897年	インク、グアッシュ・紙	48×36
44	シャルル・セニョボス著『スペインの歴史』（未完）の挿絵の習作	1898年頃	インク、グアッシュ・紙	43.7×32.3
45	グラナダの鍵を受け取るカトリックのフェルディナント王：シャルル・セニョボス著『スペインの歴史』（未完）の挿絵の習作	1898年頃	油彩・板	57×42
46	ユディット・ゴートイエ著『白い象の伝説』の挿絵のためにポーズをとるゴーヤン	1893年	ガラスネガからプリント	24×18
47	セルフポートレート：シルクハットをもってポーズをとるミュシャ	1896年頃	ガラスネガからプリント	24×18
48	エミール・ゲバルト著『クリスマスと復活祭の鐘』のためにポーズをとるモデル	1900年頃	ガラスネガからプリント	24×18
49	エミール・ゲバルト著『クリスマスと復活祭の鐘』のためにポーズをとるモデル	1900年頃	ガラスネガからプリント	24×18
50	ドイツ劇場の壁画（悲劇）のためにポーズをとるミス・ライヒル（マックス・ラインハルト劇団の看板女優）	1908年	ガラスネガからプリント	24×18
51	『ジャンヌ・ダルク』のポーズをとるモデル	1909年	ガラスネガからプリント	24×18

No.	作品名	制作年	技法	寸法(縦×横cm)
第3章：ミュシャ様式とアール・ヌーヴォー				
52	ルフェーヴル=ユティル ビスケット：シャンペン風味	1896年	カラーリトグラフ	52.1×35.2
53	《ルフェーヴル=ユティル ビスケット：シャンペン風味》の習作	1896年	鉛筆・紙	64.5×38
54	ショコラ・イデアル	1897年	カラーリトグラフ	117×78
55	サロン・デ・サン 第20回展	1896年	カラーリトグラフ	63×43
56	カサン・フィス印刷所	1896年	カラーリトグラフ	174.7×68.4
57	ネスレ乳児食	1897年	カラーリトグラフ	72×34.5
58	ムース川のビール	1897年	カラーリトグラフ	154.5×104.5
59	ジョブ	1896年	カラーリトグラフ	66.7×46.4
60	モナコ・モンテカルロ	1897年	カラーリトグラフ	110.5×76.5
61	《ミュシャ石鹸 スミレ》の箱	1906年	カラーリトグラフ	31×18
62	《ルフェーヴル=ユティル ビスケット：ブドウ》の箱	1901年	カラーリトグラフ	28×20.4;8×11.7
63	《ルフェーヴル=ユティル ビスケット》容れの校正	1899年	リトグラフ	34.8×49.9
64	《ランス香水〈ロド〉》の習作	1896年	インク、水彩、グアッシュ、金・紙	48.4×35.2
65	ウィットマン(サルマグンディ)キャンディー箱、ミュシャの《黄道十二宮》のデザイン入り	1926年	缶の箱	17.1×20.3×7
66	少女の頭部の装飾が施された箱	1900年頃	銀製の箱	11×14×11
67	《ルフェーヴル=ユティル ビスケット：マデラ酒風味》の箱	1900年頃	缶の箱にラベル	8×20.4×11.7
68	《ルフェーヴル=ユティル ゴーフル：バナナ風味》の箱	1900年頃	缶の箱にラベル	19.3×18.3×17.5
69	《ルフェーヴル=ユティル ビスケット》容れ	1899年	蓋、取っ手付き缶容器、オフセット印刷	16×13.5×11.5
70	12ヶ月の絵葉書	1899年	カラーリトグラフ	各9.4×14
71	ランス香水〈ロド〉のセット	1890年代後半	ガラス、金属、カラーリトグラフのラベル 箱：厚紙	長さ 14.5; 直径 1.67 箱：4.5×22×19
72	モエ・エ・シャンドン：ドライ・アンベリアル	1899年	カラーリトグラフ	60×20
73	モエ・エ・シャンドン：ホワイトスター シャンペン	1899年	カラーリトグラフ	60×20
74	ウェイヴァリー自転車	1898年	カラーリトグラフ	88.5×114
75	パーフェクタ自転車	1902年	カラーリトグラフ	53×35
76	ミュシャのアトリエでハーモニウムを弾くゴーギャン	1893-94年頃	ガラスネガからプリント	24×18
77	ヴァルド=グラス通り、パリのミュシャのアトリエ	1897年頃	ガラスネガからプリント	24×18
78	ミュシャの愛人 ベルト・ド・ラランド	1896-97年頃	ガラスネガからプリント	24×18
79	アミルカレ・チブリアーニ、イタリアの革命家、社会主義者、ヴァルド=グラス通り、パリのミュシャのアトリエにて	1898年頃	オリジナル現像からのプリント	24×18
80	ミュシャの妻となる美術学生、マルシュカ(マリ)・ヒティロヴァー、ヴァルド=グラス通り、パリのミュシャのアトリエにて	1903年	オリジナル現像からのプリント	24×18
81	マリー・フランソワ・サディ・カルノー仏大統領の葬列、1894年7月1日、パリ(9つの視点のシリーズより)	1894年	ガラスネガからプリント	24×18
82	マリー・フランソワ・サディ・カルノー仏大統領の葬列、1894年7月1日、パリ(9つの視点のシリーズより)	1894年	ガラスネガからプリント	24×18
83	冬の風景：リュクサンブール公園	1900年頃	ガラスネガからプリント	24×18
84	食器のデザイン	1900年頃	木炭、色鉛筆、白のハイライト・厚紙	20.1×20.1
85	『鏡によって無限に変化する装飾モチーフ』のためのデザイン	1900-01年頃	青と赤の鉛筆・紙	33.6×51.7
86	『装飾資料集』図54	1902年	カラーリトグラフ	46×33
87	『装飾資料集』図43の最終習作	1901-02年	鉛筆、インク、淡彩、白のハイライト・紙	41×27
88	『装飾資料集』図63の最終習作	1901-02年	鉛筆、白のハイライト・紙	54×37.5
89	『装飾資料集』図67の最終習作	1901-02年	鉛筆、白のハイライト・紙	60×40
90	『装飾資料集』図71の最終習作	1901-02年	鉛筆、白のハイライト・紙	45×32
91	ネスレ社の奉祝ポスター(ヴィクトリア女王即位60年記念)	1897年	カラーリトグラフ	200×300

第4章：美の探求

92	四季	1896年	カラーリトグラフ (屏風型フレームエディション)	54×103
93	パリの審判(ヴィエマル印刷会社のカレンダー)	1895年	カラーリトグラフ	82.5×50
94	《来たる年》(1898年のカレンダー)の習作	1897年	赤のチョーク・紙	66.5×30.5
95	四季：春	1900年	カラーリトグラフ	73×32
96	四季：夏	1900年	カラーリトグラフ	73×32
97	四季：秋	1900年	カラーリトグラフ	73×32
98	四季：冬	1900年	カラーリトグラフ	73×32
99	サロン・デ・サン ミュシャ展	1897年	カラーリトグラフ	66.2×46
100	花：装飾パネルの最終習作	1897年	鉛筆、インク、水彩・紙	71×44
101	夢想	1897年	カラーリトグラフ	72.7×55.2
102	ビザンティン風の頭部：ブルネット	1897年	カラーリトグラフ	34.5×28
103	ビザンティン風の頭部：ブロンド	1897年	カラーリトグラフ	34.5×28
104	《ノートルダム石鹸》の習作	1896年頃	鉛筆、水彩・紙	52×37
105	『装飾資料集』図33：百合の線画	1901-02年	鉛筆、ペン、インク・紙	58×44
106	『装飾資料集』図52の最終習作、モラヴィアのレースからインスパイアされたデザイン	1901年頃	水彩・黒の紙	46×35

No.	作品名	制作年	技法	寸法(縦×横cm)
107	『装飾資料集』図60の最終習作	1901-02年	鉛筆、インク、淡彩、白のハイライト・紙	48×31
108	『装飾人物集』図3の最終習作	1904-05年	鉛筆、白のハイライト・紙	48×36
109	『装飾人物集』図2の最終習作	1904-05年	鉛筆、白のハイライト・紙	64×49
110	花のスケッチ	1900-01年頃	ペン、インク・紙	50×65
111	ひな菊を持つ女性	1900年	装飾織物	60×78.5
112	通り過ぎる風が若さを奪い取る：団扇および《人類のパヴィリオン》(実現されず)のファサードの下絵	1899年	カラーリトグラフ	32×24
113	花模様を施したチェコ民芸品のある静物画	1920年代頃	油彩・カンヴァス	35.7×25.5
114	裸婦	1903年	油彩・カンヴァス	60×40
115	薔薇色の布をまとった裸婦	1903年	油彩・カンヴァス	97.5×51
116	花に囲まれた女性：春	1916年	油彩・カンヴァス	60.3×40.5
117	花に囲まれた理想郷の二人	1920年頃	油彩・カンヴァス	50.5×39.3
118	《四芸術：音楽》の習作	1898年	鉛筆、水彩・紙	56×34.8
119	《四芸術：詩》の習作	1898年	鉛筆、水彩・紙	56×34.8
120	《四芸術：絵画》の習作	1898年	鉛筆、水彩・紙	56×34.8
121	《四芸術：ダンス》の習作	1898年	鉛筆、水彩・紙	56×34.8
122	四芸術：音楽	1899年	カラーリトグラフ (サテン・エディション)	60×38
123	四芸術：詩	1899年	カラーリトグラフ (サテン・エディション)	60×38
124	四芸術：絵画	1899年	カラーリトグラフ (サテン・エディション)	60×38
125	四芸術：ダンス	1899年	カラーリトグラフ (サテン・エディション)	60×38
126	9月(『12ヶ月』より)『ココリコ』誌の挿絵の最終習作	1899年	鉛筆、淡彩、白のハイライト・紙	40.7×27.8
127	6月(『12ヶ月』より)『ココリコ』誌の挿絵の最終習作	1899年	鉛筆、淡彩、白のハイライト・紙	40.1×32.1
128	ポーズをとるモデル、ヴァル＝ド＝グラス通り、パリのミュシャのアトリエにて	1899-1900年	ガラスネガからプリント	24×18
129	ポーズをとるモデル、ヴァル＝ド＝グラス通り、パリのミュシャのアトリエにて	1900年頃	ガラスネガからプリント	24×18
130	ボヘミアの民族衣装でポーズをとるモデル、ヴァル＝ド＝グラス通り、パリのミュシャのアトリエにて	1900年頃	ガラスネガからプリント	24×18
131	ミュシャのアトリエでポーズをとるモデル	1902年頃	ガラスネガからプリント	24×18
132	バレエの習作：ヴァル＝ド＝グラス通り、パリのアトリエで踊る裸婦(5枚からなるシリーズより)	1901年頃	ガラスネガからプリント	24×18
133	バレエの習作：ヴァル＝ド＝グラス通り、パリのアトリエで踊る裸婦(5枚からなるシリーズより)	1901年頃	ガラスネガからプリント	24×18
134	バレエの習作：ヴァル＝ド＝グラス通り、パリのアトリエで踊る裸婦(5枚からなるシリーズより)	1901年頃	ガラスネガからプリント	24×18
135	バレエの習作：ヴァル＝ド＝グラス通り、パリのアトリエで踊る裸婦(5枚からなるシリーズより)	1901年頃	ガラスネガからプリント	24×18
第5章：パリ万博と世紀末				
136	宝石：エメラルド	1900年	カラーリトグラフ	67.2×30
137	宝石：アメジスト	1900年	カラーリトグラフ	67.2×30
138	宝石：ルビー	1900年	カラーリトグラフ	67.2×30
139	宝石：トパーズ	1900年	カラーリトグラフ	67.2×30
140	1900年パリ万国博覧会の公式晩餐会のメニューの下絵：ミュシャ・スタイルの宝飾を身に着けた女性	1900年	鉛筆、グアッシュ、淡彩・グレーの紙	62×49
141	《『装飾資料集』時計とアクセサリ》の下絵(採用されず)	1901-02年	鉛筆、インク、白のハイライト・紙	45×32
142	『装飾資料集』図49の最終習作	1901-02年	鉛筆、白のハイライト・紙	51×39
143	『装飾資料集』図50の最終習作	1901-02年	鉛筆、白のハイライト・紙	50.5×39
144	装飾鎖付きペンダント	1900年	金、エナメル、淡水真珠、青貝、半貴石	長さ159
145	指輪	1900年	金、オパール	直径1.75
146	少女の頭部	1900年	ブロンズ、銀、金メッキ	29×22×10
147	1900年パリ万国博覧会 オーストリア館	1900年	カラーリトグラフ	98.5×68
148	1900年パリ万国博覧会 ボスニア＝ヘルツェゴヴィナ館レストランのメニューの下絵	1900年	鉛筆、水彩・紙	62.5×24.5
149	1900年パリ万国博覧会 ボスニア＝ヘルツェゴヴィナ館レストランのメニュー	1900年	カラーリトグラフ	33×13
150	『主の祈り』第3節の寓意画のための習作：「御国が来ますように」	1899年	木炭、インクによる淡彩・紙	31×25
151	『主の祈り』第3節の寓意画：「御国が来ますように」	1899年	グラビア印刷・紙	40.4×30.2
152	『主の祈り』第7節の寓意画のための習作：「かくて、わたしたちを誘惑に陥らせず、悪からお救いください」	1899年	木炭、インクによる淡彩・紙	31×25
153	『主の祈り』第7節の寓意画：「かくて、わたしたちを誘惑に陥らせず、悪からお救いください」	1899年	グラビア印刷・紙	40.4×30.2
154	『主の祈り』	1899年 パリ、ピアッツァ 社により出版	挿絵本	41×31
155	フリーメイソンのゴブレット(ミュシャによるデザイン)	1923年	刻印されたクリスタル・カット・ガラス	18×11×11
156	チェコスロヴァキア・フリーメイソンの入団証書	1925年頃	リトグラフ	80×45

No.	作品名	制作年	技法	寸法(縦×横cm)
157	ボスニア伝説:死神ムルシア	1899年	木炭・紙	44.5×59.5
158	ボスニア伝説:ハサンガの嫁の死	1899年	木炭・紙	43.5×59.5
159	死者たち一打ち捨てられて	1899-1900年頃	木炭、パステル・青の紙	40.3×57.7
160	冬の陣営一炎上する町の近くで	1899-1900年頃	パステル・紙	47×61
161	泣く少女	1899-1900年頃	黒のチョーク、パステル・紙	47.5×32.3
162	幻影	1900年頃	パステル・紙	30×55
163	二人の人物(オルフェウスとエウリディーチェ)	1900年代初め	パステル・紙	62×38
164	女性の肖像	1910年代半ば -1925年頃	青のパステル・グレーの紙	42.5×34
165	《法律》の習作、「法律」を体現するヤロスラヴァ	1930年代初め	鉛筆、水彩、白のハイライト・紙	29.5×41
166	ヤロスラヴァの肖像	1927-35年頃	油彩・カンヴァス	73×60
167	百合の聖母	1905年	テンペラ、油彩・カンヴァス	247×182
168	《月と星:北極星》の下絵	1902年	インク、水彩・紙	56×21
169	《月と星:宵の明星》の下絵	1902年	インク、水彩・紙	56×21
170	《月と星:明けの明星》の下絵	1902年	インク、水彩・紙	56×21
171	《月と星:月》の下絵	1902年	インク、水彩・紙	56×21
172	儀式用の衣装を着用したボスニアの人々、バルカン半島への取材旅行より	1899年	オリジナル現像からのプリント	18×24
173	ボスニア=ヘルツェゴヴィナ館の装飾のためにポーズをとるモデル	1899-1900年	ガラスネガからプリント	24×18
174	ボスニア=ヘルツェゴヴィナ館の装飾のためにポーズをとるモデル	1899-1900年	ガラスネガからプリント	24×18

第6章:ミュシヤの祈り

175	第8回ソコル祭	1925年	カラーリトグラフ	123×82.7
176	1918-1928:チェコスロヴァキア共和国独立10周年記念	1928年	カラーリトグラフ	121×83.5
177	アメリカ・スラヴ協会の趣意書の表紙デザイン	1904年	黒と赤の鉛筆・紙	34.2×28
178	ブルックリン美術館 ミュシヤ展の下絵	1920年	ペン、インク、水彩・紙	49×32
179	スラヴ叙事詩展	1928-30年	カラーリトグラフ	183.6×81.2
180	《スラヴ叙事詩 第1番(原故郷のスラヴ民族)》の習作	1910-12年頃	油彩・カンヴァス	38×45
181	《スラヴ叙事詩 第2番(スヴァントヴィットの祝祭)》の習作	1910-12年頃	油彩・カンヴァス	38×45
182	《スラヴ叙事詩 第8番(ベツレヘム教会で説教するヤン・フス:真理は勝利する)》の習作	1915-16年頃	油彩・カンヴァス	33×46
183	《スラヴ叙事詩 第7番(クロミエージュのヤン・ミリッチ)》の習作	1915-16年頃	油彩・カンヴァス	34×23
184	《スラヴ叙事詩 第14番(クロアチアの総督ミクラージュ・シュビッチ・ズリンスキーによるシゲットの防衛)》の習作	1913-14年頃	下絵デッサンの写真、水彩とグアッシュのハイライト	31×44
185	《スラヴ叙事詩 第17番(聖アトス山)》の習作	1925-26年頃	白のハイライト、木炭・厚紙	33.2×37.4
186	《スラヴ叙事詩 第18番(スラヴ菩提樹の下で宣誓するオムランディーナの若者たち)》の習作	1925-26年頃	鉛筆、水彩・紙	29.7×44.2
187	《スラヴ叙事詩 第19番(ロシアにおける農奴制廃止)》の習作	1913-14年	水彩、グアッシュ・紙	30×38.5
188	《スラヴ叙事詩 第2番(スヴァントヴィットの祝祭)》の苦しむ人々のポーズをとるモデル	1911-12年	ガラスネガからプリント	18×24
189	《スラヴ叙事詩 第3番(スラヴ式典の導入)》の苦しむ人々のポーズをとるモデル	1911-12年	ガラスネガからプリント	24×18
190	《スラヴ叙事詩 第8番(ベツレヘム教会で説教するヤン・フス)》のヤン・フスに扮するミュシヤ	1915-16年頃	ガラスネガからプリント	24×18
191	《スラヴ叙事詩 第17番(聖アトス山)》のためのポーズをとるミュシヤとアシスタントのクナップ	1925-26年頃	ガラスネガからプリント	24×18
192	《スラヴ叙事詩 第18番(スラヴ菩提樹の下で宣誓するオムランディーナの若者たち)》のための写真: スラヴの理念を誓うチェコの若者に扮する子供たち	1925-26年	ガラスネガからプリント	18×24
193	《スラヴ叙事詩 第20番(究極のスラヴ民族)》のためにモデルに指示を出すミュシヤ	1926年	ガラスネガからプリント	18×24
194	聖ワシリー大聖堂と赤の広場、モスクワ	1913年	ガラスネガからプリント	18×24
195	農民の親子、「鐘の皇帝」を背景に、モスクワ、クレムリン	1913年	ガラスネガからプリント	18×24
196	ヒラダール修道院、聖アトス山	1924年	ガラスネガからプリント	18×24
197	《スラヴ叙事詩》初期の習作	1910-12年頃	木炭・紙	75×100
198	《スラヴの収穫祭》の習作	1910-12年頃	木炭・紙	75×100
199	《スラヴ叙事詩 第7番(クロミエージュのヤン・ミリッチ)》の習作	1916年	パステル・紙	281×153
200	《スラヴ叙事詩 第9番(クジージュキの集会)》の大型習作	1916年頃	パステル・紙	292×148
201	《スラヴ叙事詩 第9番(クジージュキの集会)》の下半分の下絵	1916年	チョーク・紙	293×260
202	モラヴィア教師合唱団	1911年	カラーリトグラフ	106×77
203	民族衣装を着た女性	1936年	油彩・カンヴァス	99×89
204	ミュシヤのチェコ民族衣装コレクション:レース・刺繍が施されたモラヴィアの帽子	1890年代あるいは20世紀初め	白の木綿製、レースと黄色の花柄刺繍による装飾	帽子:19×26.8、 紐:55.5
205	ミュシヤのチェコ民族衣装コレクション:モラヴィアの帽子、刺繍の施されたリボン付き	20世紀初め	木綿製、花柄の刺繍バンドによる装飾	帽子:19×26.8、 リボン:各 90×6.5
206	ミュシヤのチェコ民族衣装コレクション:クレープ織の袖付きモラヴィアのブラウス	20世紀初め	白の木綿製、花と幾何学模様の刺繍バンドとレースによる装飾	胴体:48×62、 袖:各 55

No.	作品名	制作年	技法	寸法(縦×横cm)
207	ミュシヤのチェコ民族衣装コレクション:モラヴィアのベスト	20世紀初め	絹製、花と幾何学模様の刺繍、レースによる装飾、白の木綿製裏地と真鍮のボタン付き	31×45.5
208	ミュシヤのチェコ民族衣装コレクション:レースと刺繍が施されたモラヴィアのエプロン	20世紀初め	口ウ引き藍染め木綿製、花柄の刺繍とレースによる装飾、ウールの縞柄織り紐	63×116.5、リボン:長さ 各 91
209	スラヴィア	1920年頃	油彩・カンヴァス	80×76
210	リブシェ	1915-17年頃	油彩・カンヴァス	145×128.3
211	力をもって自由へ、愛をもって団結へ! :ブラハ市民会館市長ホール(自力でI)の習作	1910-11年	鉛筆、木炭・カンヴァス	79×98
212	聖なる国の母よ、あなたの息子から愛と熱意を受け取ってください:ブラハ市民会館市長ホール(自力でIII)の習作	1910-11年	鉛筆、木炭・カンヴァス	130×90
213	屈辱と苦難を受けてもなお、また生き返るであろう、わが祖国よ! :ブラハ市民会館市長ホール(自力でII)の習作	1910-11年	鉛筆、木炭・カンヴァス	117×98
214	スラヴ民族の連帯:ブラハ市民会館市長ホール(天井画)の下絵	1910-11年	油彩・カンヴァス	直径50
215	征服されたブラハ:ブラハ市民会館市長ホール(パネル)の習作	1911年	ペン、インク、水彩・紙	30×93.5
216	自由を夢みて:ブラハ市民会館市長ホール(パネル)の習作	1911年	ペン、インク、水彩・紙	30×93.5
217	戦争	1916年	鉛筆、淡彩、白のハイライト・紙	36×47.5
218	戦争	1917年頃	木炭、パステル・紙	60×44
219	戦争	1917年	鉛筆・紙	47×40
220	《脅威》の習作	1912年	水彩、インク、グアッシュ・紙	94×76
221	《ロシア復興》の習作	1922年	ペン、インク、水彩・紙	52.2×30.2
222	南西モラヴィア拳闘一致宝くじ	1912年	カラーリトグラフ	128×95
223	《荒野の女》の習作	1923年	油彩・板	49.5×50
224	フランスはボヘミアを擁護する	1918年頃	油彩・カンヴァス	122×105
225	《叡智の時代》の習作(第2ヴァージョン)	1936-38年	鉛筆、水彩・紙	35×29
226	連作《三つの時代》の習作:理性の時代、叡智の時代、愛の時代	1936-38年	鉛筆、水彩・紙	12×42
227	はじめに:《創世記》シリーズの習作(未完成作品)	1935年頃	パステル・紙	各18×24.7
228	はじめに:《創世記》シリーズの習作(未完成作品)	1935年頃	パステル・紙	各18×24.7
229	《ハーモニー》の習作(初期のコンセプト)	1900年頃	パステル・紙	64×100
230	《希望の光》の習作	1933年頃	鉛筆、水彩・紙	66×50
231	ブラハ聖ヴィート大聖堂のステンド・グラスの窓:《聖キュリロスの死》を描いた左下パネルの最終下絵	1931年	インク、水彩、チョーク・紙	101×136.5
232	ブラハ聖ヴィート大聖堂のステンド・グラスの窓:聖キュリロスと聖メトディオスを描いた中央パネルの最終下絵	1931年	インク、水彩、チョーク・紙	98×140
233	ブラハ聖ヴィート大聖堂のステンド・グラスの窓:聖ルドミラを描いた中央パネルの最終下絵	1931年	インク、水彩、チョーク・紙	92×140
234	ブラハ聖ヴィート大聖堂のステンド・グラスの窓:祖母、聖ルドミラの横で跪く聖ヴァーツラフ(ボヘミア公)を描いた中央パネルの最終下絵	1931年	インク、水彩、チョーク・紙	92×139.5
235	ブラハ聖ヴィート大聖堂のステンド・グラスの窓:《聖メトディオスの死》を描いた右下パネルの最終下絵	1931年	インク、水彩、チョーク・紙	101×138.5
236	ハーモニー:エルサレムの教会のステンド・グラスの窓の下絵(実現せず)	1904年頃	インク、水彩、クレヨン・紙	90×130
237	物乞いとブルジョワ女性、モスクワ	1913年	ガラスネガからプリント	24×18
238	石割り、ブルガリア	1924年	ガラスネガからプリント	18×24
239	ロマの母と子、ブルガリア	1924年	ガラスネガからプリント	18×24
240	母と子:《ロシア復興》のためにポーズをとるモデル	1921-22年頃	オリジナル現像からのプリント	24×18
241	ブラハのヤン・アモス・コメンスキー・フリーメイソン・メモリアルの壁画のためにポーズをとるモデル	1930年頃	ガラスネガからプリント	18×24
242	《荒野の女》のポーズをとる妻マルシュカ	1922-23年頃	ガラスネガからプリント	18×24
243	燃えるろうそくと女	1933年	油彩・カンヴァス	78×89
244	希望の光	1933年	油彩・カンヴァス	96.2×90.7
245	母と子:子守唄(ブラハ・ハラホル合唱協会の壁画《歌》のための習作)	1921年頃	油彩・カンヴァス	98×88
246	宿命	1920年	油彩・カンヴァス	51.5×53.5



寛永再建380年記念 京都 清水寺展

【趣旨】

宝亀9年（778年）、奈良子島寺の延鎮上人によって開山された清水寺は、京都の名所としてのみならず世界遺産として国内外から多くの参詣者を集めている。寛永再建380年を記念した本展では、重要文化財であり、また秘仏でもある奥の院御本尊・三面千手観世音菩薩坐像（鎌倉時代）を展示した他、「清水型千手観音」と呼ばれる独特の形をした本堂御本尊の御前立《十一面千手観世音菩薩立像》や、寺の歴史を伝える《清水寺参詣曼荼羅》など、重要文化財を含む貴重な仏像・寺宝56点を紹介した。

【総括】

●評価すべき点

- ・重要文化財3件を含む仏像と、書、絵画などの貴重な寺宝をご紹介し、多くの方に清水寺1200年の歴史と仏教文化が生み出した美の遺産に親しんでいただくことができた。
- ・当館での仏像展示は初めてであり、仏教彫刻や仏教文化に興味のある県民のニーズに応えることができた。
- ・重要文化財の展示について文化庁の指導を仰ぎながら、経験と実績を積むことができた。

●検討課題

- ・文化庁からの正式な展示許可が下りるまで、重要文化財出品に関する広報を控えたため、告知が会期直前となってしまった。今後、国宝・重要文化財展示を予定する場合は、文化庁への申請を早期段階で行い、広報面で遅れを取らないようにする必要がある。

【開催日・その他】

=2013年8月23日(金)～10月14日(月・祝)(50日間)=
休館日：8/26、9/9、9/30

主催：新潟県立万代島美術館、NST、新潟日报社、清水寺展
新潟展実行委員会、北法相宗大本山音羽山清水寺

特別協賛：三井ホーム 北新越ホーム株式会社

後援：新潟市、新潟市教育委員会、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエム角田山ぼかぼかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

観覧料：一般……………1200円（1000円）〈1000円〉

大学・高校生……1000円（800円）

※中学生以下無料

※（ ）内は有料20名以上の団体料金

※〈 〉内は前売券料金

【関連行事】

・開眼法要（一般公開）

日時：8月23日(金) 10:00～10:30 美術館展示室

参加者数：120名

・記念講演会

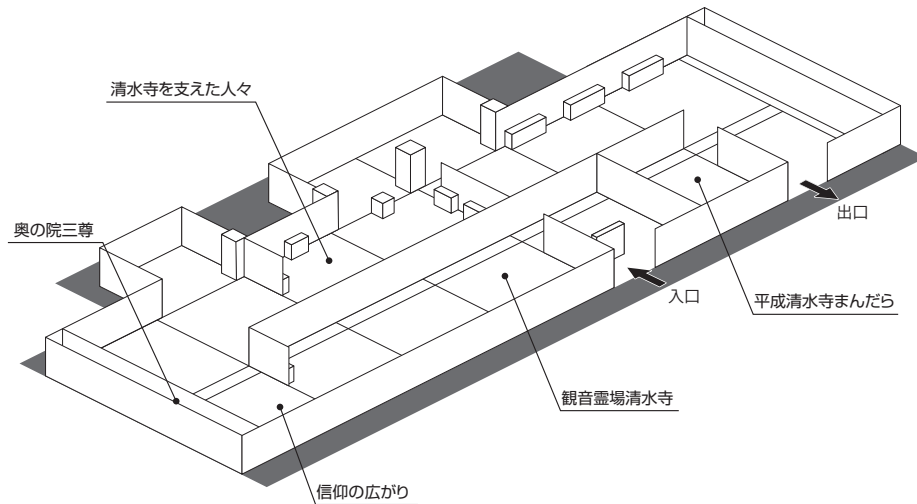
「『清水寺展』出開帳について」

日時：8月23日(金) 14:00～15:30 朱鷺メッセ

国際会議場

講師：森清範氏（清水寺貫主）

参加者数：276名



・講演会

「清水寺奥の院千手観音像をめぐる」

日 時：9月8日(日) 14:00~15:30 NICOプラザ
会議室 (万代島ビル11階)

講 師：根立研介氏 (京都大学大学院文学研究科教授・本
展監修者)

参加者数：180名

・作品解説会

日時および参加者数：

9月28日(土) 14:00~15:00 (65名)

9月29日(日) 11:00~12:20 (119名) / 14:00
~15:20 (82名) 美術館展示室

講 師：坂井輝久氏 (清水寺学芸員)

・結願法要

日 時：10月14日(月・祝) 17:45~18:00 美術館
展示室内

参加者数：130名

・揮毫書ロビー展示

記念講演会において森貞主が揮毫した書をロビーに展示。

期 間：8月24日(土)~10月14日(月・祝)

会 場：万代島美術館ロビー

【図 録】

仕 様：A4 124頁

編集・発行：北法相宗大本山音羽山清水寺

監 修：根立研介 (京都大学大学院文学研究科教授)
北法相宗大本山音羽山清水寺

内 容：ごあいさつ

「『清水寺展』開催にあたって」/ 森清範
図版

清水寺の歴史/下坂守

図版解説

清水寺史年表

清水寺年中行事

清水寺堂塔伽藍

掲載目録



【関連記事】

●新聞

10月3日 新潟日報

「[京都 清水寺展]に寄せて」／坂井輝久(清水寺学芸員)

その他 新潟日報

(8/18、8/22、8/23※夕刊、9/10、9/18、10/4)

〈連載〉

新潟日報「京の秘宝 清水寺展」

①奥の院 三面千手観世音菩薩坐像 (8/27)

②毘沙門天立像 (8/28)

③十一面観世音菩薩立像 (8/29)

④大随求菩薩坐像 (8/30)

⑤朝倉堂文殊菩薩騎獅像 (8/31)

●雑誌

トツときガイド 2013年9・10月号／今井有

●テレビ

NSTスーパーニュース

(8/22、8/23、9/8、9/11、9/12、9/28、10/3)

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	19,043
	前売	5,168
無料観覧者数	無料	3,896
	免除	1,616
総観覧者数		29,723
有料率 (%)		81.5

担当 今井有



【出品リスト】

No.	作品名	寸法(cm)	制作年	備考	材質技法
1	奥の院 三面千手観世音菩薩坐像(御本尊)	像高63.9	鎌倉時代	重要文化財・秘仏	木造玉眼金泥切金文様
2	奥の院 毘沙門天立像(御本尊脇侍)	像高112.4	鎌倉時代	秘仏	木造彫眼彩色
3	奥の院 地藏菩薩立像(御本尊脇侍)	像高87.7	平安時代	秘仏	木造彫眼彩色
4	大錫杖・小錫杖・高下駄	大錫杖 高265.0 小錫杖 高178.0 高下駄(各)長25.3	明治時代		鉄製
5	本堂 十一面千手観世音菩薩立像(御本尊御前立)	像高142.0	江戸時代		木造玉眼彩色
6	本堂 持国天立像(二十八部衆の内)	像高146.1	室町～江戸時代		木造玉眼彩色
7	本堂 增長天立像(二十八部衆の内)	像高133.3	室町～江戸時代		木造玉眼彩色
8	本堂 広目天立像(二十八部衆の内)	像高137.7	室町～江戸時代		木造玉眼彩色
9	本堂 多聞天立像(二十八部衆の内)	像高134.7	室町～江戸時代		木造玉眼彩色
10	本堂 摩目眼羅伽王立像(二十八部衆の内)	像高140.0	室町～江戸時代		木造玉眼彩色
11	本堂 迦楼羅王立像(二十八部衆の内)	像高140.0	室町～江戸時代		木造玉眼彩色
12	本堂 風神像	像高104.0	室町～江戸時代		木造玉眼彩色
13	本堂 雷神像	像高94.0	室町～江戸時代		木造玉眼彩色
14	宝蔵殿 十一面観世音菩薩立像	像高168.0	平安時代	重要文化財	木造彫眼彩色
15	宝蔵殿 毘沙門天立像	像高77.5	平安時代	重要文化財	木造彫眼彩色切金文様
16	随求堂 大随求菩薩坐像	像高110.0	享保18(1733)年 *江戸時代	秘仏	木造玉眼金泥漆箔
17	善光寺堂 如意輪観世音菩薩坐像	像高94.0	鎌倉時代		木造玉眼漆箔
18	朝倉堂 文殊菩薩騎獅像	像高45.4	南北朝時代		木造玉眼金泥切金文様
19	宝蔵殿 不動明王立像	像高96.6	平安時代後期		木造彫眼古色
20	宝蔵殿 大黒天半跏像	坐高54.3	平安時代		木造彫眼彩色
21	清水寺参詣雙荼羅	縦161.5 横174.5	室町時代後期(戦国時代)	京都府指定文化財	紙本彩色
22	清水寺境内図屏風	縦104.6 横302.0	江戸時代		紙本彩色
23	清水寺遊楽図屏風	縦85.0 横262.0	江戸時代		紙本彩色
24	首ふり地藏	像高50.0	現代		御影石
25	おもかるさん(重軽石)	高15.0 径25.0	現代		黒石
26	坂上田村麻呂公画像	縦99.0 横46.0	江戸時代		絹本彩色
27	行劔居士画像	縦112.0 横46.0	江戸時代		絹本彩色
28	延鎮上人画像	縦111.5 横46.0	江戸時代		絹本彩色
29	真興筆 縛日羅駄都私記	縦26.0 長1290.5	永延3(989)年書写 *平安時代中期	重要美術品	紙本墨書
30	願阿上人筆 清水寺再興勸進状	縦33.5 長202.5	文明11(1479)年 *室町時代後期		紙本墨書
31	清水寺再興奉加帳	縦33.5 長730.0	室町時代後期 *1479年直後		紙本墨書
32	豊臣秀吉筆 願文	縦45.5 長63.0	天正16(1588)年 *安土桃山時代		紙本墨書
33	豊臣秀吉筆 朱印状	縦43.3 長122.5	天正16(1588)年 *安土桃山時代		紙本墨書
34	徳川家光寄進 釣灯籠	高80.0 笠幅56.0 火袋回110.0	寛永10(1633)年寄進 *江戸時代初期		金銅製
35	[絵馬]伝狩野元信筆 意馬心猿図	縦130.0 横182.3	江戸時代		板金箔地彩色
36	月照上人筆 大日如来図	縦94.6 横66.5	江戸時代		絹本墨画金彩
37	月照上人筆 白衣観音図	縦106.0 横34.4	江戸時代		紙本墨画
38	月照上人筆 「唯心弥陀」	縦27.5 横61.5	江戸時代		紙本墨書
39	月照上人筆 一行書	縦103.0 横28.0	江戸時代		紙本墨書
40	月照上人筆 春雨・蛙の図	(右)縦23.5 横20.0 (左)縦29.0 横20.5	江戸時代		紙本墨書
41	信海上人筆 如来荒神図	縦141.5 横81.5	江戸時代		紺紙金泥
42	月照・信海上人筆 和歌短冊	縦47.0 横56.5	江戸時代		紙本墨書
43	月照・信海上人筆 和歌短冊帖	縦40.2 横48.4	江戸時代		紙本墨書

No.	作品名	寸法(cm)	制作年	備考	材質技法
44	[拓本]谷鉄臣筆 月照上人辞世歌碑	縦176.0 横79.0	安政5(1858)年辞世 *江戸時代末期 明治21(1888)年建碑		紙本拓本
45	[拓本]近衛忠熙筆 信海上人辞世歌碑	縦176.0 横66.5	安政6(1859)年辞世 *江戸時代末期 明治21(1888)年建碑		紙本拓本
46	[拓本]西郷隆盛筆 西郷隆盛公詩碑	縦176.0 横96.0	明治7(1874)年詠書 明治40(1907)年建碑		紙本拓本
47	富田溪仙筆 伎芸天図	縦266.0 横172.5	明治39(1906)年		絹本彩色
48	富田溪仙筆 訶梨帝母図	縦221.0 横174.5	明治41(1908)年		絹本彩色
49	谷口香嶠筆 残月山姥図	縦187.5 横112.3	明治40(1907)年		絹本彩色
50	良慶和上筆 白衣観音図/肖像画賛	(各)縦27.0 横24.0	昭和26(1951)年		絹本墨画/ 紙本墨画淡彩
51	良慶和上筆 「三界唯一心」「心外無別法」	(各)縦112.0 横33.0	昭和44(1969)年		紙本墨書
52	良慶和上筆 「無」	縦33.0 横47.5	昭和38(1963)年		紙本墨書
53	良慶和上筆 「夢」	縦42.5 横46.5	昭和39(1964)年		紙本墨書
54	良慶和上筆 「無事」	縦115.0 横29.0	昭和48(1973)年		紙本墨書
55	良慶和上筆 「南無観世音菩薩」	縦117.0 横28.0	昭和49(1974)年		紙本墨書
56	鹿見喜陌筆 成就院奉納襖絵「随息界~四季~」より		平成12(2000)年奉納		紙本彩色

新潟県立万代島美術館 開館10周年記念

篠山紀信展 写真力

THE PEOPLE by KISHIN



2013年12月14日(日)～2014年3月2日(日) | 新潟県立万代島美術館

休 日 12月16日(月)、年末有給(12月28日～1月3日)、1月14日(水)、1月20日(月)、2月3日(月)、2月7日(月)

観覧時間 10:00～18:00 ※観覧料は別途お支払いください。

観 覧 料 (税込) 一般 1000円(800円) / 大学・高校生 600円(500円) / 前売券(一般のみ) 800円

※中学生以下無料です。 ※16歳未満の子どもは保護者同伴です。

※ 新潟県立万代島美術館 3階307号展示室(新潟県万代島町)に展示します。展示室は、展示室設備が整った展示室です。

※ 展示室は、展示室設備が整った展示室です。展示室は、展示室設備が整った展示室です。

※ 展示室は、展示室設備が整った展示室です。展示室は、展示室設備が整った展示室です。

※ 展示室は、展示室設備が整った展示室です。展示室は、展示室設備が整った展示室です。

※ 展示室は、展示室設備が整った展示室です。展示室は、展示室設備が整った展示室です。

※ 展示室は、展示室設備が整った展示室です。展示室は、展示室設備が整った展示室です。

※ 展示室は、展示室設備が整った展示室です。展示室は、展示室設備が整った展示室です。

新潟県立万代島美術館
The People by KISHIN
2013年12月14日(日)～2014年3月2日(日)
10:00～18:00
1000円(800円) / 大学・高校生 600円(500円)
前売券(一般のみ) 800円
※中学生以下無料
※16歳未満の子どもは保護者同伴です。



新潟県立万代島美術館開館10周年記念 篠山紀信展 写真力

【趣 旨】

時代を見越し、時代に先駆ける活動が常に話題をさらってきた写真家篠山紀信(1940-)。有名人の肖像を中心に、篠山が50年間に亘って撮影してきた膨大な作品の中から厳選した、「写真力」みなぎる傑作の数々を展示空間に合わせた大型プリントで展示した。

【総 括】

●評価すべき点

- ・ 展覧会内容の明快さと魅力、写真家本人の知名度、それを生かしたテレビ新潟の広報展開など、すべての相乗効果により、想定以上の動員が実現した。結果として、来館者のすそ野を広げられ、来館者に写真家としての篠山紀信の実力を再認識し、写真の魅力を改めて感じてもらえた。
- ・ 企画当初から参加し、図録に論文を執筆した。
- ・ 独自性を出すため、新潟ゆかりの著名人を出品作品に加え、更に、篠山氏が10年間撮影を続けてきた舞踊集団Noism(新潟を活動拠点とする)の写真パネルを拝借してロビーに特別展示した。
- ・ 展示効果を優先して、キャプションを用いず、作品一覧を来館者に配布することを初めて試みたが、特別な問題もなかった。

●検討課題

- ・ 実行委員会を構成するテレビ新潟の積極的な広報の結果、想定以上の入館者数があった。そのため、収入を調停することが間に合わなくなってしまった。早めに対応できればよかった。

【開催日・その他】

=2013年12月14日(日)～2014年3月2日(日)(67日間) =
休館日: 12/16、12/28～1/3、1/14、1/20、2/3、2/17

主 催: 新潟県立万代島美術館、TeNYテレビ新潟、篠山紀信展新潟展実行委員会、読売新聞社、美術館連絡協議会
後 援: 新潟市、新潟市教育委員会、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新潟、エフエム角田山ほかほかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

協 賛: キヤノンマーケティングジャパン、ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン

協 力: 松竹(株)、りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館

企画協力: 後藤繁雄事務所+G/P gallery

観覧料: 一般……………1000(800)円(800円)

大学・高校生……………600(600)円

※中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金

※〈 〉内は前売券料金

【関連行事】

・ 対談

「篠山紀信×金森穰」

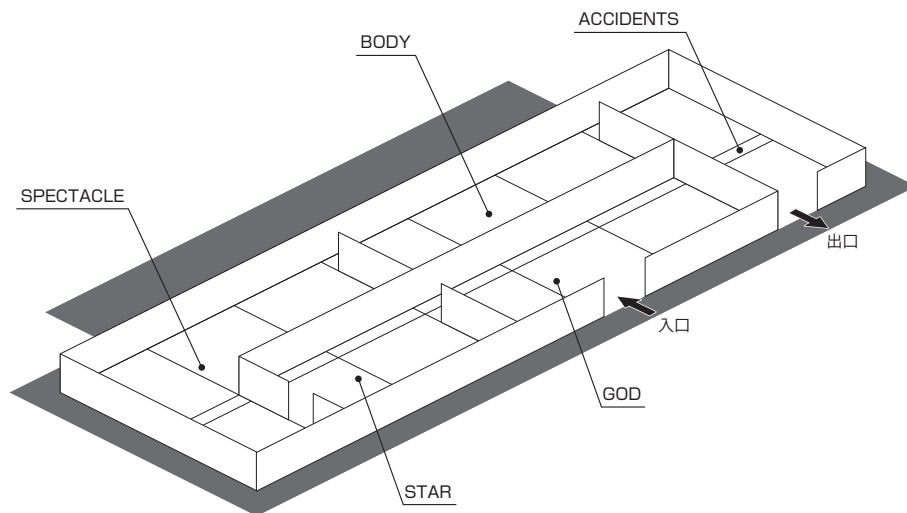
12月14日(日) 11:00～ NICOプラザ会議室(万代島ビル11階)

講 師: 篠山紀信氏

金森穰氏(演出振付家・舞踊家/Noism芸術監督)

後藤繁雄氏(京都造形芸術大学教授・編集者)

参加者数: 185名



・「アーティスト・トーク&サイン会」

1月18日(土) 14:00~ NICOプラザ会議室(トーク)、美術館ロビー(サイン会)

講師: 篠山紀信氏

参加者数: 320名(トーク)、95名(サイン会)

・記念撮影会

ハッピーバレンタインデー企画「ジョン・レノン&オノ・ヨーコの写真の前でLove&Peaceな写真を撮ろう♥」

2月14日(金)/2月15日(土) 万代島美術館ロビー

参加者数: 40組80名/90組180名

プレゼント: フォトフレーム(先着25組限定)



【図録】

仕様: 297×226mm 208頁

編集: 後藤繁雄

インタビュー: 河尻亨一(元「広告批評」編集長/東北芸術工科大学客員教授)

翻訳: パメラ・ミキ

アート・ディレクション&デザイン: 中島英樹(中島デザイン)

デザイン・アシスタント: 三牧広宜(中島デザイン)

協力: 義江邦夫、株式会社篠山紀信、八田尚子(後藤繁雄事務所)、G/P gallery、田宮宣保

制作進行: 釣木沢美奈子(PIE BOOKS)

発行: 読売新聞東京本社

発売元: パイ インターナショナル

内容: ごあいさつ 主催者

論文「篠山紀信の写真の世界」/ 桜井武

論文「駆動する永久機関 篠山紀信の戦い」/ 福士理

論文「『写真力』の凄み」/ 桐原浩

作品図版

篠山紀信 年代別スペシャルセレクション

篠山紀信インタビュー 写真力をめぐって

年譜

謝辞

【関連記事】

●新聞

12/18 新潟日報
「写真家・篠山紀信さんに聞く」

その他 読売新聞 (12/14、1/11、1/26、2/11、3/1)
新潟日報 (12/14、1/19、1/26、2/11、3/1)
信濃毎日新聞 (1/15)
毎日新聞 (1/19)

〈連載〉

- ・読売新聞 「篠山紀信展 写真力」
 - ① 《宮沢りえ》／桐原浩 (2/4)
 - ② 《山口百恵》／桐原浩 (2/5)
 - ③ 《三島由紀夫》／桐原浩 (2/6)
 - ④ 《大友瑠斗 (9) 大友乃愛 (7)》／桐原浩 (2/7)

●雑誌

雑誌WEEK 12/6号 インタビュー記事
月刊Niigata 12月号 インタビュー記事
月刊にいがたタウン情報 記事広告「新潟アート通信」見開き2ページ

●テレビ

12/13 テレビ新潟「夕方ワイド新潟一番」

●ラジオ

12/13 FM PORT 「Weekend Sw!tch」番組 出演
(インタビュー、電話生中継)
1/23 FM新発田 「ごきげんラジオ769」番組出演 (インタビュー、収録)

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	42,147
	前売	5,761
無料観覧者数	無料	7,037
	免除	1,934
総観覧者数		56,879
有料率 (%)		84.2

担当 桐原浩



【出品リスト】

No.	作品名	撮影年	寸法(縦×横mm)
GOD			
1	美空ひばり	1989	3401×4301
2	きんさんぎんさん	1999	3401×3405
3	大原麗子	1988	3402×3400
4	バルテュス	1993	3402×2601
5	三島由紀夫	1970	3398×3404
6	三島由紀夫	1969	3400×3400
7	勝新太郎	1992	3397×3405
8	夏目雅子	1982	3400×3400
9	渥美清	1973	3400×3400
10	ジョン・レノン	1980	600×400
11	武満徹	1990	600×400
12	中村勘三郎『お祭り』、鳶頭鶴松	2011	600×400
13	森光子	2008	600×480
14	田中角栄	1974	600×400
STAR			
15	市川新之助(現 海老蔵)	1999	2998×3000
16	川上未映子	2009	1000×1500
17	三宅一生	1971	1000×1500
18	Y.M.O	2007	1200×1500
19	小林旭	1974	1500×1200
20	北野武	1998	1000×1500
21	キャロル	1973	1500×1500
22	田村正和	1973	1500×1500
23	舟木一夫	1973	1500×1500
24	高橋大輔	2011	1500×1000
25	浅田真央	2011	1500×1000
26	王貞治	1973	1500×1000
27	長嶋茂雄	1974	1500×1000
28	澤穂希	2011	1500×1000
29	大江健三郎	1985	1500×1000
30	杏	2011	1000×1500
31	ピンク・レディー	1976	1000×1500
32	AKB48	2010	3000×2000
33	山口百恵	1977	2000×2998
34	宮崎美子	1980	1500×1500
35	安室奈美恵	1997	1500×1500
36	満島ひかり	1997	1500×1200
37	栗田ひろみ	1972	1500×1000
38	野田秀樹	2012	1500×1000
39	宮崎あおい	2008	1500×1000
40	松田聖子	2005	1500×1000
41	蒼井優	2011	3000×2000
42	大竹しのぶ	1979	1500×1200
43	倍償美津子	1978	1200×1500
44	原田美枝子	1977	480×600
45	岸恵子	1976	1500×1200
46	岩下志麻	1976	480×600
47	加賀まりこ	1978	1200×1500
48	吉永小百合	1988	2998×2000
49	綾瀬はるか	2012	1500×1500
50	ももいろクローバーZ	2012	1500×1000
51	壇蜜	2013	3000×2000
52	落合博満	2013	1500×1000
53	佐々木希	2013	1500×1000
54	渡辺謙	2013	1500×1200
55	能年玲奈	2013	1000×1500

No.	作品名	撮影年	寸法(縦×横mm)
SPECTACLE			
56	坂東玉三郎『助六由縁江戸桜』、揚巻	1988	3000×2200
57	坂東玉三郎『籠釣瓶花街酔醒』、八ツ橋	1999	1200×1500
58	坂東玉三郎『壇浦兜軍記 阿古屋』、阿古屋	2000	1200×1500
59	坂東玉三郎、中村時蔵、十七代目市村羽左衛門『助六由縁江戸桜』、揚巻、白玉、髭の意休	1988	2997×7250
60	中村勘九郎『春興鏡獅子』、小姓弥生後に獅子の精	2012	1500×1000
61	市川海老蔵『暫』、鎌倉権五郎景政	2009	1500×1000
62	尾上菊之助『京鹿子娘道成寺』白拍子花子	2011	1500×1000
63	中村勘九郎『土蜘蛛』、僧智壽実は土蜘蛛の精	2012	1500×1000
64	市川海老蔵『船弁慶』、平知盛の霊	2007	1500×1000
65	中村獅童『寿曾我対面』、小林朝比奈	2012	1500×1000
66	中村七之助『於染久松色読販』、お光	2012	1500×1000
67	中村又五郎『菅原伝授手習鑑 車引』、梅王丸	2011	1500×1000
68	中村橋之助『寿曾我対面』、曾我五郎時致	2012	1500×1000
69	中村獅童『祇園祭礼信仰記』、松永大膳	2008	1500×1000
70	中村獅童『船辨慶』、武蔵坊弁慶	2005	1500×1000
71	中村七之助『祇園祭礼信仰記』、雪姫	2009	1500×1000
72	市川海老蔵『勸進帳』、富樫左衛門	2011	1500×1000
73	中村勘太郎(現勘九郎)『積恋雪関扉』、関守関兵衛実は大伴黒主	2011	1500×1000
74	市川染五郎『碁盤忠信』、佐藤四郎兵衛忠信	2011	1500×1000
75	市川海老蔵『助六由縁江戸桜』、花川戸助六実は曾我五郎	2010	1500×1000
76	中村獅童『雨の五郎』、曾我五郎時致	2005	1500×1000
77	中村七之助『於染久松色読販』、土手のお六	2012	1500×1000
78	片岡仁左衛門『菅原伝授手習鑑 道明寺』、菅丞相	2006	1500×1000
79	片岡仁左衛門『絵本合法衛』、立場の太平次	2011	1500×1000
80	片岡仁左衛門『菅原伝授手習鑑 寺子屋』、松王丸	2008	1500×1000
81	中村勘九郎、襲名披露口上姿	2011	1200×1800
82	中村扇雀、片岡亀蔵、片岡市蔵、中村勘三郎、中村七之助、坂東新悟『口上』	2006	1200×1800
83	MAGIC	2008	2798×8135
84	ミッキー、ミニー、シノラマン	2008	1000×1500
85	ミッキー、ミニー、ドナルド、デイジー、ブルート	2008	1000×1500
86	ミッキー、ブルート	2010	1500×1000
87	ミニー	2010	1500×1000
88	ミッキー、ミニー、ダッフィー	2011	1000×1500
89	東京ディズニーランド25周年	2008	2998×2369
90	豊島園プール	1987	2997×7284
91	夢少女・後藤久美子	1988	2795×8277
92	草間彌生	2004	600×400
93	夢少女・後藤久美子	1988	1998×5799
94	中村獅童『雨の五郎』、曾我五郎時致	2005	1500×1000
95	中村獅童『仮名手本忠臣蔵』、斧定九郎	2006	1500×1000
96	尾上菊之助『籠釣瓶花街酔醒』、兵庫屋八ツ橋	2012	1500×1000
BODY			
97	20XX TOKYO	2008	1500×1000
98	カルメン・マキ	1969	1500×1500
99	宮沢りえ	1991	2600×2028
100	黒柳徹子	1969	1500×1500
101	樋口可南子	1990	1500×1500
102	荻野目慶子	1995	1500×1500
103	江波杏子	1968	1500×1500
104	高岡早紀	1994	3200×3197
105	マリー・ヘルピン	1972	1500×1500
106	浅丘ルリ子	1968	1500×1500
107	Kaleidoscope	1968	2400×3005
108	AESTHETICS	2006	1000×1500
109	AESTHETICS	2006	1000×1500
110	THE BIRTH	1968	1500×1500
111	TWIN	1969	1500×1000

No.	作品名	撮影年	寸法(縦×横mm)
112	Death Valley	1969	1500×1000
113	DANCER	1968	1500×1000
114	MANUEL LEGRIS	1999	1500×1500
115	MANUEL LEGRIS	1999	2000×3005
116	VLADIMIR MALAKHOV	1998	3000×1600
117	VLADIMIR MALAKHOV	1998	3000×1680
118	VLADIMIR MALAKHOV	1998	3000×1820
119	刺青の男たち	1986	2400×8185
120	大相撲	1995	2397×5860
121	朝青龍	2008	1500×1000
122	真乃花	1991	1000×1500
123	白鵬	2008	1500×1000
124	刺青の女	1971	1000×1000
125	刺青の男女	1971	1000×1500
126	本木雅弘	1991	1500×1500

ACCIDENTS

127	大橋公雄(67) 仙台市	2011	2400×1935
128	佐藤明美(44) 気仙沼市	2011	2404×1934
129	伊東みつ子(53) 伊東智(60) 気仙沼市	2011	2400×1936
130	近藤美穂(27) 気仙沼市	2011	2398×1935
131	阿部末子(62) 阿部俊一(64) 亘理町	2011	2398×1935
132	佐々木正子(77) 陸前高田市	2011	2401×1935
133	前田久美子(33) 前田翔太(2) 仙台市	2011	2397×1934
134	大友瑠斗(9) 大友乃愛(7) 名取市	2011	2398×1936
135	安田千穂(32) 山元町	2011	2399×1935
136	小山芳(24) 石川直幸(24) 気仙沼市	2011	2401×1936
137	佐藤みね子(74) 山元町	2011	2401×1935

PUBLIC

138	ジョン・レノン オノ・ヨーコ	1980	2700×3600
-----	----------------	------	-----------

Noism写真展(撮影:篠山紀信)

以下の作品はすべて りゅーとぴあ 新潟市芸術文化会館所蔵

N-1	中国の不思議な役人	2011	1030×1456
N-2	中国の不思議な役人	2011	1456×2060
N-3	中国の不思議な役人	2011	1030×1456
N-4	中国の不思議な役人	2011	1030×1456
N-5	SHIKAKU	2004	1456×2060
N-6	中国の不思議な役人	2011	1030×1456
N-7	中国の不思議な役人 リハーサル	2011	730×1030
N-8	SHIKAKU	2004	730×1030
N-9	SHIKAKU	2004	730×1030
N-10	SHIKAKU	2004	730×1030
N-11	SHIKAKU	2004	730×1030
N-12	PLAY 2 PLAY—干渉する次元	2007	730×1030
N-13	sense-datum	2006	730×1030
N-14	PLAY 2 PLAY—干渉する次元	2007	730×1030
N-15	Nameless Hands～人形の家	2008	730×1030
N-16	Nameless Hands～人形の家	2008	730×1030

※N-1,2,3,4,6,7 撮影協力: サイトウ・キネン・フェスティバル松本



梅佳代展 UMEKAYO

【趣旨】

なにげない日常のなかに潜むさまざまな光景を独自の視点から切り取ってみせる写真家・梅佳代（1981- ）の初期から最新作までを展示。作家の活動の根幹ともいえるスナップ写真による〈シャッターチャンス〉シリーズ、身近な他者との関係性を軸に展開する〈男子〉〈じいちゃんさま〉シリーズなど約600点の作品により、梅佳代の魅力を多角的に紹介した。

【総括】

●評価すべき点

- ・「篠山紀信展」に引き続いての写真展となった。2つの展覧会により、現代写真の多様な動向を紹介することができた。
- ・アンケートでは「思わず笑ってしまった」「涙が出た」などの感想が多く寄せられた。美術にあまり馴染みのない来館者でも共感できる親しみやすい展示内容であった。

●検討課題

- ・3月末までの会期中、講演会やトークなどを開催できれば、より多くの方に展覧会を楽しんで頂けた。

【開催日・その他】

=2014年3月15日(土)～3月31日(月) (16日間) =

※全体会期は3月15日(土)～5月6日(火・休) (49日間)

休館日：3/24、4/7、4/21

主 催：新潟県立万代島美術館、NST

後 援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新潟、エフエム角田山ぼかぼかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

技術協力：キヤノン株式会社

企画協力：pdash

制作協力：産経新聞社

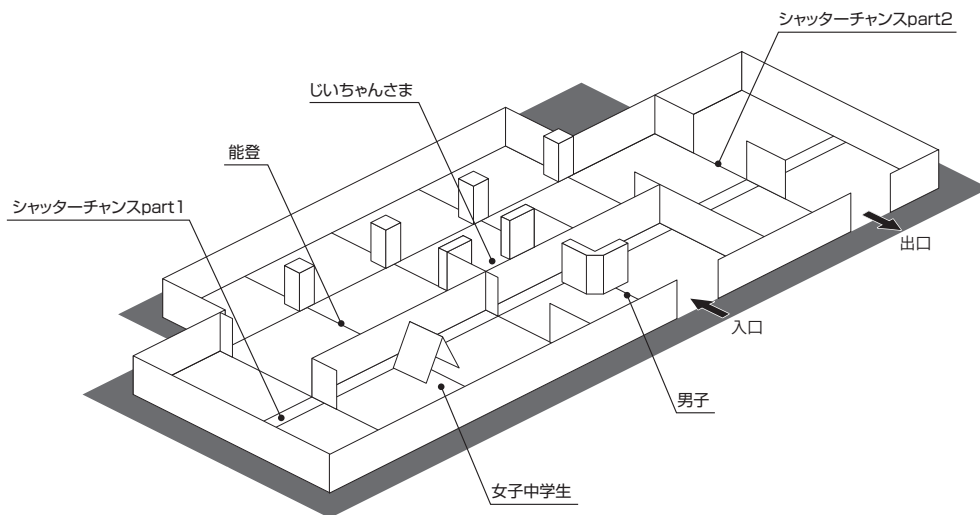
観覧料：一般……………800円 (600円) 〈600円〉

大学・高校生……………600円 (400円)

※中学生以下無料

※ () 内は有料20名以上の団体料金

※ 〈 〉 内は前売券料金



【図録】

仕様：A4変型
発行：産経新聞社
制作：株式会社新潮社
内容：ごあいさつ

作家略歴・展覧会歴

図版

シャッターチャンス Part 1

女子中学生

能登

じいちゃんさま

男子

シークレット

シャッターチャンスPart2

「様相と距離 梅佳代の作品をめぐって」(福土理)

「はじめてのおつかい」(写真・文 都築響一)

梅佳代 主要文献目録(今井有・中村亜紀子・福土理編)

掲載作品リスト



【関連記事】

●新聞

産経新聞 (3/15)

新潟日報 (3/15)

●雑誌

『月刊にいがた』4月号 (2014年3月25日発行)

※作家インタビュー

『バスマガジン』4と5月号 (2014年3月28日発行)

※作家インタビュー

●テレビ

3月11日 NHK新潟支局「お昼はじょんのび」

3月14日 NST スーパーニュース

3月15日 NST スマイルスタジアム

(作家インタビュー)

●ラジオ

3月25日 FM PORT「MORNING GATE」作家インタビュー

【観覧者数】

※3/15～3/31まで

有料観覧者数	当日	1,678
	前売	321
無料観覧者数	無料	495
	免除	149
総観覧者数		2,643
有料率 (%)		75.6%

担当 今井有

【出品リスト】

男子 2000-2002年 68点
 女子中学生 2000-2001年 16点
 シャッターチャンスPart1 2002-2012年 10点
 能登 2004-2013年 89点
 じいちゃんさま 1998-2014年 343点
 シャッターチャンスPart2 2000-2012年 69点

計595点



近代美術館開館20周年記念事業

20周年記念ロゴマーク募集とロゴマーク展

当館と隣接する長岡造形大学に依頼し、学生からロゴマークを募集し、最も優秀なものを年間スケジュールリーフレット及びこの年開催する全ての企画展の印刷物に使用した。

多くの応募数があり、作品の水準も高かったことから、当館ギャラリーを使用して「開館20周年ロゴマーク展を開催した。

1. 開館20周年記念ロゴマーク

(総出品者数120名)

最優秀賞：大堀楓（長岡造形大学視覚デザイン学科3年生）

審査員：徳永健一（当館館長）

長谷川博紀氏（長岡造形大学教授・学長補佐）

玉木務氏（新潟交通商事株式会社代表取締役社長）

2. 「始まりの門出の開館20周年ロゴマーク展」

主催：新潟県立近代美術館、長岡造形大学

会場：新潟県立近代美術館ギャラリー

観覧料：入場無料

会期：4月23日(火)～5月8日(水)（15日間）

観覧者数：1,376名

担当：立川厚生

近代美術館企画展ポスター展

開館から20年間で当館及び新潟県民会館ギャラリーで開催した企画展の全ポスター110点を一堂に展示した。

会期：7月3日(水)～23日(火)

会場：新潟県立近代美術館ギャラリー

観覧料：無料

観覧者数：1,857名

担当：松矢国憲

20周年記念コレクション展

※常設展第2期の項を参照

美術鑑賞講座

新収蔵 2003～2012 この10年を振り返る

7月6日(土) 14:00～ 講堂

講師：松矢国憲（当館専門学芸員）

近代美術館の名品から

7月27日(土) 14:00～ 講堂

講師：藤田裕彦（当館学芸課長）

※教育普及 近代美術館 イベントの項を参照

博物館実習生による作品ガイド

近代美術館の博物館実習に参加した大学生による、コレクション展に展示された作品の解説会をおこなった。

日時：7月31日(水) 13:00～

担当：伊澤朋美

開館記念日の特典

開館20周年を記念し、開館記念日（7月15日（月・祝））には下記の特典を設けた。

1. コレクション展「20周年記念コレクション展」観覧無料
2. 企画展「ルーベンス」「オランダ・ハーグ派展」の特製うちわを配布
3. レストラン「広告塔」において、食事注文の方にドリンクプレゼント
4. ミュージアムショップ「KINBI」でアートグッズセットを販売

「HANAを咲かそう!」プロジェクト

【趣 旨】

近代美術館のアート・ボランティア及び県立美術館友の会会員と近代美術館の協働企画としておこなったプロジェクト。別々に存在しているボランティアと友の会会員、そして地域との連携を目指して活動をおこなった。

友の会&ボランティアで企画したワークショップ——プラスチックのコップとオープンを使用し、フラワーコースターを作る——を地域のイベントに持ち込み実施。そこでできた作品を美術館で展示することにより、美術館に親しみを持ち、身近に感じてもらうことを目標とした。

【成果と課題】

- ・友の会会員及びボランティアの自発的な活動を引き出すことができた。
- ・複数の会場に出掛け、ワークショップをおこない、充実した時間を持つことができた。
- ・およそ1,000枚もの多くの作品が集まり、アイデアを持ち寄りながら効果的な展示をすることができた。素材が透明なプラスチックであったため、展示されたものはガラス面によく映え、ロビーに賑やかな明るさを演出し、来館者からも好評をいただくことができた。
- ・作品を当館だけでなく、ワークショップをおこなった国営越後丘陵公園にも展示するなど、地域の施設との連携が生まれた。
- ・当館としては新しい試みであったが、友の会会員&ボランティアの参加者は充実はしたが疲弊もし、継続した活動にはつながらなかった。ハードルをより低くし、無理のない範囲でおこなうことが必要である。

【館外ワークショップ日程】

会場	日程	協力者数	
長岡市花いっぱいフェア (子育ての駅ぐんぐん)	5月25日(土)	11:00~12:00	4名
		13:00~16:00	4名
	5月26日(日)	10:00~12:00	4名
		13:00~16:00	5名
三島コミュニティセンター	5月28日(火)	16:00~	3名
雪国植物園	6月1日(土)	13:00~16:00	3名
	6月2日(日)	13:00~16:00	3名
下小国小学校	6月4日(火)		3名
国営越後丘陵公園 「香りのばらまつり」	6月8日(土)	10:00~16:00	6名
	6月9日(日)	10:00~16:00	6名
おぐに荘	6月13日(木)	13:00~15:00	3名
今朝白保育園	6月19日(水)	9:30~	3名

展示期間

- ・近代美術館 7月2日(火)~8月18日(日)
- ・国営越後丘陵公園 12月6日(金)~2014年3月31日(月)

担当：宮下東子

長岡大学茶道部によるお茶会

近代美術館が開館20周年=20歳ということで、若者との交流により美術館を活性化させることを目指し、地元の長岡大学茶道部にお茶会を依頼した。長岡大学からも賛同いただき、新たな連携が生まれた。

日 時：9月28日(土) 11:00~15:30

会 場：新潟県立近代美術館ロビー

参加者数：120名

担当：宮下東子



イベント

講演会

開催日	時間	関連展覧会名	演題	講師	内容	参加者数
4月21日(日)	14:00~15:30	東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華	「近代日本画の精華」展について	野口玲一 (三菱一号館美術館学芸グループ 長・本展監修者)	本展出品作品を紹介しながら、日本画の魅力、日本画の流れについて分かりやすく解説	55
6月29日(土)	14:00~15:30	ルーベンスー栄光のアントワープ工房と原点のイタリア	ルーベンス工房と若き日のヴァン・ダイク	中村俊春 (京都大学大学院教授・本展監修者)	17世紀のアントワープが生んだ二人の代表的な画家の関係について、ルーベンス工房の絵画システムに触れながら紹介	85
6月30日(日)	14:00~15:30	ルーベンスー栄光のアントワープ工房と原点のイタリア	お話&DVD「ルーベンスの足跡を訪ねて〜ベルギー・アントワープ」	ベルナルド・カトリッセ (フランダースセンター館長) 須藤美和子 (ベルギー・フランダース政府観光局 日本地区局長)	ルーベンスが暮らしたアントワープの文化、芸術、生活について紹介した後、DVD「世界美の旅 第15巻 ルーベンス〜ネロの愛したルーベンス」(2006年/30分)を鑑賞	145
7月21日(日) 7月28日(日)	14:00~14:30	ルーベンスー栄光のアントワープ工房と原点のイタリア	バロックの巨匠ルーベンスの魅力	平石昌子 (当館学芸課長代理)	学芸員によるスライドトーク ルーベンスの生涯や時代から企画展を紹介	55 60
8月31日(土)	14:00~15:30	オランダ・ハグ派展	ファン・ゴッホとハグ派	古谷可由 (ひろしま美術館学芸部長・本展日本側監修者)	ファン・ゴッホとハグ派の関係について、作品と時代背景に触れながら紹介	65
11月9日(土)	13:00~15:00	館長 庵野秀明 特撮博物館	オープニング記念トークセッション「特撮塾@にいがたー特撮を語ろう、未来に向けてー」	尾上克郎 (株式会社特撮研究所専務取締役・特撮監督) 原口智生 (映画監督・特技監督・造型師) 樋口真嗣 (映画監督) 三池敏夫 (株式会社特撮研究所/特技監督)	平成25年度文化庁メディア芸術情報拠点・コンソーシアム構築事業 特撮の第一線の作り手が集い、特撮の技や魂とともに文化としての未来への継承を訴える	146

計611名

講座

開催日	時間	関連展覧会名	講座名	講師	内容	参加者数
4月27日(土)	14:00~15:30	東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華	装いからみる美人画	宮下東子 (当館学芸課長代理)	企画展に出品されている美人画を、きものや髪型など「装い」の視点から読み解く	45
7月6日(土)	14:00~15:30	コレクション展第2期 20周年記念コレクション展	開館20周年記念Ⅰ 新収蔵2003-2012 この十年を振り返る	松矢国憲 (当館専門学芸員)	この10年間の収集作品をもとに、美術館の収集活動を振り返る	16
7月27日(土)	14:00~15:30	コレクション展第2期 20周年記念コレクション展	開館20周年記念Ⅱ 近代美術館の名品から	藤田裕彦 (当館学芸課長)	近代美術館の所蔵作品約6000点の中から、特に人気の高い作品について、鑑賞のポイントを詳しく紹介	35
10月5日(土)	14:00~15:30	コレクション展第3期 展示室2 境界のイメージ	日常にひそむ境界	伊澤朋美 (当館美術学芸員)	コレクション展「境界のイメージ」の出品作品から、見る者をもう一つの世界に誘う境界のイメージを概観	21
3月15日(土)	14:00~15:30	コレクション展第5期 展示室3(後期) セザンヌの水浴	セザンヌの水浴をめぐる	平石昌子 (当館学芸課長代理)	セザンヌの《水浴》図を中心に、神話や構図の視点から絵画の秘密に迫る	27
3月22日(土)	14:00~15:30	生誕120年 岩田正巳展	「新興大和絵」の時代	長嶋圭哉 (当館主任学芸員)	新興大和絵運動の位置付けについて、正巳、松岡映丘、山口蓬春などの作品をもとに考察	42

計186名

映画鑑賞会

開催日	時間	関連展覧会名	タイトル	内容	参加者数
6月30日(日)	14:00~15:30	ルーベンスー栄光のアントワープ工房と原点のイタリア	世界美の旅 第15巻 ルーベンス〜ネロの愛したルーベンス	2006年/30分 講演会とつなげて上映	145
7月13日(土) 7月20日(土) 7月26日(金)	14:00~15:30	ルーベンスー栄光のアントワープ工房と原点のイタリア	アニメ完結版鑑賞会「フランダースの犬」	1975年/日本/90分	202 200 100
9月7日(土) 9月16日(月)	14:00~15:40	オランダ・ハグ派展	オランダの光	2003年/オランダ/94分/製作・監督:ピーターリム・デ・クローン	59 25
10月12日(土)	14:00~14:30	オランダ・ハグ派展	生涯をかけた情熱と表現 フィンセント・ファン・ゴッホ	1996年/NHKサービスセンター/30分	35

開催日	時間	関連展覧会名	タイトル	内 容	参加者数
12月7日(土)	10:00~12:00	館長 庵野秀明 特撮博物館	館長庵野秀明、副館長樋口真嗣 セレクション「円谷プロ特撮作品上映会」	「特撮博物館」開催記念版DVD・BOX「円谷特殊技術研究所」(監修:庵野秀明)より 『ウルトラマン』第34話「空の贈り物」/『ウルトラセブン』第43話「第四惑星の悪夢」/『帰ってきたウルトラマン』第31話「悪魔と天使の間に…」/『ウルトラマン80』第40話「劇ファイト! 80vsウルトラセブン」/『ウルトラファイト』第58話「神か悪魔かテレスドン」	69
	14:00~16:00			「特撮博物館」開催記念版DVD・BOX「円谷特殊技術研究所」(監修:庵野秀明)より 怪奇大作戦 第4話「恐怖の電話」/『ミラーマン』第44話「魔の救出大作戦」/『ファイヤーマン』第12話「地球はロボットの墓場」/『戦えマイティジャック』第16話「来訪者を守り抜け」/『ウルトラファイト』第129話「セブン二刀流」	69
2月8日(土)	14:00~16:00		シャレード	没後20年オードリー・ヘプバーン特集として開催 1963年/アメリカ/113分 出演:オードリー・ヘプバーン、ケーリー・グラント他	95
2月22日(土)	14:00~16:00		ローマの休日	没後20年オードリー・ヘプバーン特集として上映 1953年/アメリカ/118分 出演:オードリー・ヘプバーン、グレゴリー・ペック他	90
3月16日(日)	14:00~15:30	コレクション展第5期(後期)セザンヌの水浴	巴里の屋根の下	1930年/フランス/90分 監督:ルネ・クレール	70
3月29日(土)	14:00~14:30	生誕120年 岩田正巳展	せたがや文化人・人と風土 岩田正巳	1982年/東宝映像株式会社/26分 企画:世田谷区	9

計1,168名

ワークショップ

開催日	時間	関連展覧会名	ワークショップ名	講 師	内 容	参加者数
5月5日(日)	13:00~16:00	東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華	富士美作品でつくるミニ掛軸	宮下東子(当館学芸課長代理) 長嶋圭哉(当館主任学芸員)	本展出品作品の図版を使い、千代紙等でミニ掛軸を作成	13
6月23日(日)	14:00~15:00		はっけん!びじゅつかんツアー	伊澤明美(当館美術学芸員)	美術館の裏側を探検しながら、美術館の機能や作品について新たな発見をする	5
7月7日(日)	14:00~15:00	ルーベンスー栄光のアントワープ工房と原点のイタリア	ゲームでルーベンス	宮下東子(当館学芸課長代理) 青木善治(当館副参事)	バロック時代の巨匠ルーベンスの作品について、ゲーム感覚で楽しく学ぶ	7
8月18日(日)	14:00~15:50	コレクション展第2期20周年記念コレクション展	キンビでカラーレクション	宮崎朋子氏(カラーコンサルタント)	新潟県立美術館友の会、特定非営利活動法人ワーキングウイメンズアソシエーション、新潟県立近代美術館の共催企画 アート作品を見ながら「色の法則」を学ぶ	30
9月29日(日)	13:00~16:00	オランダ・ハーグ派展	ゴッホ式・風景をつかまえよう	佐藤久美子(当館学芸課長代理)	ゴッホと同じ方法を体験しながら風景画を描く	3

計58名

ギャラリートーク(対話型鑑賞)

開催日	時間	関連展覧会名	ワークショップ名	講 師	内 容	参加者数
8月10日(土)	11:00~11:50	コレクション展第2・3期	ギャラリートーク「美術でおしゃべり」	宮下東子(当館学芸課長代理)	来館者と対話型鑑賞を行う ナビゲータと来館者とが話し合いながら、見つけたり考えたりして、所蔵品を鑑賞	20
8月17日(土)				伊澤明美(当館美術学芸員)		6
8月24日(土)				佐藤久美子(当館学芸課長代理)		10

計36名

体験コーナー

開催日	時間	関連展覧会名	タイトル	担 当	内 容	参加者数
1月31日(金)~3月9日(日)	9:00~17:00	コレクション展第5期(前期)齋藤三郎生誕100年	窓絵を描こう	青木善治(当館副参事) 宮下東子(当館学芸課長代理)	コレクション展示室外部に常時コーナーを設置 齋藤三郎《色絵唐草窓絵椿模様大壺》を鑑賞し、自分の描きたい窓絵をシートに描く	50

計50名

その他のイベント

開催日	時間	関連展覧会名	催し名	講師等	内 容	参加者数
11月30日(土)	10:30~12:00~	館長 庵野秀明 特撮博物館	ウルトラマン撮影会	対象: 初代ウルトラマン	展示室内ミニチュアステージにおける撮影会	700
12月14日(土)	13:30~15:00~		ウルトラセブン撮影会	対象: ウルトラセブン		600

計1,300名

館外活動・地域との連携

巡回ミュージアム

【趣旨及び総括】

巡回ミュージアムは、所蔵作品の中から作品を選定し、県内を巡回展示するもので、広く県民に美術鑑賞の機会を提供し、文化振興を図ることを目的としている。

本年度は県内3つの中学校を会場に開催した。出品作品は会場校の担当職員と相談の上決定し、担当職員による鑑賞シートの作成、作品解説を共に行うなど、連携した活動ができた。子どもたちにとっては、普段慣れ親しんだ場で行われる展覧会ということで、リラックスしながらも集中して鑑賞する様子が見受けられた。また、会場校の協力により、地域住民や生徒の保護者などにも来場いただき、幅広い鑑賞機会を提供することができた。

【開催地・開催期日・その他】

会場：①中越会場

魚沼市立堀之内中学校・集会室 10月30日(水)

②上越会場

妙高市立新井中学校・第二体育館 11月8日(金)

③下越会場

阿賀野市立笹神中学校・体育館 11月21日(木)

主催：新潟県立近代美術館、魚沼市立堀之内中学校、妙高市立新井中学校、阿賀野市立笹神中学校

後援：新潟日報社、NHK新潟放送局、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0

出品点数：各会場10点

入場者数：①285人／②650人／③238人

計1,173名

担当 伊澤朋美

【出品リスト】

作家名	作品名	制作年	堀之内中	新井中	笹神中
横山 操	ふるさと	1966	●		●
加山 又造	白菜と小鳥	不明	●	●	●
新保 兵次郎	窓辺	不明	●		●
三芳 悌吉	地図の前	1980	●	●	●
P. ピカソ	ランプの下の静物	1962	●	●	●
M. マリーニ	騎手のための構想・習作	1955	●	●	●
F. ボテロ	頭部	1989	●	●	●
A. ボモドーロ	予言	1983	●	●	●
A. ロダン	疲れ	1887	●		●
有元 利夫	騎馬像	1986	●		
市橋 敏雄	吹分オベリスク 南冥の鎮魂碑	1995			●
地主 悌助	石	1966		●	
斎藤 義重	"反対称"対角線	1977		●	
野田 哲也	Diary, July 11 t h '80 to Narita	1980		●	
M. エルンスト	鳥=人頭	1934-1935		●	



出前講座

これまで、いくつかのメニューを用意し、希望のあった講座を館外に出張し、実施してきたが、希望者のほとんどが学校で、かつ鑑賞活動とは関連の薄い制作系の講座が圧倒的に多かった。そこで、本年度より、学校向けに展覧会に関連した鑑賞プログラムを組み、このプログラムにより、館が立地している長岡市内の小・中学校に希望を募り実施した。結果的に当館で開催している展覧会の周知もかねることとなった。学校以外の一般向けとしては、特にメニューは組まず、先方の希望する内容の講座を実施した。

出前講座実施一覧

月日	時間	場所(依頼主)	講師	内容	参加者数
5月23日(木)	10:40~12:15	長岡市立上組小学校 6学年	宮下東子 (当館学芸課長代理)	美術館の学芸員の仕事について／美術作品の見方について	91
6月30日(日)	14:00~16:00	三条歴史講座2013春 (三条市歴史民俗産業資料館／於 三条市立図書館)	長嶋圭哉 (当館主任学芸員)	「岩田正巳画伯の人と作品」	40
7月9日(火)	9:35~10:20 10:40~11:25 11:30~12:15	長岡市立上川西小学校 3学年	宮下東子 (当館学芸課長代理)	ルーベンス展関連 学校向けプログラム 「なにをみている？」	107
7月12日(金)	9:30~10:20	長岡市立大河津小学校 5学年			30
7月12日(金)	13:55~14:25 14:30~15:00 15:05~15:30	長岡市立日越小学校 5学年			85
7月17日(水)	9:30~10:15 10:35~11:20 11:25~12:10	長岡市立関原小学校 4学年			108
8月28日(水)	10:00~11:50	金城わかば児童館 1~4学年+保護者	青木善治 (当館副参事) 伊澤朋美 (当館美術学芸員)	「つなげてつなげて」	80
10月1日(火)	9:30~11:00	刈羽村生涯学習センター「ラビカ」	澤田佳三 (当館学芸課長代理)	「新潟県ゆかりの洋画家について」	37
10月3日(木)	10:35~11:20 11:25~12:10	新潟市立万代長嶺小学校 6学年	宮下東子 (当館学芸課長代理)	「みる楽しみ」	57
10月6日(日)	12:45~13:45	長岡市立表町小学校(文化祭)	宮下東子 (当館学芸課長代理) 青木善治 (当館副参事)	文化祭での文化的活動「みる楽しみ」(宮下) 「どんどん組んで」(青木)	180
12月5日(木)	11:40~12:30	長岡市立川口中学校 3学年	藤田裕彦 (当館学芸課長)	「デザインって、何？」	38
12月6日(金)	10:45~11:35	南魚沼市立五十沢中学校 3学年			42

計895名

第46回中越美術教育研究会夏季 研修会パネルディスカッション (共催事業)

小中学校の図工・美術教員が、鑑賞と美術館の連携について学び合うため、中越美術教育研究会に会場を提供し、パネルディスカッションと情報交換をおこなった。

主催：中越美術教育研究会

テーマ：これからの鑑賞のヒント

日時：8月7日(水) 13:00~17:00

会場：新潟県立近代美術館講堂

講師(パネリスト)：

岡田京子氏(文部科学省調査官)

稲庭彩和子氏(東京都美術館学芸員)

宮下東子(当館学芸課長代理)

参加者数：90名

長岡デザインフェア2013 (共催事業)

第15回亀倉雄策賞開催記念講演

日時：9月22日(日) 14:00~15:40

会場：新潟県立近代美術館講堂

講師：平野敬子氏(デザイナー)

工藤青石氏(デザイナー)

聴講者数：80名

JAGDA新人賞2013開催記念

田中義久 平野篤史 宮田裕美詠 トークショー

日時：9月22日(日) 10:30~12:00

会場：長岡造形大学円形講義室及び近代美術館ギャラリー

講師：田中義久氏(デザイナー)

平野篤史氏(デザイナー)

宮田裕美詠氏(デザイナー)

聴講者数：100名

こどもものづくり大学校学外 ワーク(共催事業)

子どもたちに日常生活ではできない創るよこびを体験してもらうため、隣接する長岡造形大学が平成23年度から毎年「こどもものづくり大学校」を主催している。年間を通しておこなわれる10回の講座のうち、1回を「学外ワーク」として新潟県立近代美術館が受け持っている。

本年はその第3回目として、美術館の建物を対象にカメラを使用したワークをおこなった。

主催：長岡造形大学

テーマ：美術館をきりとろう もうひとつの美術館

日時：9月8日(日) 10:00~16:00

9月15日(日) 10:00~16:00

講師：伊澤朋美(当館美術学芸員)

立川厚生(当館副館長)

宮下東子(当館学芸課長代理)

参加者数：78名/78名(合計156名)

「HANAを咲かそう！」プロジェクト

※近代美術館開館20周年記念事業の項を参照

長岡大学茶道部によるお茶会

※近代美術館開館20周年記念事業の項を参照

刊行物・鑑賞資料

刊行物・鑑賞資料名	概要	仕様	発行部数	発行日	内容
平成25年度年間スケジュール	平成25年度の企画展とコレクション展の日程及び内容、年間のイベントなどをまとめたもの	A4変形 (展開サイズ 210×480mm) 蛇腹6つ折り 4色×4色	40,000部	2013年 4月1日	
新潟県立近代美術館だより「雪椿通信」40号	美術館からの情報発信として一般来場者向けに編集したもの	A3二つ折り(A4版) 4頁	10,000部	2013年 4月14日	新潟県立近代美術館開館20周年によせて／20周年関連イベント開催！／あの日あのとキンピの20年 学芸員インタビュー／CATALOGUE GUIDE ポテロからの贈り物／近美のはじまり 一日のスタートは朝会から／お世話になってます その3 プロジェクター／編集部からのひとこと
新潟県立近代美術館だより「雪椿通信」41号	美術館からの情報発信として一般来場者向けに編集したもの	A3二つ折り(A4版) 4頁	10,000部	2013年 8月23日	館長庵野秀明 特撮博物館 ミニチュアで見ると昭和の技 始まる／実施中！ NIIDATAアートリンクー古今東西アートの旅ー／まだまだ盛り上がる！20周年イベント／これからのイベント／岩田正巳展を控えて／近美のうらがわルーベンス展展示／お世話になってます その4 A2プリンター／編集部からのひとこと
ルーベンス展鑑賞資料	「ルーベンス」展に展示された作品や補助知識をわかりやすくまとめ、パウチし、会場内の休憩用椅子に配置、また、配布用の目録にはルーベンスの人物像がよくわかるように特徴をまとめたものを添えた。(担当:伊澤朋美)	A3判パウチ仕様	各1部 (目録はおおよそ30,000部)	設置期間: 2013年 6月29日～ 8月11日	・ルーベンスってどんな人(目録に添付) ・アキレス／アキレスの物語 ・熊狩り ・人物相関図／専門画家たち
オランダ・ハーグ派展鑑賞資料	作品に描かれたオランダの土地や風景に親しむための鑑賞カード。対象作品付近に設置されたカードを、パスポート風の表紙に挟み込めるようにし、作品に親しむための一言も添えた。(担当:伊澤朋美)	表紙:A5二つ折り 鑑賞カード:A6判モノクロ(6種)	必要に応じて増刷	設置期間: 2013年 8月31日～ 10月14日	表紙:デン・ハーグ 鑑賞カード:デルフト(ヨハン・バルトルト・ヨングント 《デルフトの眺め》)／スヘフェニンゲン(アンドレアス・スヘルフハウト《スヘフェニンゲンの浜辺と船》)／オーステルベーク(マタイス・マリス《オーステルベーク デ・オールスプロングの森の景色》)／ハールレム(ヤン・ヘンドリック・ヴァイセンブルフ《ハールレムの風景》)／ノールデン(ヴィレム・ルーロフス《ノールデンの5月》)／ドンビュルク(ピート・モンドリアン《ドンビュルクの風車》)
巡回ミュージアム中越・上越・下越会場 セルフガイド	「巡回ミュージアム」のためのセルフガイド(担当:佐藤久美子、青木善治)	A3版 蛇腹4つ折り モノクロ(リソグラフにて作成)	各1,000部	2013年 10月30日、11月 8日、11月21日	出品作品の図版と解説
美術館のご案内	美術館案内の情報をまとめたもの	A4変形 (展開サイズ 210×320mm) 観音4つ折り 4色×4色	50,000部	2013年 9月7日	新潟県立近代美術館について／主な収蔵作品／フロアマップ／利用案内／交通案内
岩田正巳展図録	自主企画展図録	A4判変形 (280×225mm) 本文152頁	1,000部	2014年 3月1日	展覧会ページ参照
岩田正巳展鑑賞資料	岩田正巳が作品にやまと絵をどのように取り入れたかがわかるよう、やまと絵の特徴ごとにまとめ、パウチし、展示室内5箇所の休憩用椅子に配置(担当:宮下東子)	A4判パウチ 7枚組	5セット	設置期間: 2014年 3月1日～ 4月13日	・「やまと絵」って何でしょう ・自然の表現①植物の優美な曲線 ・斜線描法 ・自然の表現②波の姿 ・図像の引用 ・障屏画の構図 ・俯瞰描法

作品解説会

来館者サービスの一環として、展覧会への理解を深め、より充実した鑑賞の機会となるように、学芸員による作品解説会を行った。

コレクション展は毎週土曜日の午前11時から、企画展は毎週日曜日の午後2時から、それぞれの会場で行った。

企画展「館長 庵野秀明 特撮博物館」では作品解説会は行わなかった。また、参加者がなかった解説会については、記録から除いた。

企画展		第2期	
展覧会名		6月29日	6
期日	人数	7月6日	20
東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華		7月13日	10
4月7日	25	7月20日	11
4月14日	25	7月27日	12
4月28日	25	8月3日	10
小計	75	小計	69
オランダ・ハーグ派展		第3期	
9月1日	15	8月31日	5
9月8日	10	9月14日	10
9月15日	18	9月21日	4
9月29日	20	9月28日	5
10月6日	15	10月5日	2
10月13日	30	10月12日	2
小計	108	10月19日	3
		小計	31
岩田正巳展		第4期	
3月2日	20	11月2日	5
3月9日	10	11月9日	1
3月23日	10	11月16日	1
4月6日	10	11月23日	5
小計	50	11月30日	2
企画展合計	233名	1月25日	2
		小計	16
常設展		第5期	
展覧会名		2月1日	3
期日	人数	2月22日	4
第1期		3月1日	1
4月6日	25	3月8日	7
4月13日	15	3月15日	6
4月20日	8	3月22日	3
4月27日	12	4月5日	2
5月4日	3	4月12日	2
小計	63	小計	28
		コレクション展合計	207
		総合計	440

団体への解説

希望団体に対し、作品解説や施設紹介等を行った。

企画展「ルーベンス」展では展示室内が混み合うため、講堂を使用し解説を行ったが、「館長 庵野秀明 特撮博物館」では団体への作品解説は行わなかった。

ルーベンス 栄光のアントワープ工房と原点のイタリア		
7月4日(休)	長岡市小学校校長会	50名
7月17日(休)	新潟教弘友の会	64名
7月18日(休)	新潟教弘友の会	60名
7月19日(金)	新潟教弘友の会	59名
7月20日(土)	新潟・フランス協会	21名
7月24日(水)	坂之上コミュニティセンター	30名
7月25日(木)	大島コミュニティセンター	30名
7月27日(土)	北魚岡工美術サークル	9名
8月7日(水)	中越美術教育研究会	90名
	郷土文化の愛好会	25名
8月8日(木)	見附市美術教育研究会	14名
	新潟県中学校教育研究会	9名
計12回	小計	461名
近代自然主義絵画の成立 オランダ・ハーグ派展		
10月8日(火)	胎内市中央公民館	22名
10月16日(水)	三条市井栗公民館	40名
計2回	小計	62名
岩田正巳展		
3月18日(火)	三条市コミュニティセンター	27名
計1回	小計	27名
合計15回	人数合計	550名

学校教育等との連携

●図工・美術の授業および総合学習、部活動での利用 — 展示会の鑑賞

学校のカリキュラム等で来館した学校団体に展示会鑑賞の機会を提供した。対話を取り入れた鑑賞を積極的に提案しながら進めた。企画展の鑑賞だけを希望した学校にもコレクション展の鑑賞も勧め、実施した。

また、見附市からの依頼により、見附市内公立保育園の全年長児が来館し、対話型鑑賞などを行った。

【対話を取り入れた鑑賞・学芸員による解説】

近代日本画の精華展／コレクション展第1期

4月24日 県立豊栄高等学校 (2年) 31名

新潟の風景～未来への記録

6月14日 長岡市立下川西小学校 (3年) 10名

ルーベンス展／コレクション展第2期

7月17日 県立長岡明德高等学校 (社会人講座) 22名

7月18日 長岡市立信条小学校 (3～4年) 30名

7月23日 県立長岡明德高等学校 (1～4年) 254名

7月24日 上越市立城東中学校 (美術部) 36名

7月24日 新潟市立関谷中学校 (美術部) 18名

7月25日 三条市立大崎中学校 (美術部) 23名

7月25日 長岡市立旭岡中学校 (美術部) 19名

7月25日 上越市立直江津中学校 (美術部) 32名

7月26日 県立長岡工業高等学校 (美術部) 17名

7月30日 村上市立村上東中学校 (美術部) 20名

8月 2日 新潟市立亀田中学校 (美術部) 25名

8月 8日 三条市立第三中学校 (美術部) 22名

8月 9日 五泉市立北中学校 (美術部) 27名

小計 545名

コレクション展第2期

7月11日 長岡市立上組小学校 (6年) 96名

オランダ・ハーグ派展／コレクション展第3期

9月 3日 見附市立見附保育園・中央保育園 41名

9月 4日 見附市立桜保育園・わかば保育園 39名

9月 5日 見附市立本所保育園・名木野保育園 38名

9月 5日 小千谷市立小千谷小学校 (5年) 71名

9月 6日 新潟市立新津第三小学校 (6年) 113名

9月10日 小千谷市立小千谷小学校 (5年) 70名

9月13日 小千谷市立小千谷南小学校 (5年) 22名

9月13日 長岡市立上通小学校 (3年) 24名

10月 1日 妙高市立斐太南小学校 (1～6年) 60名

10月 1日 長岡市立三島中学校 (3年) 40名

10月 4日 長岡市立関原中学校 (3年) 93名

10月 9日 新潟大学附属長岡中学校 (美術部) 21名

10月10日 燕市立小池中学校 (1年) 70名

10月12日 上越市立浦川原中学校 (美術部) 4名

小計 588名

コレクション展第4期

10月31日 新潟市立潟東東小学校 (6年) 25名

館長 庵野秀明 特撮博物館／コレクション展第4期

11月14日 長岡工業高等専門学校 (2年) 42名

11月14日 長岡市立大島中学校 (特別支援学級1～3年) 11名

11月14日 長岡市立南中学校 (3年) 7名

11月15日 小千谷市立千田小学校 (6年) 25名

11月16日 上越市立柿崎中学校 (1～2年) 2名

11月19日 小千谷市立東小千谷小学校 (5年) 48名

11月19日 小千谷市立東山小学校 (5～6年) 11名

11月20日 小千谷市立片貝小学校 (5年) 35名

11月26日 十日町市立西小学校 (特別支援学級) 10名

11月27日 長岡市立南中学校 (特別支援学級) 6名

11月29日 小千谷市立吉谷小学校・和泉小学校 (5年) 32名

11月29日 長岡市立東谷小学校 (1～3年) 49名

12月11日 柏崎市立柏崎特別支援学校のぎく分校 14名

12月11日 長岡市立中島小学校 (2年) 33名

12月12日 県立長岡商業高等学校 (2年) 42名

12月13日 県立長岡誓学校高等部 (2年) 10名

12月13日 県立長岡商業高等学校 (2年) 39名

12月13日 長岡市立東谷小学校 (4年) 22名

12月14日 魚沼市立小出中学校 (美術部) 22名

12月17日 県立長岡商業高等学校 (2年) 41名

12月18日 県立長岡商業高等学校 (2年) 123名

12月18日 魚沼市立須原小学校 (5年) 29名

12月19日 柏崎市立半田小学校 (6年) 76名

12月26日 柏崎市立第一中学校 (美術部) 9名

12月26日 長岡市立小国中学校 (美術部) 19名

1月17日 長岡市立大積小学校 (5～6年生) 13名

1月18日 柏崎市立東中学校 (美術部) 17名

小計 787名

コレクション展第4期

1月25日 長岡市立上組小学校 (6年) 66名

コレクション展第5期

2月12日 長岡市立脇野町小学校 (3年) 73名

2月14日 長岡市立脇野町小学校 (5年) 60名

2月14日 出雲崎町立出雲崎小学校 (4年) 24名

2月14日 長岡市立中野俣小学校 (1～6年) 20名

2月18日 長岡市立上通小学校 (4年) 26名

小計 203名

岩田正巳展／コレクション展第4期

3月18日 長岡市立脇野町小学校 (6年) 20名

合計 2371名

【展覧会鑑賞のみ】

新潟の風景～未来への記録

6月22日 新潟市立五十嵐中学校 (美術部) 21名

ルーベンス展／

コレクション展第2期(20周年記念コレクション展)

6月29日 柏崎市立第三中学校 (美術部) 8名

7月 6日 柏崎市立柏崎東中学校 (美術部) 22名

7月11日 長岡市立日越小学校 (3年) 78名

7月13日 長岡市立堤岡中学校 (美術部) 18名

7月17日 長岡市立上川西小学校 111名

7月17日 小千谷市立小千谷中学校 (3年) 37名

7月19日 長岡市立日越小学校 (5年) 89名

7月29日 長岡市立小国中学校 (1～3年) 8名

8月 3日 魚沼市立広神中学校 (美術部) 18名

8月 6日 上越市立柿崎中学校 (美術部) 6名

8月 9日 柏崎市立鏡が沖中学校 (美術部) 12名

小計 407名

オランダ・ハーグ派展／コレクション展第3期

9月19日 県立新潟聾学校 (1～3年) 9名

10月 6日 小千谷市立小千谷中学校 (美術部) 23名

10月12日 長岡市立山古志中学校 (3年) 4名

小計 36名

館長 庵野秀明 特撮博物館／コレクション展第4期

11月10日 阿賀野町立阿賀野中学校 (美術部) 10名

12月 1日 魚沼市立堀之内中学校 (美術部) 25名

小計 35名

合計 499名

●校外学習・総合学習等

学校教育における校外学習および総合学習での利用に供した。希望があった場合は、目的に応じて、施設等に関する説明や案内等を行った。

4月26日 県立長岡聾学校高等部 (2年) 10名

5月 2日 県立新井高等学校 (3年) 158名

7月17日 長岡市立総合支援学校 (高等部3年) 47名

7月17日 妙高市立妙高中学校 (2～3年) 34名

9月20日 県立吉田特別支援学校 (小5年～高等部) 68名

9月27日 長岡市立総合支援学校 (高等部2年) 12名

12月 4日 見附市立名木野小学校 (2～6年) 11名

合計 340名

●職場体験

学校等から希望に応じて、職場体験を受け入れた。

7月10日 魚沼市立堀之内中学校 (2年) 1名

11月12日 長岡市立岡南中学校 (2年) 1名

合計 2名

総合計 3212名
●子ども学芸員作品解説

長岡市立上組小学校6年生の総合的な学習の時間・図工の取組として、児童が当館で作品鑑賞の成果を来館者に披露する「子ども学芸員」の活動を行った。学校と美術館が連携し、以下の日程で一年間かけて取り組んだ。

4月 3日 年間の活動についての打合せ(担当教諭3名来館)

5月23日 出前授業「学芸員って、どんなお仕事でしょう？」

7月11日 全児童来館 クラスごとに対話型鑑賞を体験

12月14日 子ども学芸員作品解説会に向けて打合せ(担当教諭来館)

1月25日 児童による作品解説会(コレクション展第4期 近代美術館セレクト・ギャラリーにて 参加児童60名・引率4名)



観覧料免除

新潟県立近代美術館規則第13条の規定に基づき、学校教育活動として観覧する場合の生徒及び小中学校・特別支援学校・高等学校の引率者、心身障がい者及びその介助者等に対し、観覧料を免除した。

また、学校からの要請があった場合、その内容に応じて解説・案内・レクチャーなどを行った。

月	期間	日数	開催企画展名称	企 画 展									コレクション展						月計			
				学 校 等						障がい者	介助	合計	学 校 等									
				小中・特			高校						小中・特			高校				障がい者	介助	合計
				校数	児童生徒	引率	校数	生徒	引率				校数	児童生徒	引率	校数	生徒	引率				
4	2~29	25	東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華	0	0	0	2	36	5	270	68	379	0	0	0	0	0	0	1	0	1	380
5	1~8	8		0	0	0	1	147	11	154	56	368	0	0	0	0	0	0	0	0	0	368
6	29~30	2		1	7	1	0	0	0	52	4	64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64
7	2~31	29	ルーベンス 栄光のアント ワープ工房と原点のイタリア	16	632	41	4	295	46	671	259	1,944	1	92	4	0	0	0	1	0	97	2,041
8	1~11	11		6	101	6	1	5	1	372	135	620	0	0	0	0	0	0	4	0	4	663
	13~18	6										0	0	0	0	0	0	10	5	15		
	22~30	8										0	0	0	0	0	0	13	1	14		
9	1~29	25	近代自然主義絵画の成立 オランダ・ハーグ派展	5	284	62	3	19	2	182	54	603	0	0	0	0	0	0	1	0	1	604
	1~14	13		7	286	25	0	0	0	105	26	442	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
10	16~20	5										0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	470
	29~31	3										0	1	23	2	0	0	0	0	0	25	
11	1~7	6										0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	888
	8~30	20		12	219	24	1	41	1	459	144	888	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
12	1~28	25	館長 庵野秀明 特撮博物館	9	226	28	6	192	11	355	137	949	0	0	0	0	0	0	0	0	0	949
1	2~21	18		2	28	2	1	40	2	503	180	755	0	0	0	0	0	0	0	0	0	821
	31	1										0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2	1~28	24										0	5	184	19	0	0	0	34	8	245	245
3	1~30	26	岩田正巳展	1	16	4	0	0	0	132	40	192	0	0	0	0	0	0	2	0	2	194
合 計	261			59	1,799	193	19	775	79	3,263	1,105	7,214	8	362	28	0	0	0	68	15	473	7,687

* 観覧料免除申請はされていないが、小・中学生及び特別支援学校の児童生徒数を含む。

平成25年度 夏休み期間 観覧料免除者数 7/13~9/1

月	期間	日数	展 覧 会 名	高校生	月計	合計
7	13~31	18	ルーベンス栄光のアントワープ工房と原点のイタリア	172	172	505
8	1~11	11	ルーベンス栄光のアントワープ工房と原点のイタリア	314	321	
	31	1	近代自然主義絵画の成立 オランダ・ハーグ派展	7		
9	1	1	近代自然主義絵画の成立 オランダ・ハーグ派展	12	12	

アートボランティア（新潟県立近代美術館ボランティア組織）

1 アートボランティア活動の目的

アートボランティア構成員の生涯学習機会の増大と来館者へのサービス向上を図る。

2 平成25年度事業のねらい

- ・美術館と地域を結びつける事業を行う。
- ・会員の美術文化に対する理解を深める。

担当 佐藤久美子

3 会員

18名（前年度からの継続会員）

4 活動内容

以下の当館事業について運営補助を行いながら、構成員の研修と親睦を深めた。

- (1) ワークショップ・美術鑑賞講座・映画鑑賞会の補助（事前準備・当日受付）
- (2) 企画展のポスター・チラシ発送作業
- (3) 開館20周年を記念したHANAプロジェクト（地域に働きかける活動）の実施
- (4) アンケート(モニター券)集計作業補助
- (5) 会員によるギャラリートーク実施に向けた意見交換、準備
- (6) 当館所蔵作品フォルダ・基本カードの整理や作成補助、未整理作品の整理や写真撮影

5 活動方法

- (1) 2か月に1回、全会員に計画を送付し、活動内容の周知を図った。
- (2) 美術館職員が活動の進行状況を把握し、支援と助言を行った。
- (3) 会員18名について、公費でボランティア保険に加入した。
- (4) 活動に対する報酬及び交通費の支払いは行わない。
- (5) 研修の意図で、活動日の展示室への入場を無料とした。

6 成果

- 平成25年度は、活動が73回、参加者（延べ人数）が153名であった。
- 展覧会ポスター・チラシ発送作業は、美術館・友の会と合同で行った。
- 当館所蔵作品フォルダ・基本カードの整備、亀倉雄策関連資料の整理、表示、イベント補助を当館担当者とともに進め、会員が美術文化への理解を深めた。

7 課題、次年度に向けて

活動への参加が、固定した数名に限られている。ボランティア発足当初の目的を捉え直し、より組織的・計画的・主体的な活動へと高める必要がある。今後は友の会との連携・協働を一層進め、活動の幅を広げていく。

博物館実習

【趣旨】

学芸員資格取得を目指す学生等のための博物館実習を実施し、7名の実習生を受け入れた。美術館学芸員の諸業務に関する講義の他、各分野の作品の取り扱いについて実習を行った。さらに当館所蔵品のなかから20点の作品を実際に展示したり、作品解説を行ったりするなど、学芸業務を実際に体験させることに重点をおいた。

【実習期間】

7月18日(木)～7月31日(水) ※土日を除く

【実習生の所属および受け入れ人数】

長岡造形大学	3名
新潟大学	1名
新潟産業大学	1名
東京学芸大学	1名
筑波大学	1名

担当：伊澤朋美

【カリキュラム】

月日	時限	内 容
7月18日(木)	1	開講式・館の概要説明、オリエンテーション
	2	展覧会見学(「ルーベンス」・「20周年記念コレクション展」)
	3	バックヤード見学
	4	講 義:博物館運営に関わる法律・現在の博物館を取り巻く状況
7月19日(金)	1	講 義:作品の収集・分類・保管とデータベース管理
	2	講 義:学芸課の業務/展覧会の企画から礼状まで
	3	実 習:作品の取り扱い・展示・点検(平面作品)
	4	
7月22日(月)	1	講 義:作品の保存・修復
	2	講 義:作品の調査・研究
	3	実 習:作品の取り扱い・展示(軸・屏風)
	4	
7月23日(火)	1	講 義:ミュージアムエデュケーション
	2	実 習:作品の取り扱い・展示(彫刻)
	3	
	4	講 義:総務課の業務/施設管理・安全対策
7月24日(水)	1	講 義:美術館と地域連携/ボランティアと友の会
	2	講 義:美術館のサービスと来館者の視点
	3	実 習:作品の取り扱い・展示(工芸)
	4	講 義:美術館の広報
7月25日(木)	1	実 習:展覧会計画①(作品・テーマ選定)
	2	
	3	実 習:作品解説会説明、準備
	4	
7月26日(金)	1	実 習:展覧会計画②(リスト、図面、開催要項作成)
	2	
	3	実 習:作品解説会準備
	4	
7月29日(月)	1	実 習:展覧会計画③(パネル・キャプション等の作成)
	2	
	3	実 習:展示作業準備、パネルたて
	4	
7月30日(火)	1	実 習:作品搬入、展示作業
	2	
	3	実 習:展示講評、撤収作業
	4	
7月31日(水)	1	実 習:作品解説会準備
	2	実 習:作品解説会、講評
	3	実 習:作品解説会(一般公開 13:00～)
	4	実習のまとめ・閉講式

8時50分出勤 実習場所は会議室を基本とする

①9:00～10:20 (80分) ②10:40～12:00 (80分)

③13:10～14:30 (80分) ④14:50～16:10 (80分)

イベント

講演会

開催日	時間	関連展覧会名	演題等	講師等	内容	対象等	会場	参加者数
6月22日(土)	14:00~15:30	ミュシャ財団秘蔵 ミュシャ展-パリの夢 モラヴィアの祈り	ミュシャ二都物語-パリとプラハ	千足伸行氏 (成城大学名誉教授)	ミュシャ展の監修者千足氏による、アール・ヌーヴォーの様式的特徴やミュシャのパリ時代・プラハ時代の作品についての解説。	一般 聴講無料	NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	85
8月23日(金)	14:00~15:30	京都 清水寺展	「清水寺展」出開帳について	森清範氏 (清水寺貫主)	清水寺貫主の森清範氏による、出開帳や仏教思想についての講演。冒頭に「観」の字を揮毫していただいた。	一般 要観覧券	朱鷺メッセ 国際会議場 (新潟コンベンションセンター4階)	276
9月8日(日)	14:00~15:30		清水寺奥の院千手観音像をめぐる	根立研介氏 (京都大学大学院文学研究科教授、本展監修者)	清水寺展の監修者根立氏による、三面千手観世音菩薩坐像(重要文化財)の、造形的な特徴や歴史的な価値などの解説。	一般 聴講無料	NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	180

計541名

美術鑑賞講座

開催日	時間	関連展覧会名	演題等	講師等	内容	対象等	会場	参加者数
4月14日(日)	14:00~15:30	ひとの姿／ 人のかたち	学芸員のおすすめ 海外の美術館と世界遺産 ①トルコ編	高 晟俊 (当館主任学芸員)	イスタンブール歴史地区、カッパドキアの岩窟修道院群など、中期ビザンティン美術を中心にトルコの著名な世界遺産などを紹介	一般 聴講無料	NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	55
4月28日(日)	14:00~15:40		学芸員のおすすめ 海外の美術館と世界遺産 ②オランダ編	今井 有 (当館主任学芸員)	17世紀オランダ絵画が鑑賞できるアムステルダム国立美術館やフランス・ハルス美術館、マウリッツハイス美術館などの所蔵品を紹介			30
5月12日(日)	14:00~15:30		学芸員のおすすめ 海外の美術館と世界遺産 ③ロシア編	桐原 浩 (当館業務課長)	ロシア、サンクト・ペテルブルグにある有名なエルミタージュ美術館を紹介			21
7月14日(日)	14:00~15:30	ミュシャ財団秘蔵 ミュシャ展-パリの夢 モラヴィアの祈り	チェコの美術とミュシャ	高 晟俊 (当館主任学芸員)	ロマネスク時代の壁画から1930年代のシュルレアリスムまでのチェコ美術や、ミュシャが手がけたプラハ市内のモニュメントアートなどについて解説			52
11月9日(土)	14:00~15:30	新潟の日本画100年	新潟の日本画家	飯島沙耶子 (当館美術学芸員)	新潟の日本画100年に展示している画家の中から、数人の画家について作品をみながらその画業を解説		10	

計168名

その他のイベント

開催日	時間	関連展覧会名	演題等	講師等	内容	対象等	会場	参加者数
6月8日(土)	14:00~14:30	ミュシャ財団秘蔵 ミュシャ展-パリの夢 モラヴィアの祈り	ミュージアム・コンサート パリとチェコの調べ	新潟市ジュニア合唱団	ミュシャがデビューした地であるフランスと故郷チェコの歌で構成したジュニア合唱団による公演	一般 参加無料	万代島美術館ロビー	80
6月15日(土)	14:00~15:00		TeNYアナウンサーと当館学芸員による対話形式のギャラリートーク	大平真理子氏 (TeNYテレビ新潟アナウンサー) 高 晟俊 (当館主任学芸員)	50			
7月6日(土)	14:00~14:50		教えて！ミュシャ	久保田沙也加氏 (TeNYテレビ新潟アナウンサー) 桐原 浩 (当館業務課長)	TeNYアナウンサーと当館学芸員による対話形式のギャラリートーク	一般 要観覧券	万代島美術館展示室	35
7月20日(土)	14:00~15:00		TeNYアナウンサーと当館学芸員による対話形式のギャラリートーク	内田拓志氏 (TeNYテレビ新潟アナウンサー) 今井 有 (当館主任学芸員)	40			
6月1日(土)~ 8月11日(日)			ミュシャのスタンプでオリジナル・クロスをつくろう！		ミュシャのデザインの一部でスタンプを作り、会期中、ロビーの一隅で来館者に自由に制作してもらった。専用クロスはショップで販売。	一般	万代島美術館ロビー	529

開催日	時間	関連展示会名	演題等	講師等	内容	対象等	会場	参加者数
8月23日(金)	10:00~10:30	京都 清水寺展	開眼法要	森清範氏 (清水寺貫主)ほか	本堂の仏様たちを前にした、森清範貫主や清水寺の僧侶による法要。	一般 要観覧券	万代島美術館展示室	120
9月28日(土)	14:00~15:00		清水寺・坂井学芸委員による作品解説会	坂井輝久氏 (清水寺学芸員)	清水寺の学芸員による出品作品の解説。	一般 要観覧券		65
9月29日(日)	11:00~12:20		清水寺・坂井学芸委員による作品解説会	坂井輝久氏 (清水寺学芸員)	清水寺の学芸員による出品作品の解説。			119
	14:00~15:20					82		
10月14日(月・祝)	17:45~18:00		結願法要	森清範氏 (清水寺貫主)ほか	本堂の仏様たちを前にした、森清範貫主や清水寺の僧侶による法要。			130
11月3日(日・祝)		新潟の日本画100年	無料開館日		万代島美術館開館10周年を記念し、所蔵品展「新潟の日本画100年」の観覧料を無料にした。		万代島美術館展示室	519
11月1日(金)~11月10日(日)			友の会文化祭 友の会会員による作品展	近代美術館・万代島美術館友の会会員	美術館友の会会員による作品展。		万代島美術館ロビー	不明
12月14日(土)	11:00~12:30	篠山紀信展 写真力	対談 篠山紀信氏×金森穰氏	篠山紀信氏 (写真家) 金森穰氏 (演出振付家・舞踊家/Noism芸術監督) 後藤繁雄氏 (本展監修者)	篠山氏が以前から被写体としている新潟を拠点とするダンス・カンパニーNoismの芸術監督の金森穰氏と篠山氏との対談。	一般	NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	185
1月18日(土)	14:00~		篠山紀信氏 アーティスト・トーク&サイン会	篠山紀信氏 (写真家)	篠山氏によるアーティスト・トーク。トーク終了後、収録購入者を対象にロビーでサイン会を開催。	一般	(トーク) NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	320
					(サイン会) 万代島美術館ロビー		95	
2月14日(金) 2月15日(土)			ジョン・レノン&オノ・ヨーコの写真の前でLove&Peaceな写真を撮ろう♥		ハッピーバレンタインデー企画としてカップル・ご夫婦の方限定でジョン・レノン&オノ・ヨーコの写真パネルの前で記念撮影を行った。参加者にはフォトフレームをプレゼントした(25組限定)。	一般	万代島美術館ロビー	80 180

計2629名

刊行物

刊行物名	概要	仕様	発行部数	発行日	内容
平成25年度 展覧会案内リーフレット	平成25年度の展覧会日程及び内容、年間イベント予定などをまとめたもの	22.5×37.5cm 観音4つ折り 日英2か国語表記	55,000部	2013年4月1日	展覧会予定／開館カレンダー／美術鑑賞講座案内／近代美術館スケジュール／観覧料免除／乳幼児・障害者向け施設案内／サポートメンバー募集／友の会案内／市内美術館紹介／駐車場案内／交通案内
新潟県立万代島美術館だより 「B.island」No.12	美術館からの情報発信として一般来館者向けに編集したもの	A4版 4頁	5000部	2013年4月1日	企画展案内／ミュシャ財団秘蔵 ミュシャ展／所蔵品展案内／イベントピックアップ／NIGATAアートリンク／ホームページリニューアル&光ステーション設置／無料開館のお知らせ／万代島美術館10年を振り返る／サポートメンバー募集／近代美術館の企画展案内
新潟県立近代美術館 研究紀要 第13号	学芸員による研究報告	A4版 本文60頁	400部	2014年3月24日	【研究】 ・高 晟俊「Nikodim Kondakov and Alphonse Mucha／ニコディム・コンダコフとアルフォンズ・ミュシャ（日本語訳）」 ・高 晟俊「在朝鮮日本人漫画家の活動についてー岩本正二を中心に」 ・青木善治「美術館と学校との連携に関する一考察」 【調査報告】 ・今井有「亀倉雄策のニコン関連作品・資料について」 【英文要旨】

作品解説会

来館者サービスの一環として、学芸員による作品解説会等を行っている。いずれも美術館に興味と親しみを感じていただくためのもので、来館者に興味をもって参加していただいた。

所蔵品展		企画展		企画展		所蔵品展	
ひとの姿／人のかたち		京都 清水寺展 ※清水寺学芸員による		ミュシャ展		新潟の日本画100年	
作品解説会	人数	作品解説会	人数	作品解説会	人数	作品解説会	人数
4月 7日(日)	3名	9月28日(土)	65名	6月 1日(土)	22名	10月27日(日)	7名
4月21日(日)	4名	9月29日(日) ①	119名	6月29日(土)	29名	11月 3日(日)	30名
4月29日(月)	5名	9月29日(日) ②	82名	7月13日(土)	20名	11月 4日(月)	9名
5月 3日(金)	4名	(3回)		7月27日(土)	35名	11月10日(日)	15名
5月 4日(土)	6名	小計	266名	8月 3日(土)	40名	11月17日(日)	10名
5月 5日(日)	1名			8月10日(土)	40名	11月23日(土)	20名
5月 6日(月)	8名			(6回)		11月24日(日)	20名
5月19日(日)	8名			小計	186名	12月 1日(日)	10名
(8回)						(8回)	
小計	39名					小計	121名

総合計25回
612名

団体への解説

団体来館のうち希望があった場合、必要に応じて作品解説や施設紹介等を行った。

ひとの姿／人のかたち

5月10日(金) 新発田市中央公民館 喜城大学(高齢者大学) 30名

ミュシャ展

7月 1日(月) 日本アニメ・マンガ専門学校 23名

7月 1日(月) 日本アニメ・マンガ専門学校 25名

7月 5日(金) 日本アニメ・マンガ専門学校 38名

京都 清水寺展

9月 4日(水) 喜多方市中央公民館 30名

9月17日(火) 小千谷市立図書館 38名

9月18日(水) 日本アニメ・マンガ専門学校 10名

10月 3日(木) 日報旅行センター 32名

10月 8日(火) 胎内市中央公民館 22名

新潟の日本画100年

10月30日(水) NHK文化センター高松 40名

11月14日(木) 三条市立大島公民館 27名

11月15日(金) 東山の下地区民生委員児童委員協議会 27名

篠山紀信展 写真力

1月17日(金) 胎内市立中央公民館 22名

2月26日(水) 小千谷市立図書館 22名

合計386名

学校教育との連携

●図工・美術の授業 及び 部活動での利用—展覧会の鑑賞

学校のカリキュラム等で来館した学校団体に展覧会の鑑賞の機会を提供した。

特に希望のあった学校団体に関しては、学芸員による作品解説を行った。

【学芸員による作品解説】

合計460名

ミュシャ財団秘蔵 ミュシャ展 パリの夢 モラヴィアの祈り

6月 4日(火) 長岡市立江陽中学校 (2年) 20名

6月 4日(火) 新潟市立関屋中学校 (1・2・3年) 21名

6月 5日(水) 新潟市立小新中学校 (1・2・3年) 34名

6月11日(火) 新潟市立曾野木中学校 (1・2・3年) 22名

6月12日(水) 新潟市立東新潟中学校 (1・2・3年) 23名

6月23日(日) 十日町市立十日町中学校 (1・2・3年) 17名

7月 3日(水) 新潟市立下山中学校 (1・2・3年) 42名

7月 4日(木) 新潟市立新津第一中学校 (1・2・3年) 35名

7月20日(土) 柏崎市立東中学校 (1・2・3年) 24名

7月24日(水) 新潟市立白根第一中学校 (1・2・3年) 23名

7月24日(水) 長岡市立東中学校 (1・2・3年) 20名

7月24日(水) 上越市立城東中学校 (1・2・3年) 38名

7月26日(金) 上越市立直江津東中学校 (1・2・3年) 20名

7月31日(水) 新潟市立亀田中学校 (1・2・3年) 12名

8月 1日(木) 新潟市立宮浦中学校 17名

8月 1日(木) 加茂市立葵中学校 (1・2年) 10名

8月 2日(金) 新潟市立横越中学校 (1・2・3年) 23名

8月 7日(水) 小千谷市立東小千谷中学校 (1・2・3年) 14名

8月 9日(金) 新潟県村上市立荒川中学校 (1・2・3年) 15名

8月10日(土) 魚沼市立堀之内中学校 (1・3年) 17名

新潟の日本画100年

10月31日(木) 新潟県立新潟工業高等学校 (1・2・3年) 7名

篠山紀信展 写真力

1月26日(日) 新潟県立新潟工業高等学校 (1・2年) 6名

【展覧会鑑賞のみ】

合計568名

ミュシャ財団秘蔵 ミュシャ展 パリの夢 モラヴィアの祈り

6月 1日(土) 長岡市立堤岡中学校 (1・2・3年) 18名

6月 5日(水) 新潟市立白新中学校 (1・2・3年) 20名

6月 8日(土) 上越市立城西中学校 (1・2・3年) 33名

6月 8日(土) 柏崎市立第一中学校 (1・2・3年) 13名

6月15日(土) 新発田市立第一中学校 (1・2・3年) 33名

6月22日(土) 魚沼市立広神中学校 (1・2・3年) 28名

6月22日(土) 阿賀町立阿賀津川中学校 (1・2・3年) 10名

6月29日(土) 上越市立柿崎中学校 (1・2・3年) 7名

6月30日(日) 阿賀野市立京ヶ瀬中学校 (1・2年) 8名

7月 1日(月)	新潟大学教育学部附属新潟中学校 (3年)	39名
7月 2日(火)	新潟大学教育学部附属新潟中学校 (3年)	40名
7月 5日(金)	新潟大学教育学部附属新潟中学校 (3年)	40名
7月 6日(土)	新発田市立東中学校 (1・2・3年)	10名
7月20日(土)	新発田市立本丸中学校 (2・3年)	9名
7月24日(水)	新潟市立金津中学校 (1・2年)	11名
7月26日(金)	新潟県立新潟商業高等学校	18名
8月 5日(月)	三条市立下田中学校 (1・2・3年)	16名
8月 6日(火)	新潟市立葛塚中学校 (1・2・3年)	13名
8月 6日(火)	新潟県立西川竹園高等学校 (1・3年)	8名
8月 7日(水)	新潟市立小須戸中学校 (2・3年)	6名
8月 8日(木)	燕市立燕中学校 (1・2・3年)	20名
8月 9日(金)	五泉市立愛宕中学校 (1年)	15名
8月 9日(金)	新発田市立豊浦中学校 (1・2・3年)	12名

寛永再建380年記念 京都 清水寺展

9月23日(月)	新津第二中学校	24名
9月27日(金)	新潟市立新関小学校 (3年)	10名

新潟の日本画100年

10月31日(木)	新潟県立長岡商業高等学校 (1・2・3年)	36名
10月31日(木)	新潟県立魚川白嶺高等学校 (1・2・3年)	19名
10月31日(木)	新潟県立見附高等学校 (1・2・3年)	30名
10月31日(木)	新潟県立上越総合技術高等学校	21名
10月31日(木)	新潟県立高田高等学校 (1・2・3年)	14名

梅佳代展 UMEKAYO

3月27日(木)	阿賀野市立安田中学校 (1・2年)	8名
----------	-------------------	----

●校外学習・総合学習
 学校教育、特に中学校の校外学習及び総合学習での利用に供した。希望のあった場合は目的に応じて、施設や職業に関する質問への対応や案内を行った。

【学芸員による対応】 **合計110名**

ひとの姿／人のかたち

4月19日(金)	新潟市立赤塚中学校 (2年)	4名
4月24日(水)	新潟市立曾野木中学校 (2年)	7名
5月 8日(水)	新潟市立潟東中学校 (2年)	5名
5月 9日(木)	会津若松市立第二中学校 (2年)	10名
5月17日(金)	胎内市立黒川中学校 (2年)	5名

ミュシャ財団秘蔵 ミュシャ展 パリの夢 モラヴィアの祈り

7月9日(火)	新潟市立濁川中学校 (2・3年)	6名
---------	------------------	----

寛永再建380年記念 京都 清水寺展

10月 1日(火)	出雲崎町立出雲崎中学校 (2年)	4名
10月 8日(火)	新潟市立山潟小学校 (6年)	58名

新潟の日本画100年

11月 5日(火)	新潟市立木戸中学校 (2年)	6名
11月27日(水)	十日町市立南中学校 (1年)	5名

【展覧会鑑賞・自由見学】 **合計263名**

ひとの姿／人のかたち

4月24日(水)	新潟市立小合中学校 (2年)	4名
5月 1日(水)	新潟市立東新潟中学校 (2年)	11名
5月 8日(水)	新潟市立山潟中学校 (2年)	11名
5月10日(金)	新潟市立東石山中学校 (2年)	39名
5月16日(木)	燕市立分水中学校 (2年)	10名
5月16日(木)	加茂市立若宮中学校 (2年)	12名
5月16日(木)	新潟市立葛塚中学校 (2年)	4名

ミュシャ財団秘蔵 ミュシャ展 パリの夢 モラヴィアの祈り

6月11日(火)	加茂市立加茂中学校	50名
6月12日(水)	佐渡市新穂小学校	5名
6月19日(水)	長岡市立江陽中学校 (2年)	5名
6月21日(金)	関川村立関川中学校 (2年)	4名
6月21日(金)	燕市立燕北中学校	14名
7月10日(水)	新潟市立石山中学校 (2年)	22名
7月11日(木)	新潟県立東新潟特別支援学校 (中等部2年)	7名
7月17日(水)	小千谷市立小千谷中学校 (3年)	20名
7月17日(水)	喜多方市立第二中学校 (2年)	10名

寛永再建380年記念 京都 清水寺展

9月20日(金)	村上特別支援学校いじみの分校 (高等部2年)	4名
----------	------------------------	----

篠山紀信展 写真力

2月18日(火)	第一学院高等学校 新潟キャンパス	28名
2月27日(木)	新潟県立吉田特別支援学校 (高等部1・3年)	3名

●サポートスクール

近隣の小中学校12校を「サポートスクール」と位置づけ、各展覧会の広報等を厚くするとともに、協力関係を築いている。

サポートスクール

- ・新潟市立山の下小学校
- ・新潟市立沼垂小学校
- ・新潟市立笹口小学校
- ・新潟市立入舟小学校
- ・新潟市立栄小学校
- ・新潟市立白山小学校
- ・新潟市立宮浦中学校
- ・新潟市立万代長嶺小学校
- ・新潟市立南万代小学校
- ・新潟市立豊照小学校
- ・新潟市立新潟小学校
- ・新潟市立湊小学校
- ・新潟大学附属新潟小学校
- ・新潟市立東新潟中学校

観覧料免除

新潟県立近代美術館規則第13条の規定に基づき、学校教育活動として観覧する場合の生徒及び小中学校・特別支援学校・高等学校の引率者、心身障がい者及びその介助者等に対し、観覧料を免除した。

また、学校からの要請があった場合、その内容に応じて解説・案内・レクチャーなどを行った。

展覧会名	会期	日数	学 校 等						障がい者	介助	合計
			小中・特			高校					
			校数	児童・生徒	引率	校数	生徒	引率			
ひとの姿／人のかたち	4月1日～5月19日	42	12	159	4	0	0	0	125	20	308
ミュシャ展	6月1日～8月11日	68	51	946	69	2	16	4	1,116	359	2,510
京都 清水寺展	8月23日～10月14日	50	4	95	5	2	15	4	1,090	428	1,637
新潟の日本画100年	10月26日～12月1日	35	3	19	0	6	108	7	128	33	295
篠山紀信展 写真力	12月14日～3月2日	67	1	5	0	3	36	7	1,415	471	1,934
梅佳代展	3月15日～3月31日	16	1	9	1	0	0	0	117	22	149
合 計		278	72	1,233	79	13	175	22	3,991	1,333	6,833

夏休み期間 観覧料免除者数

展覧会名	期間	日数	校数	生徒
ミュシャ展	7月13日～8月11日	29	56	602
京都 清水寺展	8月23日～9月1日	9	21	74

サポートメンバー (新潟県立万代島美術館ボランティア組織)

新潟県立万代島美術館では、美術館と県民とをより親しく結びつけることを目的として、2010年4月より新潟県立万代島美術館サポートメンバーを組織している。本年度は下記のとおり活動を行った。

【ねらい】

- 1 来館者に生涯学習の機会と場を提供する。
- 2 美術館の活動を共有し、美術館への関心と関わりを深めることにより、美術館の愛好者を増大する。

【登録人数】(H26年3月時点)

6名

【活動内容】

展覧会に付随するイベントへの協力、万代島美術館の活動や展覧会業務に必要な活動への協力

- ・「ミュシャ展」ミュージアム・コンサート実施補助
- ・「ミュシャ展」講演会実施補助
- ・「京都 清水寺展」講演会実施補助
- ・「篠山紀信展」講演会実施補助
- ・各展覧会広報活動(ポスター、チラシ発送)への協力
- ・亀倉雄策関連資料データベース化作業
- ・図書等整理

【課題】

- ・各展覧会のイベントへの協力、ポスター・チラシ等の発送などを中心に活動していただいた。
- ・メンバーの自主的な活動企画には至らなかったが、年間を通じてまんべんなく活動を行うことができた。

博物館実習

【趣旨】

学芸員資格取得を目指す学生のための博物館実習を実施し、9名の実習生を受け入れた。各分野についての講義の他、作品の点検・取扱いの指導も行った。最終日には各自に所蔵品を使った展覧会企画を発表してもらい、学芸員の仕事について学んだ実習の総まとめとした。

【実習期間】

7月23日(火)～8月1日(木)

【実習生の所属および受入人数】

新潟大学	2名
長岡造形大学	2名
京都橘大学	1名
成安造形大学	1名
筑波大学	1名
金沢美術工芸大学	1名
京都造形芸術大学	1名
合計	9名

【カリキュラム】

月日	時限	内 容
7月23日(火)	1	開校式・館長講話・オリエンテーション
	2	施設案内(朱鷺メッセ・万代島ビル)／企画展見学
	3	博物館法／美術館の課題
	4	研究課題(課題説明、資料収集)
7月24日(水)	1	展覧会の企画・運営 総論
	2	広報活動／作品収集／保存・修復について
	3	作品の点検・取扱い(平面)
	4	研究課題(テーマ決定、構成検討)
7月25日(木)	1	著作権／所蔵品管理／刊行物作成について
	2	美術館の教育普及活動について
	3	作品の点検・取扱い(彫刻、写真等)
	4	研究課題(リスト・図面作成)
7月30日(火)	1	受付・監視の仕事
	2	総務担当の業務について(実行委員会、予算、人事等)
	3	
	4	研究課題
7月31日(水)	1	作品の取扱い(日本画)
	2	作品の取扱い(工芸)
	3	ルーベンス展見学および担当学芸員への質疑応答
	4	
8月1日(木)	1	課題発表準備(機材準備、資料配付等)
	2	
	3	課題発表・講評
	4	閉校式

※7/31は近代美術館(長岡市)で実施

担当者: 高晟俊

新潟県立近代美術館

【調査】

「岩田正巳展」作品調査

長嶋圭哉 三条市 4月24日、6月1・13・14・18日、7月3・10・23日、8月8日、9月2・3・11・27日、10月22・23・28日、11月6・28日
 三条市歴史民俗産業資料館 4月30日
 東京藝術大学美術館 5月24日
 加茂市 7月23日
 新潟市 9月5日、10月3・23・28日
 燕市 10月28日
 見附市 10月29日
 山口蓬春記念館 12月13日
 魚沼市堀之内 1月23日

長嶋圭哉、伊澤朋美

三条市 11月2日、1月10日

伊澤朋美 東京文化財研究所・国立国会図書館 12月16~17日、1月17日
 三条市立図書館 12月24日

その他の作品調査

藤田裕彦、伊澤朋美

「第15回亀倉雄策賞受賞記念平野敬子展及び新人賞」作品調査 4月25日、6月4日

平石昌子、佐藤久美子

「ルーベンス展」作品調査 5月22日

長嶋圭哉 五十嵐俊明他作品調査 新潟市内 4月10日

松矢国憲、長嶋圭哉、伊澤朋美

仏像調査 柏崎市内 6月21日

宮下東子 「黒井健展」作品調査 大阪 9月21日

藤田裕彦、伊澤朋美

北村四海作品調査 新潟市内 8月9日

藤田裕彦、澤田佳三

濱谷浩作品調査 上越市立総合博物館 1月31日

伊澤朋美、藤田裕彦

武石弘三郎作品調査 新潟市 3月3・5日

澤田佳三 佐藤哲三郎作品調査 燕市 3月12日

伊澤朋美 武石弘三郎/北村四海修復調査

ブロンズスタジオ 3月31日

【図録執筆】

「岩田正巳展」図録

長嶋圭哉 巻頭論文「むかしのものを描いても、生きたものをかきたいー岩田正巳の人と作品」

各章解説

作品解説

宮下東子 新潟県立近代美術館・万代島美術館所蔵岩田正巳大下絵一覧

伊澤朋美、長嶋圭哉

年譜

参考文献一覧

『宮芳平画文集』（「宮芳平展」図録）

松矢国憲 各論「宮芳平と柏崎」

各論「聖地巡礼」

I 章解説

【紀要】『新潟県立近代美術館 研究紀要』第13号(2014)

青木善治 美術館と学校との連携に関する一考察

【寄稿】

新聞原稿

徳永健一 「県立近代美術館20周年に寄せて」新潟日報文化欄 7月10日

「県伝統工芸展(公募)に寄せて」新潟日報文化欄 12月2日

長嶋圭哉 「近代日本画の精華展に寄せて」新潟日報文化欄 4月18日

「尾竹三兄弟展に寄せて」新潟日報文化欄 9月3日
 「日本画家・岩田正巳」新潟日報文化欄 3月14日

平石昌子 「ルーベンスの光 上」新潟日報文化欄 7月30日
 「ルーベンスの光 下」新潟日報文化欄 7月31日
 「栄光と原点 ルーベンス展より」新潟日報連載記事

①《ロムルスとレムスの発見》 7月17日

②《毛皮をまとった婦人像》 7月18日

③《熊狩り》 7月19日

藤田裕彦 「栄光と原点 ルーベンス展より」新潟日報連載記事
 ④《髭を生やした男の頭部》 7月20日

⑤《自画像》 7月21日

「麻績勝広作品展／石ころに鑑賞者の存在意義問う」

新潟日報アートピックス 8月19日

「うちのDEアート2013《新川史眼》に寄せて」新潟日報文化欄 9月25日

「坂爪勝幸展に寄せて」新潟日報アートピックス 10月11日

澤田佳三 「オランダ・ハーグ派展に寄せて」新潟日報文化欄 9月17日

【講演・講義等】

新潟大学人文学部講義(美術史概説A)

平石昌子 「8. 近代美術 18世紀フランス美術」 11月27日

「9. 近代美術 ロマン主義」 12月4日

「10. 近代美術 レアリスム」 12月11日

「11. 近代美術 世紀末美術」 12月18日

藤田裕彦 「12. 20世紀美術① 世紀前半の欧米美術」 1月8日

「13. 20世紀美術② 戦後・現代」 1月22日

「行ったつもりのヨーロッパ美術めぐり」 まちなかキャンパス
長岡 講座

宮下東子 第4回「ピーターラビットの画家ボターとイギリス
絵本の黄金時代」 10月28日

平石昌子 第5回「フランス・パリの世紀末美術」 11月11日

その他

佐藤久美子 美術研修会講師 南魚沼市立浦佐小学校 7月
31日

美術研修会講師 南魚沼市立栃窪小学校 8月5日

村上市小学校教育研究会美術研修会講師 村上市

生涯学習推進センター 8月6日

校内研修会講師 長岡市立中島小学校 12月16日

宮下東子 平成25年度中越美術教育研修会講師 8月7日
保育園保育士向けの研修講師 見附市役所 8月22日
「長岡市教育センター授業公開講座兼長岡市三島郡
美術教育研究会授業研修会」授業支援及び講師
10月31日

青木善治 校内研修会講師 新潟市立小瀬小学校 9月27日

【研修】

佐藤久美子、青木善治

「平成25年度長岡市三島郡美術教育研究会総会」馬
高縄文会 4月23日

「平成25年度中越美術教育研究会」アトリウム長岡
5月8日

澤田佳三 「平成25年度係長研修(前期)」 自治研修所 5月
15～16日

「平成25年度係長研修(中期)」 自治研修所 10月
17～18日

「平成25年度係長研修(後期)」 自治研修所 1月
22日

伊澤朋美 「地域ネットワークやコミュニティづくりのための
SNS活用研修」 新潟県生涯学習推進センター 7
月11日

「第3回エドゥケーター研修」 文化庁主催

前期:東京都美術館 9月4～6日

後期:練馬区立石神井公園ふるさと文化館 2月
7～8日

佐藤久美子、長嶋圭哉

「平成25年度新潟県博物館協議会運営研究会」

佐渡市 7月11～12日

青木善治 「美術館を活用した鑑賞教育充実のための指導者研修」

東京国立近代美術館 7月29日

国立新美術館 7月30日

立川厚生、澤田佳三

「平成25年度新潟県博物館協議会学芸員等職員研修
会」 埼玉県内博物館施設 10月30～31日

【会議等】

徳永健一、立川厚生、藤田裕彦

「新潟県内美術館運営」情報交換会 新潟日報メデ
ィアシップ 5月21日

藤田裕彦、伊澤朋美

「NIIGATAアートリンク2013」第1・2・3回連絡
会議 新潟市美術館 5月22日、8月9日、11月
22日

徳永健一、藤田裕彦

「第62回全国美術館会議」 5月30～31日

「美術館連絡協議会2013年度総会」

リーガロイヤルホテル東京 10月17日

国立新美術館 10月18日

立川厚生、澤田佳三、青木善治

「第55回北信越博物館協議会・日本博物館協会北信
越支部総会・研究協議会」 5月23～24日

徳永健一 「にいがた文化館ネットワーク協議会」

新潟日報社 8月19日

【その他】

審査

徳永健一 「新潟デジタルコンテンツ審査会」 朱鷺メッセ 9
月26日

「伝統工芸展作品審査会」 雪梁舎 11月20日

徳永健一、宮下東子

「サマーナイトプレゼンツ ペイントアートコンペ」
審査 審査委員長(徳永) オブザーバー(宮下) 国
営越後丘陵公園 8月19日

佐藤久美子 「平成25年度ながおか農業まつり小・中学生絵画展
審査会」 バストラル長岡 10月1日

「平成25年度中越教育美術展審査会」 長岡市上組小
学校 11月14日

新潟県ジュニア美術展覧会審査会

万代シルバーホテル 11月25日

新潟県民会館 11月26日

青木善治 「平成25年度中越教育美術展審査会」審査補助 長
岡市立上組小学校 11月20日

長嶋圭哉 「新発田市展日本画部門審査員」 新発田市文化会館
10月15日

その他

藤田裕彦 長岡デザインフェア2013実行委員会委員 4月1
日～3月31日

第1回実行委員会 5月7日

第2回実行委員会 7月12日

第5回実行委員会 7月14日

徳永健一、藤田裕彦

「法隆寺展記者発表」 学士会館 11月6日

新潟県立万代島美術館

【調査】

- 飯島沙耶子 「新潟の日本画100年」関連調査
新潟県立図書館 5月17日
新潟市歴史博物館 6月20日
- 今井 有 企画展「亀倉雄策展(仮称)」関連調査
新潟県立近代美術館 12月5日、1月15日、3月27日
- 高 晟俊 企画展「朝鮮を描く(仮称)」関連調査
ギャラリー川船(東京都中央区) 4月25日
跡見女子学園大学新座図書館(埼玉県新座市)、東京芸術大学大学美術館(東京都台東区) 10月31日
東京芸術大学大学美術館・取手館(茨城県取手市) 11月1日
ギャラリー船越記念館(福岡県行橋市) 2月16日
アートまちかど(長野県千曲市) 3月12日
- 企画展「朝鮮を描く(仮称)」研究会
美術館連絡協議会事務局(東京都中央区) 4月25日
徳寿宮美術館(大韓民国ソウル特別市) 5月12日
美術館連絡協議会事務局(東京都中央区) 7月16日
ソウル大学校美術館(大韓民国ソウル特別市) 10月12、13日
東京大学教養学部(東京都目黒区) 12月21日
福岡アジア美術館(福岡市博多区) 2月17、18日

【研修】

- 桐原 浩 「平成25年度新潟県博物館協議会運営研究会」佐渡市 7月11日～12日
- 高 晟俊 「平成25年度新潟県博物館協議会学芸員等職員研修会」埼玉県内博物館施設 10月30日～31日

【紀要】

- 今井 有 「亀倉雄策のニコン関連作品・資料について」『新潟県立近代美術館研究紀要』
- 高 晟俊 “Nikodim Kondakov and Alphonse Mucha”
「ニコディム・コンダコフとアルフォンス・ミュシャ(日本語訳)」『新潟県立近代美術館研究紀要』13(2014)
「在朝鮮日本人漫画家の活動について—岩本正二を中心に」『新潟県立近代美術館研究紀要』13(2014)

【寄稿】

- 飯島沙耶子 「『新潟の日本画100年』に寄せて」(文化欄)『新潟日報』11月12日
- 桐原 浩 「篠山紀信展 作品解説」(連載)『読売新聞』
①宮沢りえ 1991年 2月4日
②山口百恵 1977年 2月5日
③三島由紀夫 1970年 2月6日
④大友瑠斗(9) 大友乃愛(7) 名取市 2011年 2月7日
- 高 晟俊 「私の愛、ナムジュン・パイク」(久保田成子・南禎鎬著)翻訳
「ミュシャ展 作品解説」(連載)『読売新聞』
〔上〕代理制作のポスター好評 6月25日
〔中〕女性美引き立てる曲線 6月26日
〔下〕5地域の紋章冠に 6月27日

【講演会、講義、展覧会監修等】

- 美術史概説A(新潟大学人文学部講義)
- 桐原 浩 「④ルネサンス イタリア美術」10月23日
「⑤ルネサンス 北方美術」10月30日
「⑥バロック スペイン・イタリア美術」11月13日
「⑦バロック オランダ・フランドル美術」11月20日
- 高 晟俊 「①イントロ 全体の流れと方法論等」10月2日
「②古代ギリシア・ローマの美術」10月9日
「③西洋中世の美術」10月16日
「④中国の美術と美術史」1月29日
「⑤朝鮮半島の美術と美術史」2月5日

- 「行ったつむりのヨーロッパ美術めぐり」まちなかキャンパス長岡
- 桐原 浩 「③ドイツ・ルネサンスの巨匠デューラーとニュルンベルク」10月21日
- 高 晟俊 「②ビザンティンの世界遺産—イスタンブールとカッパドキア」10月7日

その他

- 飯島沙耶子 新潟デザイン専門学校における講義(対象:モンセラート美術大学留学生)「日本画について」※英語による講義 6月5日
- 高 晟俊 韓国近現代美術史学会国際学術大会、ソウル大学美術館レクチャーホール「在韓日本人漫画家の活動について—岩本正二を中心に」10月12日
新潟デザイン専門学校卒業・修了制作展「デザイン展」審査 2月7日

美術品の収集

平成25年度収集作品一覧

分 野	各領域点数	合計点数
新潟の美術	日本画1 油彩画他3 彫刻1 素描3	8
日本の美術	日本画1 デザイン1	2
世界の美術	デザイン3	3
総合計	日本画2 油彩画他3 彫刻1 素描3 デザイン14	13

新潟の美術

分野	作家名(生歿年)	作 品 名	制作年	寸 法(cm)	素材・技法・形状	購入・寄贈
日本画	小山正太郎 こやましょうたろう 1857-1916	牧童図	1912年	127.0×50.4	絹、墨、顔料	寄贈
油彩画他	高村真夫 たかむらしんぶ 1876-1954	女	1920年代後半	59.0×71.4	油彩、カンヴァス	寄贈
	富樫寅平 とがしとらへい 1906-1951	街	1930年代前半	91.0×116.5	油彩、カンヴァス	寄贈
	矢部友衛 やべともえ 1892-1981	わらを打つ	1951年	117.0×90.8	油彩、カンヴァス (板に貼り付け)	購入
彫刻	北村四海 きたむらしかい 1871-1927	女性立像	1926年	高さ60 奥行き24.5 幅28.5	大理石	寄贈
素描	尾竹竹坡 おたけちくは 1878-1936	画帳(3冊)	不明	①②37.5×28.0 ③38.5×20.0	①②紙、鉛筆、彩色 ③紙、鉛筆、墨、彩色	寄贈

日本の美術

分野	作家名(生歿年)	作 品 名	制作年	寸 法(cm)	素材・技法・形状	購入・寄贈
日本画	仲山計介 なかやまけいすけ 1948-	光彩図	1996年	112.5×225.0	麻紙、岩絵具、ピグメント、金箔・銀箔、膠、アクリル樹脂メディウム	寄贈
デザイン	平野敬子 ひらのけいこ 1959-	第15回亀倉雄策賞受賞作品「東京国立近代美術館60周年」のビジュアルデザイン	2012年		シートなど 作品1件(13点)	寄贈

世界の美術

分野	作家名(生歿年)	作 品 名	制作年	寸 法(cm)	素材・技法・形状	購入・寄贈
デザイン	デイヴィッド・ホックニー 1937-	バラード	1981年	203.0×101.5	セリグラフ、紙	寄贈
		バラード(フランス作曲家三部作)	1981-82年	206.0×104.0	セリグラフ、紙	
		イーゴル・ストラヴィンスキー	1981年	205.9×89.2	セリグラフ、紙	

新収蔵品

新潟の美術



日本画
小山正太郎《牧童図》



油彩画他
高村真夫《女》



油彩画他
富樫寅平《街》



油彩画他
矢部友衛《わらを打つ》



彫刻
北村四海《女性立像》

日|本|の|美|術|



日本画
仲山計介《光彩図》



デザイン
平野敬子《東京国立近代美術館 60周年シンボルマーク》

世|界|の|美|術|



デザイン
デイヴィッド・ホックニー
《パレード》



デザイン
デイヴィッド・ホックニー
《パレード（フランス作曲家三部作）》



デザイン
デイヴィッド・ホックニー
《イーゴル・ストラヴィンスキー》

美術品の修復

平成25年度 修復作品一覧

分野	作家名	作品名	制作年	修復内容	修復者	修復期間
彫刻	北村四海	女性立像	1926年	クリーニング、台座の破片接着	有限会社ブロンズスタジオ (東京都)	平成26年2月5日～3月18日
彫刻	武石弘三郎	裸婦浮彫	1939年	クリーニング	有限会社ブロンズスタジオ (東京都)	平成26年2月5日～3月18日
下絵	岩田正巳	初夏のさへづり 大下絵	1923年頃	パネル装	(有)筑波彩雅堂 (新潟県)	平成25年12月16日～平成26年1月28日
下絵	岩田正巳	武蔵野の秋 大下絵	1925年頃	パネル装	(有)筑波彩雅堂 (新潟県)	平成25年12月16日～平成26年1月28日

美術品の燻蒸

平成24年度の新収蔵作品や貸出作品などを燻蒸し、収蔵庫に収めた。

平成25年度 燻蒸作品一覧

分野	作家名	作品名
日本画	尾竹竹坡	山岳図
		山岳図
		大黒天図
		阿寒湖
日本画	尾竹越堂	七福神図
日本画	安宅安五郎	麦圃
日本画	堅山南風	玉蜀黍
日本画	下村良之介	旅翼
		牧童図
日本画	小山正太郎	蔬菜 ※寄託
油彩画他	小野末	かめ
		自画像 (未完)
		闘牛
		闘牛 (猛進)
		闘牛 (突きあげる)
		カポルカの砂丘C
油彩画他	小林哲夫	夢妄
油彩画他	平澤熊一	長岡
		宮内疎開中
		摂田屋風景
		静物
		草むら
油彩画他	高村真夫	女
油彩画他	富樫寅平	街
油彩画他	矢部友衛	わらを打つ
油彩画他	宮芳平	睡蓮 ※展覧会借用作品
		自画像 ※展覧会借用作品

分野	作家名	作品名
彫刻	武石弘三郎	裸婦浮彫
書	良寛	和歌一首
素描	尾竹竹坡	画帳
素描	中村彝	小鳥の復活 ※寄託
資料	中村岳陵 他	中村岳陵・荒井寛方・堅山南風書簡
資料	中村彝	洲崎義郎宛書簡 ※寄託
参考資料	尾竹竹坡 他	蘭図 他
参考資料	尾竹竹坡	蘭図
		七福神図
		恵比寿図
		豪華大下絵
		豪華下絵
		豪華下絵
参考資料	朝倉文夫	尾竹翁の像
参考資料		尾竹竹坡他写真
参考資料		尾竹竹坡印譜
参考資料		尾竹竹坡印章
参考資料	勝井三雄	視覚の地平 Visionary ∞ scape
参考資料	澁谷克彦	ポスター「SHISEIDO」
参考資料	亀倉雄策	関係資料
参考資料	ヴァロットン他	西洋美術資料

燻蒸者	株式会社サニーサニター (新潟県)
実施期間	平成25年11月15日～18日
使用薬剤	エキヒュームS
燻蒸方法	包み込み燻蒸処理

分野	作家名	作品名
日本画	長崎莫人	インド ゼ・ラ峠近く(1)
		コヒマ博物館入口
		マンダラ(4)
		雲崗石窟 十八窟右側
		雲崗石窟 怪獣・怪鳥文様
		雲崗石窟 1
		雲崗飛天 1
		雲崗供養仏
		龍門石窟
		敦煌石窟 北魏交脚弥勒
		炳靈寺入口風景
		ナポリ
		ハイデルベルグ
		ノートルダム寺院
		山
		ライン 古城
		ロンドン
		ベニス
		ライン 監視塔
		ケルン 寺院
		ボンベイ
		ボンベイ
		ローマ コロセウム
		テームズ
		コロンボ
		スイス 古城
		センリス近く 畑
		ウィーンの森
		棚山
		蛭谷風景
		赤い海
		老樹と寒村
雲(1)		
雪の親不知		
黒部峡		
ドゥーモー		

燻蒸者	株式会社サニーサニター（新潟県）
実施期間	平成25年12月13日～16日
使用薬剤	エキヒュームS
燻蒸方法	包み込み燻蒸処理

美術品の貸出

平成25年度 作品貸与一覧 (近代美術館所管作品)

展覧会名	貸出先	会期	作家名	作品名
深澤索一版画展	燕市産業史料館	平成25年7月5日～7月21日	深澤索一	瀧風景
				代々木風景
				早春郊外
				山村暮趣
				奈良風景
				菜
				風景
				新東京百景 芝増上寺
				新東京百景 柳ばし
				新東京百景 濱町公園
				新東京百景 築地
				新東京百景 清洲橋
				新東京百景 言問橋
				新東京百景 坂下門
				新東京百景 昭和通ガソリンヤ
				索一自選小品集 静物
				索一自選小品集 郊外
				索一自選小品集 切り通し
				索一自選小品集 冬日
				索一自選小品集 洋館
				索一自選小品集 宇都宮所見
				索一自選小品集 樹木
				索一自選小品集 郊外
索一自選小品集 冬				
索一自選小品集 静物				
索一自選小品集 切り通し				
索一自選小品集 丘				
薬師寺付近				
相撲				
新日本百景 裏富士				
石仏				
花				
静物(わらびと筍)				
オランダ・ハーグ派展	山梨県立美術館	平成25年7月13日～8月25日	ドービニー	オワーズ河、イル・ド・ヴォーの夜明け
	ひろしま美術館	平成25年10月19日～12月23日		
	下関市立美術館	平成26年1月4日～2月16日		
	郡山市立美術館	平成26年2月22日～3月29日		
生誕120年 宮芳平展	茅野市美術館	平成25年8月2日～9月1日	宮芳平	カーテンに
	練馬区立美術館	平成25年9月15日～11月24日		ドント・オープン
				海 その1
				きざはし
				さざなみ
				聖地巡礼シリーズ エフタとその娘
				聖地巡礼シリーズ ゴルゴダ
				聖地巡礼シリーズ サロメ
				聖地巡礼シリーズ 降誕
				聖地巡礼シリーズ 逃避
				聖地巡礼シリーズ ニカノルの門
				聖地巡礼シリーズ ニザンの月
				聖地巡礼シリーズ ベテスダの池
				聖地巡礼シリーズ 埋葬
				聖地巡礼シリーズ マグダラのマリアの悲しみ
				聖地巡礼シリーズ マリアの驚き
聖地巡礼シリーズ ユダの椅子				
聖地巡礼シリーズ ルツとナオミ				
島根県立岩見美術館	平成25年12月21日～2月24日	宮芳平	カーテンに	
安曇野市立豊科近代美術館	平成26年7月19日～9月7日			

展覧会名	貸出先	会期	作家名	作品名
長崎莫人展	朝日町立ふるさと美術館	平成25年9月13日～12月20日	長崎莫人	インド ゼ・ラ峠近く(1)
				コヒマ博物館入口
				マンダラ(4)
				雲崗石窟 十八窟右側
				雲崗石窟 怪獣・怪鳥文様
				雲崗石窟1
				雲崗飛天1
				雲崗供養仏
				龍門石窟
				敦煌石窟 北魏交脚弥勒
				炳靈寺入口風景
				ナポリ
				ハイデルベルグ
				ノートルダム寺院
				山
				ライン 古城
				ロンドン
				ベニス
				ライン 監視塔
				ケルン 寺院
				ボンベイ
				ボンベイ
				ローマ コロセウム
テームズ				
コロンボ				
スイス 古城				
センリス近く 畑				
ウィーンの森				
棚山				
蛭谷風景				
赤い海				
老樹と寒村				
雲(1)				
雪の親不知				
黒部峡				
ドゥーモー				
生誕100年 星襄一展	星と森の詩美術館	平成25年10月4日～11月30日	星襄一	夜明け
ゲンビ New era of creation	芦屋市立美術博物館	平成25年10月19日～11月24日	井上有一	作品
			江口草玄	刻野
光の賛歌 印象派展	東京富士美術館	平成25年10月22日～1月5日	江口草玄	作品No.6
岡倉天心展	福井県立美術館	平成25年11月1日～12月1日	クールベ	エトルタ海岸、夕日
洲之内徹と現代画廊	宮城県美術館 平成25年11月2日～12月23日	平成26年1月25日～3月16日	田畑あきら子	作品No.3
	愛媛県美術館、町立久万美術館			作品No.5
				作品No.17
				作品No.18
				作品No.20
			作品No.28	
新潟市美術館 平成26年4月12日～6月8日	作品No.31			
洋画家 中澤茂 原色の美学	弥彦の丘美術館	平成26年1月23日～3月23日	前田寛治	作品No.32
			中澤茂	赤い帽子の女
				老婆の高笑い
江南区の隠れた名品展 日本画家・横山操展	新潟市新津美術館	平成26年1月25日～3月23日	横山操	グアテマラの女たち
				壱壊到巒
				燈台
				月嶺
				炎炎桜島

展覧会名	貸出先	会期	作家名	作品名
江南区の隠れた名品展 日本画家・横山操展	新潟市新津美術館	平成26年1月25日～3月23日	横山操	曇れる丘
				波濤
				流星
				湖映
				富士
				ふるさと
				春近し
				〔中央公論〕表紙絵 1966年1月号「富士山」
				〔中央公論〕表紙絵 1966年2月号「川」
				〔中央公論〕表紙絵 1966年3月号「ウォール街」
				〔中央公論〕表紙絵 1966年4月号「春」
				〔中央公論〕表紙絵 1966年5月号「城」
				〔中央公論〕表紙絵 1966年6月号「ゴンドラ」
				〔中央公論〕表紙絵 1966年7月号「ナイアガラ」
				〔中央公論〕表紙絵 1966年8月号「グランドキャニオン」
				〔中央公論〕表紙絵 1966年9月号「マンハッタン」
				〔中央公論〕表紙絵 1966年10月号「長城」
				〔中央公論〕表紙絵 1966年11月号「オランダ」
				〔中央公論〕表紙絵 1966年12月号「エッフェル塔」
				〔中央公論〕表紙絵 1968年1月号「紅白梅」
				世紀の日本画
グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	静岡県立美術館	平成26年2月1日～3月23日	中西夏之	作品 ※寄託
			高松次郎	椅子にかけた男の影 ※寄託
			高松次郎	カーテンをあけた女の影 ※寄託

平成25年度 作品貸与一覧 (万代島美術館所管作品)

展覧会名	貸出先	会期	作家名	作品名
夜明け前 知られざる日本写真開拓史	北海道立函館美術館	平成25年3月5日～5月6日	金井弥一?	(女性の肖像)
			鈴木真一?	横山松三郎像
			江崎礼二	下岡蓮杖像
	鶴岡アートフォーラム	平成25年7月20日～8月25日	鈴木真一	大朝鮮上司 朴泳孝氏像
			鈴木真一	九段鈴木真一御夫妻
			鈴木真一?	九段子息「パイ■」ヤスツク
	郡山市立美術館	平成25年11月2日～12月15日	金井弥一	母子着色写真
			金井弥一	籠手田知事令嬢
			鈴木真一	横田先生御夫妻
藪内佐斗司展 「やまとちから」	堺市博物館	平成25年5月24日～7月7日	藪内佐斗司	走る童子
	群馬県立館林美術館	平成25年7月20日～9月23日		
	奈良県立美術館	平成25年10月19日～12月15日		
	そごう美術館	平成26年1月1日～1月22日		
福田美蘭展	東京都美術館	平成25年7月23日～9月29日	福田美蘭	ブッシュ大統領に話しかけるキリスト ぶれちゃった写真

管理・運営



新潟県立近代美術館

コレクション展観覧者数（コレクション展のみの観覧者）

期間 (企画展名)	第1期	第2期		第3期			第4期			第5期		合計 (年間261日)	
	H25 4/2~5/8 (33日間)	H25 6/29~8/18 (48日間)		H25 8/22~10/20 (52日間)			H25 10/29~H26 1/26 (77日間)			H26 1/31~3/31 (51日間)			
	4/2~5/8 33日間 (東京富士美術館 所蔵近代日本画の 精華)	6/29~8/11 42日間 (ルーベンス展)	8/13~8/18 6日間 (コレクション展のみ)	8/22~8/30 8日間 (コレクション展のみ)	8/31~10/14 39日間 (オランダ・ハーグ 派展)	10/16~10/20 5日間 (コレクション展のみ)	10/29~11/7 9日間 (コレクション展のみ)	11/8~1/21 63日間 (館長庵野秀明特 撮博物館)	1/22~1/26 5日間 (コレクション展のみ)	1/31~2/28 25日間 (コレクション展のみ)	3/1~3/30 26日間 (若田正巳展)		
個人	一般	35	82	268	150	215	54	0	0	0	208	40	1,052
	大学・高校生	11	3	25	16	5	4	0	0	0	17	3	84
団体	一般	0	0	0	0	0	41	0	0	0	0	0	41
	大学・高校生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	個人	46	85	293	166	220	58	0	0	0	225	43	1,136
	団体	0	0	0	0	0	41	0	0	0	0	0	41
無料	26	118	231	136	33	6	430	10,088	272	227	29	11,596	
免除	1	9	15	14	1	3	2	0	3	61	2	111	
合計	73	212	539	316	254	108	432	10,088	275	513	74	12,884	
	73 (12,659)	751 (45,493)	678 (8,678)	10,795 (87,931)	587 (3,138)							157,899	

* 企画展開催中は、その観覧者数がコレクション展観覧者と重複する。

* () 内は企画展観覧者数をあわせた人数。

* 無料には友の会会員を含む。

企画展観覧者数

企画展名	東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華 4/2~5/8(33日間)	ルーベンス 栄光のアントワープ工房と原点 のイタリア 6/29~8/11(42日間)	オランダ・ハーグ派展 8/31~10/14(39日間)	館長 庵野秀明 特撮博物館 11/8~1/21(63日間)	生誕120年 若田正巳展 3/1~3/30(26日間)	合計
個人	7,007	23,075	3,302	43,790	1,363	78,537
大学・高校生	135	1,044	171	2,796	27	4,173
小計	7,142	24,119	3,473	46,586	1,390	82,710
団体	126	434	251	112	81	1,004
大学・高校生	34	35	2	1		72
小計	160	469	253	113	81	1,076
前売	2,542	9,076	945	6,224	136	18,923
無料	1,993	8,704	2,825	22,094	768	36,384
免除	749	2,374	504	2,119	176	5,922
合計	12,586	44,742	8,000	77,136	2,551	145,015

企画展名	東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華	ルーベンス 栄光のアントワープ工房 と原点のイタリア	オランダ・ハーグ派展	館長 庵野秀明 特撮博物館	生誕120年 若田正巳展	合計
図録販売数(冊)	164	1,026	242	1,598	170	3,200
音声ガイド使用数(台)	388	8,832		4,267		13,487

共催展

展覧会名	会 期	日 数	観覧者数
新潟の風景～未来への記録	6/8～6/23	15	7,770
県展「長岡展」	6/12～6/18	7	2,742
第43回世界児童画展	8/13～8/18	6	1,705
第15回亀倉雄策賞受賞記念・平野敬子展 JAGDA新人賞2013	9/11～9/23	12	1,748
友の会文化祭・作品展	10/1～10/6	6	316
第17回長岡市中学生美術部作品展	10/12～10/13	2	521
第44回県ジュニア美術展「長岡展」	2/8～2/19	10	3,110
こどもものづくり大学校	3/15～3/23	8	736
計		66	18,648

巡回ミュージアム

開催地	会 場 名	会 期	日 数	観覧者数
魚沼市	魚沼市立堀之内中学校・集会室	10/30	1	285
妙高市	妙高市立新井中学校・第二体育館	11/8	1	650
阿賀野市	阿賀野市立笹神中学校・体育館	11/21	1	238
計			3	1,173

総観覧者数

	常 設 展	企 画 展	共 催 展	巡回ミュージアム	合 計
観覧者数	12,884	145,015	18,648	1,173	177,720

新潟県立万代島美術館

所蔵品展・企画展 観覧者数

企画展名	ひとの姿/人のかたち	ミュシャ展	京都 清水寺展	新潟の日本画100年	篠山紀信展写真力	梅佳代展	合 計	
期 間	4/1～5/19 (42日間)	6/1～8/11 (68日間)	8/23～10/14 (50日間)	10/26～12/1 (35日間)	12/14～3/2 (67日間)	3/15～3/31 (16日間)		
個人	一 般	1,322	22,415	18,000	2,103	40,346	1,473	85,659
	大学・高校生	133	2,191	408	79	1,599	189	4,599
	小 計	1,455	24,606	18,408	2,182	41,945	1,662	90,258
団体	一 般	66	337	627	268	192	11	1,501
	大学・高校生	1	255	8	1	10	5	280
	小 計	67	592	635	269	202	16	1,781
前 売	0	9,406	5,168	0	5,761	321	20,656	
無 料	804	7,976	3,896	1,128	7,037	495	21,336	
免 除	116	2,166	1,616	276	1,934	149	6,257	
合 計	2,442	44,746	29,723	3,855	56,879	2,643	140,288	

* 所蔵品展の無料には友の会会員を含む

** 小中学生は無料を含む

講堂・ギャラリーの貸出

県民の文化活動の促進に資するため、新潟県立近代美術館講堂及びギャラリー使用要項に則り、講堂は1日につき26,400円、ギャラリーは1日につき17,300円、講座室は1日につき4,200円で貸し出した。

講堂使用状況

使用日	日数	行 事 名	内 容	利用者人数
4/14	1日間	ピアノ発表会	ピアノ演奏	150
17	半日間	カワイ音楽研究会	ピアノ講座	56
28	1日間	高橋バイオリン教室おさらい会	バイオリン教室のおさらい会	50
29	半日間	春の集い！長岡復興集会	講演会	200
6/8	1日間	菅井音楽教室発表会	ピアノ・歌発表	70
9	半日間	朗読の発表会 リハーサル	朗読の発表会のリハーサル	10
15	1日間	朗読の発表会	朗読の発表会	97
16	半日間	大人のおさらい会	ピアノ発表会	20
22	1日間	トリオ・ベルガモ室内楽演奏会	室内楽演奏家(ピアノ三重奏)	50
23	半日間	坂井ピアノ教室発表会	ピアノ発表会	100
7/7	半日間	講演会	講演会	180
27	半日間	にいがた食の安全 安心を考える講演会	講演会	60
8/4	半日間	発表会の練習 ミッドサマーコンサート練習	発表会練習	15
11	半日間	講演会	講演会	100
9/8	1日間	music of wing	音楽教室発表会	80
11	半日間	カワイ音楽教室音楽研究会	音楽研究会	56
15	半日間	ピアノ発表会	教室生徒の発表会	70
21	1日間	ピアノ発表会	ピアノ演奏会	50
28	1日間	ファミリー・ジャム・コンサート	ピアノ演奏会	120
29	半日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	100
10/6	半日間	ピアノコンサート	発表会リハーサル	50
13	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	70
14	1日間	イリーデピアノコンサート	ピアノ発表会	100
19	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	100
20	1日間	新潟県競書大会 表彰式	優秀作品の表彰	250
11/2	1日間	Piano Concert	ピアノ教室発表会	30
3	半日間	吉澤ピアノ教室ピアノ発表会	ピアノ演奏	76
4	1日間	ピアノ発表会	ピアノの発表会	200
1/26	1日間	WHATミュージックコンサート	ピアノ・エレクトーンによるコンサート	80
2/23	1日間	新潟県毛筆・硬筆書き初め大会 表彰式	優秀作品の表彰	450
3/8	半日間	落語会	落語	160
13	半日間	カワイ音楽教育研究会	音楽研究会	60
21	半日間	フォルテピアノ教室ピアノ発表会	ピアノ発表会	38
23	1日間	ティンカーベルプチコンサート	ピアノ発表会	300
30	半日間	エリーゼの会ピアノ発表会	ピアノ発表会	100

以上35件 (延べ日数…26日)

合計人数3,698

ギャラリー使用状況

使用日	日数	行 事 名	内 容	利用者人数
8/23~9/4	11日間	田辺和栄展	油彩・スケッチ展示	115
10/18~10/21	3日間	新潟県競書大会	優秀作品の展示及び表彰	2,941
2/21~2/24	3日間	新潟県毛筆・硬筆書き初め大会	優秀作品の展示及び表彰	6,049

以上3件 (延べ日数…17日)

合計人数9,105

講座室使用状況

使用日	日数	行 事 名	内 容	利用者人数
4/29	半日間	春の集い！長岡復興集会	講演会	15
5/8	1日間	警備員教育	教育	19
6/11	1日間	警備員教育	教育	19
19	1日間	警備員教育	教育	13
21	1日間	警備員教育	教育	15
7/16	1日間	会議	会議	5
28	1日間	MSTC勉強会	勉強会	8
8/8	半日間	見附市職員統一研修	教育課程研修会(伝達講習)	14
8	半日間	新潟県中学校教育研究会研修会	学校と美術館の連携・活用にかかわる研修	9
11	半日間	講演会	講演会	10
9/14	半日間	研修会	造形教育研修会	16
10/13	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	5
14	1日間	イリーデピアノコンサート	ピアノ発表会	7
11/4	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	50
1/26	1日間	WHATミュージックコンサート	ピアノ・エレクトーンによるコンサート	35
3/8	半日間	落語会	落語	3

以上16件 (延べ日数…13日)

合計人数243

新潟県立近代美術館

展覧会名	展覧会開催期間	入場者数	回答者	回収率
東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華	3月16日～5月8日	16,627	102	0.61%
ルーベンス-栄光のアントワープ工房と原点のイタリア	6月29日～8月11日	44,742	262	0.59%
近代自然主義絵画の成立 オランダ・ハーグ派展	8月31日～10月14日	8,000	76	0.95%
館長 庵野秀明 特撮博物館	11月8日～1月21日	77,136	3,957	5.13%
合 計		146,505	4,397	3.00%

I 企画展覧会の感想

展 覧 会 名	大変満足	まあまあ満足	やや不満	かなり不満	無回答	合 計
東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華	63%	25%	6%	3%	4%	100%
ルーベンス-栄光のアントワープ工房と原点のイタリア	53%	35%	5%	3%	4%	100%
近代自然主義絵画の成立 オランダ・ハーグ派展	57%	30%	7%	0%	7%	100%
館長 庵野秀明 特撮博物館	70%	27%	1%	0%	2%	100%
平 均	61%	29%	5%	2%	4%	100%

II 企画展覧会のきっかけ

展 覧 会 名	新聞記事	新聞広告	テレビ	ラジオ	街頭ポスター	雑誌	インターネット	友の会だより	知人	たまたま来て	その他	無回答	合 計
東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華	37%		17%	3%	15%	1%	3%	1%	7%	4%	7%	4%	100%
ルーベンス-栄光のアントワープ工房と原点のイタリア	16%	14%	20%	3%	11%	3%	6%	1%	7%	3%	12%	5%	100%
近代自然主義絵画の成立 オランダ・ハーグ派展	10%	8%	8%	3%	14%	4%	9%	2%	11%	9%	14%	10%	100%
館長 庵野秀明 特撮博物館	6%	5%	50%	2%	9%	3%	8%	1%	11%	1%	4%	2%	100%
平 均	12%	11%	24%	3%	12%	3%	7%	1%	9%	4%	9%	5%	100%

*近代日本画の精華のみ「新聞記事」、「新聞広告」に分けず、「新聞」という項目でまとめて集計

III コレクション展の感想

展 覧 会 名	大変満足	まあまあ満足	やや不満	かなり不満	無回答	合 計
東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華	26%	31%	5%	0%	37%	100%
ルーベンス-栄光のアントワープ工房と原点のイタリア	29%	26%	2%	2%	41%	100%
近代自然主義絵画の成立 オランダ・ハーグ派展	22%	32%	1%	0%	45%	100%
館長 庵野秀明 特撮博物館	60%	31%	1%	0%	8%	100%
平 均	34%	30%	2%	1%	33%	100%

IV 普段の情報源

展 覧 会 名	新聞	テレビ	ラジオ	街頭ポスター	雑誌	インターネット	友の会だより	知人	たまたま来て	その他	無回答	合計
東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華	34%	30%	9%	10%	1%	10%	1%	2%	0%	1%	0%	100%
ルーベンス-栄光のアントワープ工房と原点のイタリア	22%	35%	8%	7%	3%	16%	1%	3%	1%	2%	3%	100%
近代自然主義絵画の成立 オランダ・ハーグ派展	23%	23%	8%	10%	4%	21%	0%	3%	2%	3%	4%	100%
館長 庵野秀明 特撮博物館	14%	42%	6%	3%	2%	27%	0%	2%	0%	1%	1%	100%
平 均	23%	33%	8%	8%	3%	18%	0%	3%	1%	2%	2%	100%

V 来館回数

展 覧 会 名	初めて	2回以上	5回以上	10回以上	無回答	合 計
東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華	4%	17%	19%	55%	6%	100%
ルーベンス-栄光のアントワープ工房と原点のイタリア	23%	22%	18%	30%	6%	100%
近代自然主義絵画の成立 オランダ・ハーグ派展	11%	20%	20%	46%	4%	100%
館長 庵野秀明 特撮博物館	51%	28%	11%	7%	3%	100%
平 均	22%	22%	17%	35%	5%	100%

VI 展覧会ジャンルの希望

日本画	日本画	洋画 (日本)	西洋 絵画	彫 刻	版 画	工 芸	書	写 真	デザイン	現代美術	その他	無回答	合 計
東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華	27%	14%	13%	6%	6%	7%	6%	8%	5%	5%	2%	2%	100%
ルーベンス-栄光のアントワープ工房と原点のイタリア	16%	12%	22%	7%	4%	6%	4%	7%	8%	7%	3%	3%	100%
近代自然主義絵画の成立 オランダ・ハーグ派展	13%	10%	21%	9%	8%	6%	4%	9%	9%	8%	0%	3%	100%
館長 庵野秀明 特撮博物館	9%	7%	9%	6%	3%	6%	3%	17%	17%	13%	6%	5%	100%
平 均	16%	11%	16%	7%	5%	6%	4%	10%	10%	8%	3%	3%	100%

VII ボランティア

展 覧 会 名	参加したい					合 計
	展示作業	作品解説	ポスター掲示・ チラシ配り	ワークショップ の手伝い	その他	
東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華	20%	0%	27%	33%	20%	100%
ルーベンス-栄光のアントワープ工房と原点のイタリア	30%	13%	23%	26%	9%	100%
近代自然主義絵画の成立 オランダ・ハーグ派展	47%	13%	13%	27%	0%	100%
館長 庵野秀明 特撮博物館	46%	9%	22%	21%	3%	100%
平 均	36%	9%	21%	27%	8%	100%

(性 別)

展 覧 会 名	男 性	女 性	無回答	合 計
東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華	40%	46%	14%	100%
ルーベンス-栄光のアントワープ工房と原点のイタリア	26%	62%	13%	100%
近代自然主義絵画の成立 オランダ・ハーグ派展	30%	58%	12%	100%
館長 庵野秀明 特撮博物館	56%	36%	8%	100%
平 均	38%	51%	12%	100%

(お住まい)

展 覧 会 名	長岡市	新潟市	県内	県 外	無回答	合 計
東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華	24%	26%	36%	2%	12%	100%
ルーベンス-栄光のアントワープ工房と原点のイタリア	22%	34%	23%	7%	14%	100%
近代自然主義絵画の成立 オランダ・ハーグ派展	28%	32%	25%	11%	5%	100%
館長 庵野秀明 特撮博物館	19%	26%	33%	14%	8%	100%
平 均	23%	30%	29%	9%	10%	100%

(年 代)

展 覧 会 名	小・中 学生	高校・ 大学生	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70才 以上	無回答	合 計
東京富士美術館所蔵 近代日本画の精華	6%	1%	0%	6%	6%	5%	11%	30%	25%	11%	100%
ルーベンス-栄光のアントワープ工房と原点のイタリア	19%	5%	1%	6%	8%	18%	11%	15%	5%	11%	100%
近代自然主義絵画の成立 オランダ・ハーグ派展	9%	4%	1%	11%	17%	22%	14%	12%	5%	4%	100%
館長 庵野秀明 特撮博物館	19%	7%	2%	12%	15%	22%	13%	2%	1%	7%	100%
平 均	13%	4%	1%	9%	11%	17%	12%	15%	9%	8%	100%

新潟県立万代島美術館

平成25年度開催展覧会名	会 期	入館者数	アンケート 回収数	アンケート 回収率	
ひとの姿／人のかたち	平成25年4月1日～5月19日	2,442	58	2.4%	※全体会期のうち、平成25年度の数を抽出
ミュシャ展 パリの夢 モラヴィアの祈り	平成25年6月1日～8月11日	44,746	974	2.2%	
京都 清水寺展	平成25年8月23日～10月14日	29,723	656	2.2%	
新潟の日本画100年	平成25年10月26日～12月1日	3,855	81	2.1%	
篠山紀信展 写真力	平成25年12月14日～平成26年3月2日	56,879	712	1.3%	
梅佳代展 UMEKAYO	平成26年3月15日～3月31日	2,643	138	5.2%	※全体会期のうち、平成25年度の数を抽出
合 計		140,288	2,619	1.9%	

展覧会の感想

展 覧 会 名	良かった	まあまあ満足	やや不満	かなり不満	無回答	計
ひとの姿／人のかたち	56.9%	37.9%	3.4%	0.0%	1.7%	100.0%
ミュシャ展 パリの夢 モラヴィアの祈り	78.1%	13.4%	3.3%	1.5%	3.6%	100.0%
京都 清水寺展	78.0%	12.6%	3.5%	0.2%	5.7%	100.0%
新潟の日本画100年	70.7%	17.1%	0.0%	0.0%	12.2%	100.0%
篠山紀信展 写真力	68.7%	19.5%	4.7%	2.2%	4.9%	100.0%
梅佳代展 UMEKAYO	76.8%	16.7%	2.9%	1.4%	2.2%	100.0%
平均	71.6%	19.5%	3.0%	0.9%	5.1%	100.0%

作品や作家についての解説

展 覧 会 名	適度な量である	量が少ない	量が多い	その他	無回答	計
ひとの姿／人のかたち	82.4%	9.8%	7.8%	0.0%	0.0%	100.0%
ミュシャ展 パリの夢 モラヴィアの祈り	61.7%	15.5%	5.7%	0.0%	17.0%	100.0%
京都 清水寺展	57.3%	10.5%	2.9%	0.5%	28.9%	100.0%
新潟の日本画100年	56.1%	1.2%	2.4%	0.0%	40.2%	100.0%
篠山紀信展 写真力	52.9%	21.3%	1.3%	0.0%	24.5%	100.0%
梅佳代展 UMEKAYO	58.3%	12.9%	1.4%	0.7%	26.6%	100.0%
平均	61.4%	11.9%	3.6%	0.2%	22.9%	100.0%

展 覧 会 名	わかりやすい	難しい	簡単すぎる	無回答	計
ひとの姿／人のかたち	75.9%	10.3%	5.2%	8.6%	100.0%
ミュシャ展 パリの夢 モラヴィアの祈り	71.4%	11.1%	5.1%	12.4%	100.0%
京都 清水寺展	66.9%	14.6%	4.4%	14.0%	100.0%
新潟の日本画100年	73.2%	3.7%	1.2%	22.0%	100.0%
篠山紀信展 写真力	57.5%	16.9%	5.4%	20.1%	100.0%
梅佳代展 UMEKAYO	75.9%	1.5%	2.2%	20.4%	100.0%
平均	69.0%	9.6%	3.7%	17.8%	100.0%

展覧会のきっかけ

展 覧 会 名	ポスター	チラシ	新聞	テレビ	ラジオ	雑誌	知人	友の会 会員	県民 だより	HP	フリー ペーパー	インター ネット	その他	無回答	計	
ひとの姿／人のかたち	20.0%	20.0%	4.4%	1.1%	4.4%	5.6%	14.4%	2.2%	0.9%	2.2%	6.7%	4.4%	3.3%	11.1%	2.2%	100.0%
ミュシャ展 パリの夢 モラヴィアの祈り	21.9%	12.3%	7.4%	31.0%	1.6%	3.2%	6.6%	0.0%	0.9%	2.8%	1.2%	5.0%	4.3%	1.7%	100.0%	
京都 清水寺展	15.3%	9.5%	32.1%	19.2%	3.0%	1.1%	5.3%	0.9%	1.4%	3.2%	0.7%	2.0%	3.2%	2.9%	100.0%	
新潟の日本画100年	19.6%	13.4%	20.5%	2.7%	0.9%	0.9%	8.9%	4.5%	3.6%	2.7%	0.0%	7.1%	8.0%	7.1%	100.0%	
篠山紀信展 写真力	13.9%	7.9%	15.2%	40.3%	2.8%	3.1%	5.5%	0.0%	1.7%	1.4%	1.1%	2.6%	1.6%	2.8%	100.0%	
梅佳代展 UMEKAYO	22.6%	16.7%	4.3%	9.7%	2.7%	4.8%	11.3%	0.5%	1.1%	7.0%	3.8%	4.3%	7.0%	4.3%	100.0%	
平均	18.9%	13.3%	14.0%	17.3%	2.6%	3.1%	8.7%	1.2%	1.8%	4.0%	1.9%	4.1%	5.9%	3.5%	100.0%	

性別

展覧会名	男性	女性	(不明)	計
ひとの姿／人のかたち	34.5%	51.7%	13.8%	100.0%
ミュシャ展 パリの夢 モラヴィアの祈り	20.8%	63.9%	15.3%	100.0%
京都 清水寺展	27.0%	52.7%	20.3%	100.0%
新潟の日本画100年	34.1%	42.7%	23.2%	100.0%
篠山紀信展 写真力	30.6%	47.3%	22.0%	100.0%
梅佳代展 UMEKAYO	30.9%	51.8%	17.3%	100.0%
平均	30%	52%	19%	100.0%

年代

展覧会名	小学生以下	中学・高校生	左記以外の10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	(無回答)	計
ひとの姿／人のかたち	5.2%	19.0%	0.0%	22.4%	8.6%	1.7%	12.1%	8.6%	5.2%	17.2%	100.0%
ミュシャ展 パリの夢 モラヴィアの祈り	4.3%	13.3%	4.2%	20.6%	13.6%	13.1%	9.9%	7.1%	2.9%	11.1%	100.0%
京都 清水寺展	4.0%	3.7%	0.8%	4.6%	7.3%	14.4%	13.6%	18.9%	18.3%	14.5%	100.0%
新潟の日本画100年	0.0%	3.7%	2.4%	9.8%	3.7%	8.5%	8.5%	19.5%	22.0%	22.0%	100.0%
篠山紀信展 写真力	2.5%	2.8%	1.5%	11.7%	10.6%	12.7%	19.0%	17.7%	7.5%	13.9%	100.0%
梅佳代展 UMEKAYO	3.6%	6.6%	3.6%	16.8%	22.6%	13.9%	8.8%	5.1%	1.5%	17.5%	100.0%
平均	3.3%	8.2%	2.1%	14.3%	11.1%	10.7%	12.0%	12.8%	9.5%	16.0%	100.0%

お住まい

展覧会名	新潟市内	新潟市以外の下越地区	佐渡地区	中越地区	上越地区	県外・海外	(無回答)	計
ひとの姿／人のかたち	55.2%	12.1%	0.0%	6.9%	6.9%	15.5%	3.4%	100.0%
ミュシャ展 パリの夢 モラヴィアの祈り	43.5%	12.8%	1.3%	20.9%	6.3%	11.0%	4.2%	100.0%
京都 清水寺展	46.1%	16.4%	2.0%	19.6%	4.1%	6.2%	5.6%	100.0%
新潟の日本画100年	51.2%	9.8%	1.2%	8.5%	6.1%	14.6%	8.5%	100.0%
篠山紀信展 写真力	46.7%	15.9%	1.1%	21.7%	4.6%	4.2%	5.8%	100.0%
梅佳代展 UMEKAYO	42.6%	10.3%	0.0%	15.4%	3.7%	24.3%	3.7%	100.0%
平均	47.6%	12.9%	0.9%	15.5%	5.3%	12.6%	5.2%	100.0%

交通手段

展覧会名	自家用車	徒歩・自転車	バス	タクシー	電車	貸切バス	その他	(無回答)	計
ひとの姿／人のかたち	32.3%	30.6%	16.1%	4.8%	3.2%	6.5%	3.2%	3.2%	100.0%
ミュシャ展 パリの夢 モラヴィアの祈り	53.4%	8.7%	20.0%	2.7%	9.8%	1.4%	1.8%	2.2%	100.0%
京都 清水寺展	55.7%	9.4%	16.7%	3.3%	8.8%	1.3%	2.3%	2.6%	100.0%
新潟の日本画100年	36.0%	19.8%	14.0%	9.3%	11.6%	1.2%	2.3%	5.8%	100.0%
篠山紀信展 写真力	63.0%	7.2%	15.8%	2.6%	6.0%	0.3%	1.2%	3.9%	100.0%
梅佳代展 UMEKAYO	56.3%	15.5%	15.5%	0.7%	7.0%	0.0%	2.1%	2.8%	100.0%
平均	49.5%	15.2%	16.3%	3.9%	7.7%	1.8%	2.2%	3.4%	100.0%

来館回数

展覧会名	初めて	2~4回目	5回以上	回答なし	計
ひとの姿／人のかたち	39.7%	22.4%	34.5%	3.4%	100.0%
ミュシャ展 パリの夢 モラヴィアの祈り	36.9%	36.7%	24.1%	2.2%	100.0%
京都 清水寺展	28.3%	34.2%	33.6%	4.0%	100.0%
新潟の日本画100年	24.4%	17.1%	51.2%	7.3%	100.0%
篠山紀信展 写真力	36.6%	32.8%	26.3%	4.3%	100.0%
梅佳代展 UMEKAYO	35.5%	36.2%	25.4%	2.9%	100.0%
平均	33.6%	29.9%	32.5%	4.0%	100.0%

展覧会の鑑賞回数

展覧会名	1回以下	2~4回目	5回以上	回答なし	計
ひとの姿／人のかたち	24.1%	36.2%	36.2%	3.4%	100.0%
ミュシャ展 パリの夢 モラヴィアの祈り	28.5%	47.7%	20.7%	3.1%	100.0%
京都 清水寺展	16.7%	50.2%	28.6%	4.6%	100.0%
新潟の日本画100年	4.0%	29.0%	62.0%	5.0%	100.0%
篠山紀信展 写真力	31.8%	45.7%	16.7%	5.9%	100.0%
梅佳代展 UMEKAYO	21.0%	48.6%	27.5%	2.9%	100.0%
平均	21.0%	42.9%	31.9%	4.1%	100.0%

展覧会ジャンルの希望

展覧会名	日本画	洋画	西洋洋画	彫刻	版画	工芸	書	写真	デザイン	現代美術	県人作家	アジアの美術	絵本	アニメーション/マンガ	その他	無回答	計
ひとの姿／人のかたち	14.9%	10.7%	16.1%	4.2%	5.4%	3.6%	3.0%	6.0%	5.4%	6.5%	2.4%	4.2%	5.4%	9.5%	0.6%	2.4%	100.0%
ミュシャ展 パリの夢 モラヴィアの祈り	10.8%	8.9%	17.2%	4.6%	4.2%	4.2%	2.7%	6.6%	9.0%	6.4%	1.5%	2.5%	7.6%	10.6%	1.7%	1.5%	100.0%
京都 清水寺展	19.2%	9.7%	11.6%	9.2%	4.7%	6.3%	6.7%	7.9%	2.7%	4.3%	1.9%	2.4%	3.9%	4.0%	3.1%	2.5%	100.0%
新潟の日本画100年	20.3%	12.6%	9.8%	3.1%	4.2%	5.2%	3.5%	4.2%	2.4%	4.2%	4.9%	0.7%	3.8%	2.8%	1.0%	17.1%	100.0%
篠山紀信展 写真力	12.0%	8.8%	10.3%	3.9%	3.9%	4.5%	4.5%	18.3%	6.3%	6.2%	2.3%	2.2%	5.8%	6.6%	1.2%	3.0%	100.0%
梅佳代展 UMEKAYO	7.8%	8.4%	10.6%	2.9%	4.2%	3.8%	2.4%	17.7%	9.5%	9.5%	1.8%	2.4%	8.2%	7.5%	1.1%	2.0%	100.0%
平均	14.2%	9.8%	12.6%	4.7%	4.4%	4.6%	3.8%	10.1%	5.9%	6.2%	2.4%	2.4%	5.8%	6.8%	1.5%	4.8%	100.0%

組織及び業務

新潟県立美術館の業務【20年4月現在】

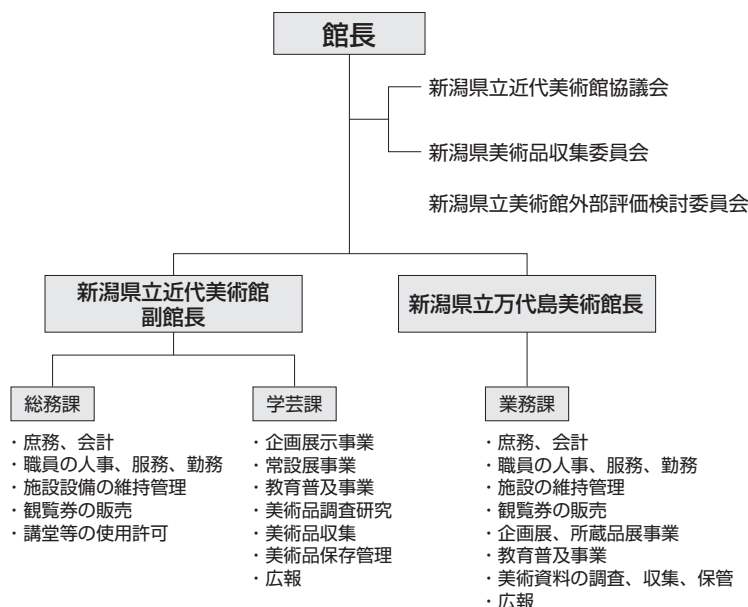
■新潟県立美術館条例（平成5年3月31日 新潟県条例第24号）（抜粋）

（設置）第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第18条の規定に基づき、県民の教育、学術及び分科の発展に寄与するため、新潟県立美術館（以下「美術館」という）を長岡市千秋3丁目に設置する。

2 前項に規定する美術館には、教育委員会の定めるところにより、分館として新潟県立万代島美術館（以下「万代島美術館」という。）を設置する。

（事業）第2条 美術館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 美術品、美術に関する資料等（以下「美術品等」という）の収集、保管及び展示
- (2) 美術品等の利用に関し必要な説明、助言、指導等
- (3) 美術品等の調査及び研究
- (4) 美術品等に関する講演会、講習会、映写会等の主催及びその開催の援助
- (5) 前各号に掲げるもののほか、美術館の目的を達成するために必要な事業



職 員

新潟県立近代美術館

	館長	徳永 健一
	副館長	立川 厚生
●総務課	総務課長	相澤 敏一
	主査	小林 史子
	主事	加瀬真奈美
	非常勤職員	佐藤真希子
	非常勤職員	佐野 一美
●学芸課	学芸課長	藤田 裕彦
	専門学芸員	松矢 国憲
	学芸課長代理	佐藤久美子
	学芸課長代理	平石 昌子
	学芸課長代理	宮下 東子
	学芸課長代理	澤田 佳三
	副参事	青木 善治
	主任学芸員	長嶋 圭哉
	美術学芸員	伊澤 朋美
	嘱託員	佐藤 和子
	嘱託員	堀井つかさ
	嘱託員	中島 結衣
	嘱託員	関 紗織
	嘱託員	今井ひとみ
	嘱託員	佐藤 友紀
	嘱託員	風間佳代子
	嘱託員	村越万友美

新潟県立万代島美術館

	館長	伊藤 輝男
●業務課	業務課長	桐原 浩
	課長代理	篠田 洋子
	主任	中村 敦子
	主任学芸員	今井 有
	主任学芸員	池田 珠緒
	主任学芸員	高 晟竣
	美術学芸員	飯島沙耶子
	臨時的任用職員	高橋 愛美（～H25.8.12）
	臨時的任用職員	吉成見奈子（H25.9.1～）
	嘱託員	三浦 華林
	嘱託員	五十嵐綾子
	嘱託員	天木ひかり
	嘱託員	伊藤 祥子
	嘱託員	谷川加奈子
	嘱託員	中嶋 美幸

新潟県立近代美術館

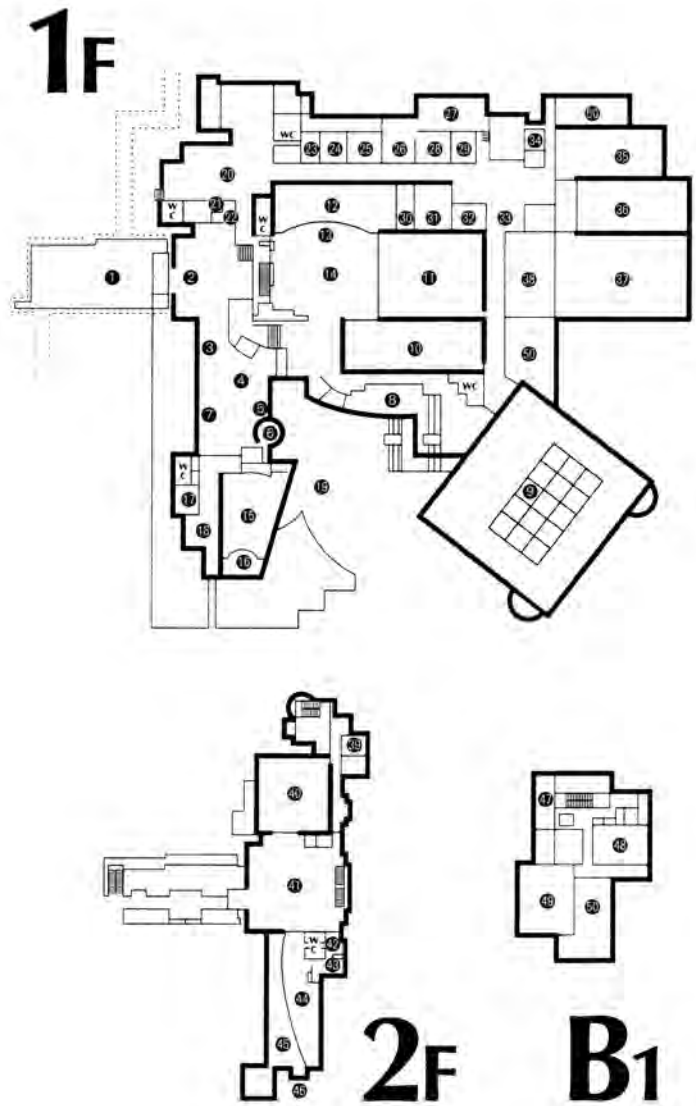
【施設概要】

(名称) 新潟県立近代美術館
 (所在地) 新潟県長岡市千秋3丁目278-14
 (設計) ㈱日本設計
 造園設計 ㈱日本設計・㈱日本造園
 設計期間 1990年9月～1991年2月
 (監理) 新潟県土木部都市整備局営繕課
 ㈱日本設計
 (施工) 大成・吉原・小杉特定共同企業体
 電気工事 六興・大原・長岡特定共同企業体
 空調工事 三建・日立・越後特定共同企業体
 衛生工事 ナカムラ・北陸特定共同企業体
 ガス工事 北陸瓦斯(株)
 昇降機工事 日本オーチスエレベーター
 備品工事 ㈱高島屋
 植栽工事 北陸緑化、ニューガーデン、
 長生園、宮川苑、吉茂造園、
 鈴木造園、新潟造園土木、
 長岡ガーデン、川崎農園、
 グリーン産業、松本造園
 工事期間 1991年7月29日～1993年5月31日
 (総工事費) 9,859,851千円
 支出内訳
 建築工事費 7,442,809千円
 造園工事費 1,261,187千円
 電気工事費 79,654千円
 展示工事費 1,121,201千円
 (主体構造) 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、
 プレストレストコンクリート梁
 基礎・地業 PHC抗
 (規模) 地下1階、地上2階、塔屋1階
 軒高 13.0m
 最高高 19.250m
 主なスパン 3.9m
 階高 5.7m
 (面積) 敷地面積 33,800㎡
 建築面積 9,133㎡
 延床面積 10,723㎡
 地下—機械室・電気室 716㎡
 1階—展示室・収蔵庫・講堂・
 事務室・他 8,873㎡
 2階—レストラン・県民ギャラリー
 1,064㎡
 屋階—ELV機械室
 地域地区 市街化調整区域
 (面積配分)
 導入部門 1,356㎡
 (エントランスホール636㎡、ロビー576㎡、ほか)
 展示部門 2,674㎡
 (常設展示室391㎡+472㎡+265㎡、
 企画展示室1,332㎡ ほか)
 教育普及部門 384㎡
 (講堂234㎡、講座室53㎡、ハイビジョン67㎡、ほか)
 収蔵部門 1,746㎡
 (収蔵庫第一292㎡、第二575㎡、
 第三267㎡、作業室49㎡、ほか)
 調査研究部門 272㎡
 (研究室83㎡、資料保管室61㎡、書庫128㎡)
 管理事務部門 416㎡
 (事務室133㎡、会議室70㎡、館長室55㎡、ほか)
 設備・機械 1,017㎡
 (熱源機械室、電気室、空調機械室、ほか)
 他共用部門 2,858㎡
 (廊下、階段、ほか)

(展示室の環境)
 室の明るさ 70～150lux+局部照明
 照明方法 全体照明(ダウンライト・間接)
 スポットライトによる局部照明
 光源の種類 ハロゲンランプ(熱線カット)
 美術館用蛍光灯
 温度・湿度 夏季/26℃・50%
 冬季/22℃・55%
 (主な設備)
 空調方法 個別式(単一ダクト方式・FCU方式)
 熱源:ガス・電気
 熱源機器/ガス冷温水発生機2台
 冷房能力/240USRT
 暖房能力/52,000kCal/h
 冷却塔/2,810,000kCal/h
 空調機器/全空気方式 空冷ヒート
 ポンプエアコンファン
 給排水衛生 給 水/上水直結
 給 湯/中央式(ガス)、
 個別式(電気)
 排 水/屋内合流、屋外下水道放流
 給排水 BIF床上受水槽(FRP40㎡)
 排水槽/有効0.76㎡
 電 気 受 電/3相3線 50Hz 6.6kV
 660kW
 発電機/3Φ3W 50Hz 6.6kV
 375kVA
 非常保安動力/300kVA
 非常保安電灯(スコット)/50kVA
 変圧器/1,400kVA7台
 防 災 消化/屋内消火栓、屋外消火栓、
 ハロゲン化物消失
 排煙/自然排煙
 屋内消火栓 粉末消火器 ハロン
 消化設備 ハロン消火器 連結散
 水設備 屋外消火栓
 昇降機 乗用ELV/750kg積
 (30㎡/分)1台
 人荷用ELV/3,000kg積
 (30㎡/分)1台
 駐車場 屋内2台、屋外165台
 (主な外部仕上)
 屋 根 アルミクラッド鋼板立ハゼ葺
 外 壁 四丁掛精硝器質タイル(割肌)
 二丁掛精硝器質タイル
 建 具 アルミサッシュ電解二次着色
 ステンレスサッシュH.L仕上
 外 構 御影石ブロック+陶製ブロック舗装
 (主な内部仕上)
 エントランスホール
 天井/コンクリート打放し
 壁/御影石こぶ出し仕上
 床/御影石ジェットバーナー仕上
 展示室 天井/P.B.E.P
 壁/ガラスクロスE.P
 床/タイルカーペット
 収蔵庫 天井・壁/スプルス
 床/ナラ緑甲板張
 講 堂 天井/
 壁/四丁掛精硝器質タイル+P.B.E.P
 床/カーペット
 研究室・事務室
 天井/岩綿吸音板
 壁/ビニールクロス貼
 床/タイルカーペット

【施設の配置】

- | | |
|---------------|---------------|
| ① キャンピ | ②⑥ 研究室 |
| ② エントランスホール | ②⑦ 書庫 |
| ③ ロビー | ②⑧ 資料保管室 |
| ④ ミュージアムショップ | ②⑨ 倉庫 |
| ⑤ データベース室 | ③⑩ フィルム保管室 |
| ⑥ ハイビジョンギャラリー | ③⑪ 撮影室 |
| ⑦ レファレンス | ③⑫ 作業室 |
| ⑧ 企画展示室ロビー | ③⑬ 荷解室 |
| ⑨ 企画展示室 | ③⑭ 燻蒸室 |
| ⑩ 展示室 1 | ④⑮ 収蔵室 1 |
| ⑪ 展示室 2 | ④⑯ 収蔵室 3 |
| ⑫ 展示室 3 | ④⑰ 収蔵室 2 |
| ⑬ 常設展示室ロビー | ④⑱ 展示備品倉庫 |
| ⑭ 中庭 | ④⑲ ガallery 控室 |
| ⑮ 講堂 | ④⑳ ガallery |
| ⑯ ステージ | ④㉑ アトリウム上部 |
| ⑰ 講座室 | ④㉒ レストラン事務室 |
| ⑱ 講堂ロビー | ④㉓ 厨房 |
| ⑲ 屋外展示スペース | ④㉔ レストラン |
| ⑳ 事務室 | ④㉕ 吹抜 |
| ㉑ 乳児室 | ④㉖ テラス |
| ㉒ ロッカー室 | ④㉗ ドライエリア |
| ㉓ 応接室 | ④㉘ 電気室 |
| ㉔ 館長室 | ④㉙ 熱源機械室 |
| ㉕ 会議室 | ④㉚ 空調機械室 |



新潟県立万代島美術館

【施設概要】

〈機能別延床面積〉

	内訳	用途等	面積
展示 1,400㎡	第一展示室	美術館所蔵の美術品等の展示	420㎡
	第二展示室	国内外の美術品等の企画展示	980㎡
収蔵 134㎡	収蔵庫	美術品等の保管	106㎡
	収蔵庫前室	収蔵庫の温湿度を安定させる	28㎡
専用エレベーター	29㎡	地下1階より美術品を搬入	29㎡
管理 559㎡	事務室	学芸員、一般事務の執務室	63㎡
	資材倉庫	文書・書籍カタログの収納	33㎡
	準備室	展示作業用の作品移動ケース置場等	95㎡
	荷解室	美術品の開梱・点検場所	93㎡
	救護室	来館者の救護、職員の休憩等	22㎡
	給湯室	給水、湯沸かし等	3㎡
	トイレ	職員・来館者用	84㎡
	空調機械室	美術館専用の空調機械設置	120㎡
共通 649㎡	ポンペ庫	ハロン消火設備用ポンペ(予)	46㎡
	ロビー	来館者の導入、休憩及びインフォメーション等	271㎡
	廊下等	来館者の通路、避難経路など	359㎡
	乳児室	乳児のために使用	6㎡
その他 159㎡	ロッカー・ルーム	来館者の利便のために手荷物を保管	13㎡
	専用エレベーター(B1F)	美術品の搬入用	25㎡
	専用エレベーター機械室	専用エレベーター用の機械設置	14㎡
専用荷捌スペース	美術品の荷捌スペース	120㎡	
合計			2,930㎡

〈建築概要〉

1. 全体概要

種別／複合ビル内包型 公立美術館
所在地／新潟県新潟市万代島5番1号
工事期間／平成12年10月3日～平成15年3月30日
敷地面積／103,128.93㎡ (万代島一団地認定敷地全体)
建築面積／6,017.37㎡
延床面積／52,585.54㎡ (うち、美術館2,930.00㎡)
構造種別／鉄骨鉄筋コンクリート造
階高／美術館フロア6.3m

2. 建築主体

設計／鹿島建設株式会社一級建築士事務所
監理／鹿島建設株式会社一級建築士事務所
施工／鹿島・大成・福田・五洋・本間・東亜共同企業体

3. 仕上げ (美術館部分のみ)

屋根／鉄筋コンクリート下地断熱アスファルト防水押え、コンクリート鋼製根太組天然スレート敷
外壁／プレキャストコンクリート下地アルミスバンドル張り、アルミカーテンウォールふっ素樹脂焼付塗装、プレキャストコンクリートカーテンウォールふっ素樹脂常乾塗装
内装／ (設備概要を参照のこと)

4. 電気設備

電力引込／3相3線6.6Kv50Hz、
2回線受電、地中引込
受変電／1階サブ変電所、キュービクル式受変電設備
非常用電源／発電機1台、ディーゼル1000KVA、
蓄電池400AH
電話設備／電話配管 (機器、配線は別)
放送設備／非常放送兼用アンプ1160W、130回線、
美術館業務用アンプ80W、5回線

5. 空調設備

熱源／全体熱源：冷温水発生器 (ガス焚)
240RT×2台
収蔵庫：空冷ヒートポンプ
空調機／コンパクトエアハン7台
単一ダクト
換気／個別換気
給気ファン1台、排気ファン15台
制御機構／24時間中央温湿度管理システム

6. 昇降機

乗用／ロープ式 210m/分 定員20名1,350kg
4基 (うち、車椅子仕様1基)
荷物用／油圧式
15m/分 3,000kg 1基
テーブルリフター／
リフト 0.9m
テーブル 2.0m×2.0m 3,000kg

〈設備概要〉

1. 展示室概要

壁仕上／不燃プラスターボード、ガラスクロス表面仕上げ
床仕上／フローリング (ダグラスファー)
可動壁／不燃プラスターボード、ガラスクロス表面仕上げ。
L4.0m×H4.5m:30枚、L2.0m×H4.5m:26枚、L2.4m×H4.5m:4枚
固定展示ケース／2箇所
(外側) スチール製・高透過ガラススチール製・アクリル焼付塗装、高透過ガラス・重量キャスター・アジャスター付、シリンダー錠付
(内側) 低ホルマリン合板、クロス張り、エアタイト、寸法D18.0m、W1.2m、H4.5m
照明／全て美術館用UV/IRカットフィルター付
ベース照明：ハロゲンウォールウォッシャー 200W
展示照明：ローボルトハロゲン (12V50W)
ケース内照明：高効率照明器具 (32W) 及びローボルトハロゲン (12V50W)
設定温湿度／春・夏期：23℃、60%、
秋・冬期：20℃、50%
(変動率±3℃、±10%以内)

2. 収蔵庫概要

床 仕 上 / フローリング
 壁 仕 上 / ゼオライトパネル (天井共)
 内部寸法 / L11.5m、W7.5m、天井H3.5m
 入口寸法 / H3.0m、W3.0m
 収蔵庫内作品固定方法 / 収蔵棚
 収蔵庫扉の構造及び仕様 / スチール製
 耐火2時間扉
 照 明 / 高効率照明器具 (32W)
 美術館用UV/IRカットフィルター付
 空 調 / 恒温恒湿パッケージ2台 単一ダクト (VAV)
 設定温湿度 / 春・夏期: 20℃、60%
 秋・冬期: 20℃、60%
 (変動率±2℃、±5%以内)

3. 搬入口関連概要

専用搬入口寸法 / H3.8m、W5.0m
 高位置の接岸ドック / 地上からの高さ0.7m
 可動接岸ドック / 0~0.9mレベルまで
 油圧式リフト / 最大重量3,000kg
 クレーン / 最大重量3,000kg
 搬入可能なクレーンの最大サイズ /
 H3.0m、W3.0m、D3.0m
 セキュリティ / 画像センサー機械警備
 荷解室への立入管理 / カードリーダー方式電気錠

昇降機内部寸法 / L3.6m、W3.0m、
 天井H3.0m

4. 防災設備

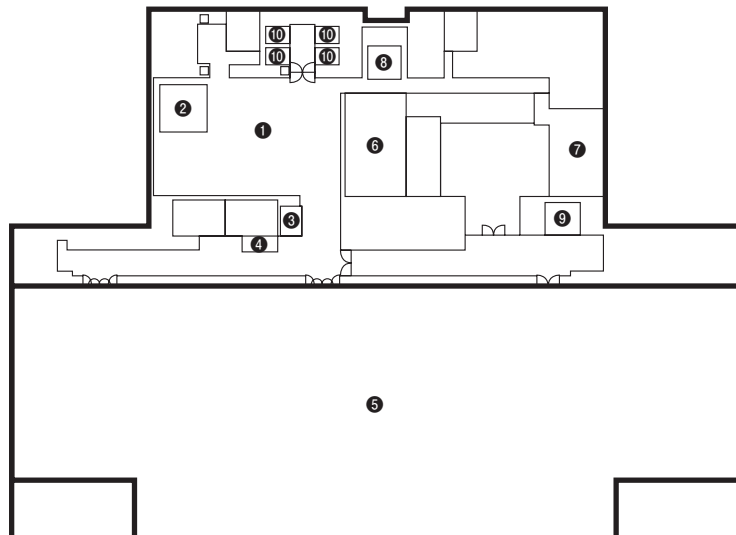
消火設備 / 湿式スプリンクラー
 展示室、準備室、荷解室及び収蔵庫はハロン消火
 感知器の種類 / 自動煙感知
 火災警報への伝達 / 発信機、非常電話
 補助消火栓 / 搬入場所1基、その他4基
 連結送水管 / その他2基
 消 化 器 / 搬入場所: 粉末ABC
 展示室: ハロンガス
 その他: 粉末ABC及びハロンガス

5. 防犯設備

監視設備 / ITVモニター、ITVカメラ15台
 (美術館14台、EV1台)
 機械警備設備 / 画像センサー+スピーカ
 警備会社 / SECOM株式会社
 使用警報機の種類 / 画像センサー及び
 水銀スイッチ
 警報入電場所 / 館内中央監視盤及び
 美術館事務室
 盗難防止ケースの種類 /
 ガラス・ケース及び壁面固定ケース全てにシ
 リンダー錠付

【施設の配置】

- ① エントランスホール
- ② ミュージアムショップ
- ③ 情報検索コーナー
- ④ 乳児室
- ⑤ 展示室
- ⑥ 収蔵庫
- ⑦ 事務室
- ⑧ ロッカー・自販機
- ⑨ 作品専用エレベーター
- ⑩ エレベーター



新潟県立近代美術館協議会

【委員】(依頼当時)

(平成24年8月1日から平成26年7月31日まで)

●学識経験者

◎近藤フヂエ (新潟大学名誉教授)

○金子 賢治

(茨城県陶芸美術館長/多治見市美濃焼ミュージアム館長)

松本 健義 (上越教育大学大学院学校教育研究科教授)

猪爪 彦一 (新潟県美術家連盟洋画部代表理事/行動美術協会会員)

西條和佳子

(特定非営利活動法人ワーキングウイメンズアソシエーション常任理事)

●社会教育関係者

丸田 洋一 (柏崎市文化会館アルフォーレ館長)

●学校教育関係者

柴野ひさ子 (新潟県美術教育連盟理事/中越美術教育研究会副会長)

風巻 洋 (新潟県美術教育連盟副会長/下越美術教育研究会副会長)

●一般公募

上原みゆき (食文化研究者)

上松 和義 (新潟大学工学部技術専門員)

※◎は会長、○は副会長

【日程及び内容】

第1回新潟県立近代美術館協議会

日程：平成25年5月11日(土) 午後1時～3時

会場：新潟県立万代島美術館

内容：(1) 平成24年度「美術館の自己評価に対する委員評価」の作成について

(2) 平成25年度事業について

第2回新潟県立近代美術館協議会

日程：平成25年10月13日(日) 午後1時30分～3時30分

会場：新潟県立近代美術館

内容：(1) 平成24年度「美術館の自己評価に対する委員評価」の報告および承認

(2) 平成25年度「事業目標・取組に対する達成状況」の中間報告

第3回新潟県立近代美術館協議会

日程：平成26年2月22日(土) 午後1時30分～3時30分

会場：新潟県立万代島美術館

内容：(1) 平成25年度活動報告(平成26年1月分まで)

(2) 平成25年度事業の評価分担について

(3) 平成26年度評価シート作成に向けての意見交換

【自己評価に対する委員評価】

平成25年10月

はじめに

美術館の評価が始まって5年になりますが、協議会委員として気になることは、協議会の意見や自己点検の作業がどのように業務改善に反映されているかです。評価報告書の作成や協議会での意見交換を通じ、改善が的確に図られていることを見るのは嬉しいことです。協議会委員は、目標の設定や活動について意見を述べることによって、評価報告書作りの作業が実質的なものになるよう努めています。また、評価報告書を客観的なものにし、県民に対して美術館の活動の成果を公開し理解を深めることを心がけています。

美術館関係者は、目標の達成と成果を明確に示すことによって、職員の改善に向けた努力を対外的に明らかにする絶好の機会であると意識する必要があります。

これまでの評価報告では、入館者数や事業数、事業内容などについて、どちらかというと客観性が乏しく、数値的な妥当性が問われるケースがありました。今後は、数値的な目標の観点を取り入れていくことが必要です。実態調査のためのデータ収集とそれらの分析を行うための準備を整えるには、専門家の力を借りなければなりません。

そのような意味で、公立の美術館活動は伝統的な運営方法に従っていればそれほど大きな問題はなかったように思います。しかしながら、この数十年間のアートの変化、すなわち伝統的なジャンルの枠(文芸や音楽との区別等)を越え、あらゆる活動を包括して行く傾向や、情報環境の変化が美術館の活動に大きな影響を与えてきました。地域社会の変化に対しても、美術館自体が大きな役割を果たすことが求められてきました。そのような変化に対して、美術館のあり方に特定のモデルはなく、近代美術館も新潟という地域の実状に応じて、芸術以外の知恵を借りながら取組を進めているのが現状だと思います。

平成25年10月

新潟県立近代美術館協議会
会長 近藤 フヂエ

第1章 県立近代美術館の自己評価に対する総括的所見

1 平成24年度における美術館運営の全般について

評価対象は、展覧会、教育普及等関連事業、調査・研究・収集・保存・発信、環境・施設、協働組織の5分野とし、各分野で重点的な事業目標を設定して、具体的な取組とその達成状況を記載し、それぞれについて自己評価を与えるという形を取っている。基本的な取組は例年それほど大きな変化はないが、前年度の評価に基づき具体的かつ工夫次第で達成可能な目標を掲げて、継続的に実践していることが評価される。また、予算な

どの制約の中で行われるため、人目を引くような際立った成果を上げることは難しいが、地道で専門的にも熟考された年間の企画展とそれらに関する調査や研究を中核として、着実な運営体制が成り立っている。施設・環境の整備や作品資料の収集保存は、館の努力だけではどうにもならない面もあるが、館の管理運営について不可欠な視点であり、計画的に目標を掲げて検証していくことが必要である。

地域の小中学校へへの出前授業や地域の大学や友の会との連携を通じて、美術館の役割への理解を深め、さらに時代と地域とともにある美術館の姿を模索しているが、美術館の活動の中では従来の展覧会重点主義から脱しきれていないようである。これらの活動についても、近代美術館と万代島美術館両館に独自の工夫が実を結ぶことが望ましい。

2 目標設定のあり方について

新潟県固有の文化の価値の見直しや多様な美術館活動の開発により、創造力ある人材の育成を美術館の社会的使命とし、そのための6つの目標と、それぞれに重点的な目標を掲げている。抽象的な理念を実現する為には小さな努力を積み重ねて、あるいは方針を改めることで、より親しみやすい企画展示方法や連携模索を目指すことは、より実効性がある目標設定となっている。

3 目標に対する達成状況について

個別的には達成されていない事項もあるが、例えば万代島美術館の「地域との連携」はすべての美術館が同じような条件下で運営されているわけではないし、地域の特殊性もあるかもしれない。取組を改善するよりも別な取組を考えることが必要ではないか。企画展への住民の参加の形が成功しているのであれば、継続的な取組を行い、館独自の連携をノウハウとして蓄積されていくような工夫が期待される。

第2章 分野別に見た自己評価に対する委員評価

1 展覧会に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

展覧会の全体構成は、一般的に興味の対象が幅広いもの、まだまだ認知度は低いが非常に高質な美術を紹介するもの、そして地道な調査研究をベースに、戦後の地元での美術制作活動を跡付けるもの。これらが多彩に配分されて、幅広い層の関心と呼ぶように開催された。学芸活動は調査研究と展覧会開催が車の両輪のように連動して回転していかなくてはならないが、象徴派研究、地元の現代美術活動のフィールドワークなど、その連動がうまく作用しているのは、何よりも研究活動の質の高さを示している。

しかしながら、せっかくの展覧会がより多くの来館者数に結びつかないのでは何とももったいない話である。象徴派展

も然り、「GUN」展も入館者目標を上回ったとはいえ、より高い水準が求められる。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

幅広い層の関心と呼べるもの、古典的な優れた美術の紹介、また戦後の現代美術の特徴的な動向、ないし新世代の新しい制作活動。これらがバランスよく配分され、広く関心と呼ぶように取り組んだことは評価される。特に、「ジパング」展は若者の関心をよく捉え、引き出したことは大きく評価される。

入館者が少なかったとはいえ、象徴派展は大変意義深い展覧会で、開催自体を高く評価したい。こういうものをまさに「妥当」な「取組」というべきである。ただ象徴派の優れた作品を多数保持しているながら、それを普段のリピーター、サポーター形成にうまく利用していないのがもったいない。例えば地元教育関係、流通関係などが独自に持っている広報ネットワークとのリンク、フェイスブックなどを通じた魅力の発信に期待したい。

(3) 自己評価に対する総括

おおむね適切である。ただ「企画者の異動」は内部の問題であり、それを理由にする評価は克服すべきである。広報活動については、大きく網を放って取り込むのと、関心の持ち方、嗜好性の違いに即して個別に仕掛けるという、いわば広報のダイナミズムを持った方がよい。アンケートの実施もなんとなく機械的な印象を免れないのも、同じダイナミズムの問題であろう。

2 教育普及等関連事業に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

○県立近代美術館

重点的事業目標である「児童生徒の『見る力』を育てる」は、中越地区の小中学校の児童生徒と教職員を中心とした団体来館者に対して、20回の対話型を取り入れた鑑賞教室を実施している。来館学校の約28%に対し、また、団体来館児童生徒の21%にあたる782人の参加者を得ている。以上のことから、目標は達成されている。

また、重点目標「鑑賞教育を充実させる」は、地域団体・機関や学校等と連携した21回の出前講座を実施し、うち18回に対話型を取り入れた鑑賞活動を行っている。参加者総数は1,396人に達している。主に小学校を中心に、幼稚園、子育て広場、児童館、中学校で実施しており、目標は達成されている。

○県立万代島美術館

重点的な事業目標「展覧会に関連した学習に拡がりを持たせる」では、展示内容、作品理解が深められるよう展示構成と解説パネルが工夫され、展覧会内容に応じた学芸員の鑑賞講座を5回実施し、展覧会への関心を高め理解の助

けとなっている。また、「感想ボード」により、来館者の反応を知る新たな手法も試みられ、参加者も多く効果を発揮している。

事業目標「各展覧会内容に合わせ多彩な事業を実施する」では、展覧会実行委員会構成団体と協力したアナウンサーと学芸員とのトーク、出品作家と画廊主とのトーク、サイン会、合唱、コンサート、写真展等を実施し、それにより来館者も増加し好評である。

事業目標「館外の人材を活用したイベントの実施」では、外部講師によるモール手芸教室、テレビ局アナウンサーと協同した読み聞かせ会と解説会を実施している。

以上のことから、目標は達成されている。

(2) 今年度活動の取り組み内容の妥当性とその効果について

○県立近代美術館

学校関係の来館団体に対する美術館での対話型を取り入れた鑑賞活動は、「児童生徒の作品の見方が変わった」と教職員からの感想が多く寄せられており、充実した効果を生み出している。収蔵作品を見ながら対話する鑑賞活動の多様な工夫が、「見る楽しみ」「見る力」を児童生徒の発達段階に応じて若年から育てることが可能となり、学校と連携した教育普及の取り組みとして大変有意義である。

また、地域の団体、機関、学校等と連携した鑑賞活動の出前講座は要望が高く、対話型の方法も支持されてきている。双方向性を意識した対話型鑑賞は鑑賞の楽しさを伝え、美術館のあるべき姿を探る先進的取組として評価できるものである。

中越地区での活動の充実と近隣学校との連携が、全県へと拡充するよう今後の取組が期待される。また、学校を中心とした現在の事業の取り組みが広がり、一般来館団体に対しても対話型による鑑賞活動が実施されるようになること、出前講座においては、地域の幅広い団体や機関に対しても希望に応じて実施されるようになることが期待される。

○県立万代島美術館

5回の美術鑑賞講座は、展覧会作品に親しみ、作品を鑑賞する上での助けとなっている。感想ボードは、来場者の考えと展覧会の状況把握に有効な手段であり、こうした工夫の開発が今後も期待される。

一方、アンケート調査については、回収率や回収方法をあらかじめ定めて、展覧会の状況と課題把握のみを目的として行うなど、位置づけの明確化も必要である。

展覧会のキャプションや解説は、作品をめぐる社会的、文化的、歴史的状況、及び、作家の制作に向ける姿勢とその変化等を知り、来館者が作品と対話するうえで重要なものである。美術館にとっては、展覧会企画そのものの実施目的を反映するものでもある。来館者に対して、また、作品や作家の表現活動に対して、真摯で濃やかな展示を期待

する。

各展覧会実行委員会との連携・協働は、美術と他の事業等のコラボレーションとなって事業の厚みや広がりを実現とし、総合的な芸術的関心を深め、来場者増につながっている。今後も協力者を発掘し、企画展に関わる工夫を凝らした多彩な事業を期待する。

(3) 自己評価に対する総括

○県立近代美術館

平成24年度は、対話型による鑑賞活動を取り入れることを教育普及活動の核とし、小中学校を中心とした団体来館者への教育普及と、地域機関・団体、学校への出前講座による教育普及の二つにより展開している。その結果、中越地区を中心に十分な成果をあげている。過去3年間で、ここまでの成果と実施体制の整備に至ったことは大きく評価される。

○県立万代島美術館

平成22年度以降の取り組みは、大都市やコンベンションセンターを地理的特質としたものであった。そうした取組は成果をあげている。

一方、周辺に中越地区以上に多くの学校を抱える新潟市では、学校教育との連携や貢献を事業として中期的に取り組むことが緊急の課題である。新潟県立近代美術館収蔵品展の企画、授業と連携した美術館での対話型鑑賞の実施等が期待される。過去3年間に実績を挙げてきた新潟県立近代美術館学芸員との館を超えた連携と協力により教育普及を支える地域のネットワークづくりの実現が課題である。

3 調査・研究、収集・保存、発信に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

地元作家の制作活動を中心に大変大きな成果を上げたことを大きく評価したい。「GUN」展のためのフィールドワークでは、新潟での現代美術活動の意義が詳しく調べられ、その特徴が明らかにされた。堺時雄資料の整理は完了し、乾板などの保存という進むべき次の段階が見えてきた。亀倉雄策資料の整理も半ばを終え、これも生誕100年に向けての展望が開けてきた。

展覧会図録、鑑賞講座、研究紀要、学会などでの研究発表がコンスタントに進展していることを評価したい。

また修復、ホームページ改善も少しずつ進んでいる。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

地元作家、美術制作活動の調査研究が大きな成果を上げた。これは展覧会開催を経て資料整理に結びついたもの、地道なフィールドワークから展覧会開催に結びついたものなど、いろいろだが、いずれも地元を対象とする美術館の特色がいかに発揮されたもので、地域間のモデルケースになる意義深い活動である。

(3) 自己評価に対する総括

自己評価は詳細に展開され、問題点も的確に出され、極めて妥当である。

4 環境・設備に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

○近代美術館

施設の維持管理は美術館にとって基盤となる業務であり、計画的に予算獲得に努力していることは評価できる。しかし、大きな予算を伴う事業だけに、美術館の努力だけでは達成できない面もあり、苦しいところであろう。各方面へ働きかけ、一定の水準を維持していただきたい。

○県立万代島美術館

屋上部分の材料の劣化について応急的に対応できたことは評価できる。施設や設備については、単年度で見れば大きな金額ではあるが、長いスパンで考えて、根本的に改善されるよう、ぜひ取り組んでいただきたい。

(2) 今年度活動の取り組み内容の妥当性とその効果について

いずれの館においても、環境・施設の整備に注視しており評価できる。信頼性のある空調設備は作品の保存・管理に大きな安心感を与えるとともに、今後の展覧会の開催も進めやすくなるであろう。また、万代島美術館の石材飛散防止対策は、来館者及び周囲の人々への危険性を認識した対応であり、妥当である。

(3) 自己評価に対する総括

客観的な視点から自己評価されており、妥当である。

5 協働組織に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

○近代美術館

「長岡造形大学、長岡市との協働事業に取り組む」において、前年度までの連携強化の取り組みが功を奏して積極的な協働が実施されたこと、「万代島美術館、新潟市美術館との連携」という新たな取組を実施したことは評価したい。

今後は長岡市に限らず、県内各地の自治体やより小規模な美術館とも協働を図り、“新潟県の芸術文化の発信の場”として、小さくとも着実な協働を重ねることで県民の公益向上に繋げてもらいたい。

その一方で、協働相手の選択力と指揮力に多少の不足が感じられること、「アートボランティアの体制を再構築する」と掲げて一年を経過したにも関わらず、組織の在り方や実態が県民に明示されていないなど、改善を要する点があるのは残念である。

○県立万代島美術館

「サポートメンバーの活動を軌道に乗せる」を目標に掲

げ、メンバーが増員したことは地域の人々との協働の進捗を示して好ましい。さらに充実発展を期するために、参加者が安心して継続的に活動ができるよう、組織の在り方や運営方法が外部(県民)から見える仕組みを作ってもらいたい。また、メンバーと美術館との公平で温かな関係づくりをはじめ、参加者の満足度向上を心がけていただきたい。

「近隣施設と連携・協働する」については、自ら近隣小中学校に出向いて働きかけたことは評価するが、県立の施設であることを考えると近隣の学校だけというのでは物足りない。企画・結果分析書によると「学校団体が教育活動の一環として利用した」ケースが一定数あることから、「教育活動に役立つ」ことを明確に示し、新潟県や新潟市の教育委員会など学校の統括組織に対して積極的な働きかけを行ってはどうか。

また、一年を通して多彩な展覧会を開催するということは、その数だけ「協働の理由」を見出すことができ、協働を通して何を実現したいかという「目的」を持つことが可能である。目的を明確に持ち、新たな協働先を開拓してもらいたい。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

○県立近代美術館

「長岡造形大学、長岡市との協働事業に取り組む」という取組は、これまでの協働の流れをさらに促進するという点で妥当性があり、成果が地域住民をはじめとする県民の“目に見える形”で表れたという点で効果が高いものであったと思う。

また、「万代島美術館、新潟市美術館との連携」は、県内に所在する他美術館との連携の端緒として、また、より多くの県民が優れた美術に触れる機会を創出するという点で妥当性があったと考える。また、初めての取組ゆえ不備が多少あったようだが、反省点を含め、次に生かすための材料を手に入れるという点で効果があったと思われる。

その一方で「アートボランティアの体制を再構築する」については、友の会も含めた周辺の関係者整備を考えるなかで必要な取組であったと思われるが、具体的な効果が“県民に見える形”で表れていないことが問題である。

○県立万代島美術館

「サポートメンバーの活動を軌道に乗せる」は、県民に美術館を身近な存在として認識してもらうためにも妥当であり、人数増加という具体的な効果もある取組であったと考える。また、「近隣施設と連携・協働する」も、取組自体は妥当なものであったと思うが、具体的な効果が近隣地域に留まっている点が残念である。

(3) 自己評価に対する総括

自己評価については「出来たこと」と「さらに改善が必要なこと」が示されており、おおむね妥当と考える。

ただし、万代島美術館については「協働」がまだ端緒に付いたばかりのようで、「近隣施設と連携・協働」の具体的な取組が近隣小中学校に対する訪問やチラシの配布、ワークシートの提供など、「協働」というより「教育支援」と表現した方が適切に思われる内容であったことに違和感がある。

この点については、むしろ、広報手段の一環として地元写真クラブに「英国水彩画展」に関する協力を仰いだ行動の方が協働に近いように思われる。

何をもって協働とするのか、近代美術館と万代島美術館の双方で統一された基準や解釈が必要と思われる。

第3章 平成26年度県立近代美術館運営への提言

近藤 フチエ 会長

知人宅や学校に届けられる展覧会のポスターについて、制作者は機械的にポスターやDMを作る傾向があり、印刷枚数、配布場所、ポスターのデザインがどの程度集客に効果があるかの検証は難しい。万代島美術館が行ったポスターのデザインの変更は、確かにインパクトがあったが、これも限定的ではないだろうか。個人的にはポスターで情報を得ることはまれで、新聞、TV、ホームページに頼ることが圧倒的に多い。費用対効果の点から、広報活動の中心をホームページに移すのが世界の潮流のように思われる。とりわけ活字情報に縁のない若者や遠隔地からの訪問者には、ホームページの情報は不可欠になっている。ITを駆使して情報を発信できる人材の配置が望まれる。

美術館業務の中心は企画展の運営であるが、展示の鑑賞会やその他の作品解説、ワークショップや移動美術館など、学芸員の専門的な力が問われる業務である。個々の学芸員がすべての分野に精通しているわけではないので、学芸員の個人的、共同的研究の体制なくして、日常的な活動に成果を上げることはできないだろう。

年間の日常業務の他に、特色ある活動を育てていく体制づくりも、これからの美術館運営には欠かせない視点である。学芸員個人の提案や協議に基づき、新潟県立近代美術館の個性的な活動を育むことで、県内外の人々へのより大きな関心を集めることができ、美術館自体が時代とともに育っていく存在となることができると考える。

金子 賢治 副会長

最近、近代陶芸の巨匠の作品が突然出現し、持ち主の「公的機関へ」というありがたい意向を受けてなんとか個人に買ってもらう寄託を受けるということがあった。価格で言うところ完全にバブル以前に戻っているのだが、いかにせん、美術館の方も同じようにバブル以前に戻ってしまっている。というよりこの財政的悪化状況はそれより悪いかも知れない。いずれにしても、とてもそういう値段で購入し得る状況にない。

しかし、財政状況は何ともしがたいもので、いくら予算的な

要求をしても始まらない。一つの自治体で美術館だけが浮上することなどあり得ない。言い換えると、入場料収入に僅かのグッズ収入などというものしかない美術館財政という、旧来の頭の中身をすっかり入れ替える必要があるだろう。ことに即して個別に外部資金を探すという努力を定期的なものにしていけないと、身動きが出来なくなってくるのではないかと。

企業との付き合い方で効果的なのは、美術館を社員の研修の場にするのである。例えば、工芸品は質感、厚さ、重さなど美術にはない触感が大きく作用する分野である。視覚と触感が一体となって理解が進む。それを研修の機会として提供する。「タッチ・アンド・トーク」である。それを推進して企業からも援助をしていただく。茨城では一社だが実際に行われている。

広報活動を強化して、一つの企画展に必ず一回は来館する「サポーター」と呼ばれるような入館者の基本層を作り出すことが重要である。ポスターやチラシ、あるいは大新聞、テレビなど、大きく網を掛けるのと、流通業の機関誌（これはお得意様用と社員用がある）などに定期的に記事を掲載し、特殊なファンを作り出す作業である。例えば、大きなデパートのお得意様向け情報誌に文化的なページを無料で提供し、代わりに展覧会情報を掲載してもらおうといったことが考えられる。

もう一つは有名人利用である。もちろん誰でもいいというわけではなく、真剣に美術、工芸文化に関わりたいと思っている人たちを対象とするが、その典型が中田英寿である。日本の伝統文化、工芸、芸能、食など、今幅広い分野で様々な日本文化を体験中である。そうした人に共に展覧会などを語ってもらうと、数倍速く進んでいこう。

松本 健義 委員

新潟県立近代美術館では、過去3年間に対話型を取り入れた鑑賞活動を核として、主に中越地区学校の来館団体や出前講座による授業、教員研修などの教育普及事業を実施してきた。

今後、以下のような課題がある。①中越地区での活動の充実が、新潟市をはじめ、上越、下越、佐渡等においても同様の展開がみられるようになること。②幼稚園、小学校、中学校を中心とした主に学校を対象とした事業展開が、一般来館団体に対しても実施されること。出前講座等においても一般機関や団体に対して拡充し、世代の幅が広がること。③上越、下越、佐渡等の遠隔地域においても所蔵品に親しんでもらうために鑑賞機会を拡充し、質をさらに向上すること。また、同館の所蔵品を核として、県内の美術館、博物館の作品も含んだ映像資料やアートカード等の学習活動教材を、学校教員や大学教員と連携して開発し、学校の授業や出前講座等で用いられるようになること。④作品を「見る楽しみ」「見る力」が向上していく喜びのある鑑賞経験が生まれるよう、作品を媒介とした他者との多様な対話の活動形式について、教材や道具の開発と合わせ研究開発を進めること。⑤対話を通して作品を見ることは、見る活動に語る活動を取り入れることで見える世界を拡張させていくことである。同様に見る活動や見える世界は、つくる活動を通

しても密接に変化していく。制作型のワークショップと対話型による鑑賞活動の組み合わせや相互関係についても、学校の授業と連動した開発を行うこと。⑥今後のこうした取組については、外部資金の獲得等も検討すること。

新潟県立万代島美術館においては、多くの若者が居住する大都市を背景とした地理的特質を第一の特質として、教育普及活動を平成22年度から展開してきている。新潟市は、多数の学校、機関、団体がある地域でもある。まず、新潟市及び近隣市町村の学校での企画展や所蔵品展による対話型を取り入れた鑑賞活動の普及と推進が、緊急に取り組むべき重要課題である。しかしながら、新潟県立万代島美術館は学校との互恵的関係をつくり実現していく教育普及活動担当の学芸員の数や専門性が現在不足した状態にあり、今後以下のような体制の充実が期待される。①新潟県立近代美術館で得た知見と方法を持つ学芸員の一部を新潟県立万代島美術館に配置する。②美術館から学校へ異動した元学芸員との連携を教育委員会等の協力によりつくり、学校とのネットワークの拠点を形成する。③新潟市や近隣市町村の教育委員会に働きかけ、授業や学校行事での美術館利用の機会を拡充する。④大学や専門学校の授業、実習、研究等と連動した互恵的運営体制を構築する。⑤近隣の美術館、博物館等と対話型を取り入れた鑑賞活動の内容及び方法においてその連携を図る。

以上の取組を通して、世代的差異、地理的差異、制度的差異を克服していく教育普及活動の試みが展開することを期待する。こうした試みが県内の教育機関や団体に普及することで、県立美術館の存在意義は、より県民に身近なものになるといえる。

猪爪 彦一 委員

資料にもある、美術館の「社会的使命」と「目標」について見直してみると、どれも大切な事ばかりなのだけれど、まず建物に足を運んでもらわなければどうしようもない、ということに気づかされる。ちょっと時間ができて、さて何をしようかと迷ったときに、とりあえず美術館にでも行ってみようか、というくらいに地域の人々に親んでもらうためにはどうしたら良いのだろうか？難しい課題だと思うが、まず友の会の会員からもっと積極的に美術館の運営にかかわってもらってもよいと思う。入会の条件と特典をもっと良くし、活動内容を充実させることにより、より多くの会員数と活気が出てくるのではないかなと思う。経費は増えるかもしれないけれど、専門家にはない発想が生まれて斬新な企画もできるのではないかな。また、美術館側も入場者数の心配をせず、レベルの高い企画や、より個性的な作家の紹介ができるようになると思う。他の地域には無い、新潟独自の価値観を発信できるような美術館になればと思う。

西條 和佳子 委員

昨年夏に協議会委員の任に就いてから一年を通して両美術館を鑑賞し、企画展、常設展ともに良質なものが多いことを知り、県民として幸せを感じている。その一方で、美術館の施設

全体としての居心地の良さや来館者に対する「おもてなし」が不足していると感じ、残念に思っている。なぜなら美術館というのは、単に「美術作品を観る場所」ではなく、美術を核に心の豊かさや生活の潤いといった目には見えないものを提供する場であり、それによって「満足だった」、「また来たい」という人が増えていくのが理想ではないかと思うからである。

その視点で述べると、近代美術館は常設展示室も含め、展示室が複数ある分だけ見応えがあるが、健康な壮年であっても全館を観ると相当に足がくたびれる。そのため、幼年者や高齢者が歩き通すにはいささか広すぎると思われるが、入館時にはその広さが実感としてはイメージできない。その結果、入口付近に用意されているベビーカーや車椅子の必要性を感じた時には既にその場所から遠く離れ、観覧を続けたくとも疲労から断念するというケースがかなりありそうである（実際に我が家の高齢者は断念せざるを得なかった）。

また、疲れた足を休めるとともに、心地よい余韻に浸りたいと思い、喫茶ルームに何度か入店したが、率直に言って接客、雰囲気ともにあまり宜しくない。おそらく喫茶ルームの運営は美術館本体と切り離された業者委託であると推測するが、来館者から見たら喫茶やミュージアムショップも含めた全館が美術館であり、その一つひとつが来館者の満足度を左右する。

美術館の来館者を増やすため企画や広報の努力をするのと同様に、来館者が安心して楽に過ごすことができ、「また来たい」と思えるような施設づくり、おもてなしづくりに力を入れていただきたい。

丸田 洋一 委員

単年度予算で運営する直営の県立美術館としては5年、10年先について考える事は難しい事も知れない。しかし、今年「近代美術館」が20周年を迎えるにあたり5年後の25周年、10年後の30周年にどんな美術館になっていたいかを組織全体で語り合う事は無駄ではないと思う。オープン当初の理想やこんな美術館にしたいという夢などを共有し、アート力を信じる事によって美術館の将来が見えてくるのではないだろうか。

柴野 ひさ子 委員

県立近代美術館協議会委員として、美術館の運営について知る貴重な機会をいただき有り難く思っている。会議を重ねるたびに二つの美術館の素晴らしさを知り、もっと多くの人が来館し、美術館を身近に感じ楽しんでもらいたい、そして、美術館が「まち」を元気にする憩いの場・集う場、学ぶ場、つながる場になって欲しい、という願いを持った。平成24年度は二つの美術館ともに様々な教育普及等関連事業の工夫がなされ、それぞれの地域ならではの大学・小中高等学校・市民団体との連携で美術館における新たな価値づけがなされていることが窺われる。

しかし、期待以上の来場者数の伸びは見られない。「敷居が高い」「崇高で閉鎖的」「美術は一部の人の楽しみ」というイ

メッセージが払拭されていないのではないか。

そこで、子どもたちとともに伸びる美術館を提言したい。私は小学校で平成22年度から3年間、全校で図工美術教育の研究を進めてきた。研究実践を進める中で子どもたちは図工を大好きになっていった。それは美術館と連携させてもらったことも大きな要因であったと感謝している。学芸員の出前講座で本物に触れることにより、鑑賞の楽しさやつくることへの興味関心、感じる心の大切さについて知ることができた。特に美術館への興味は、個人差もあるが、低学年からの積み重ねで4年生頃が効果的であることも分かった。

また、双方向性を意識した対話型鑑賞も効果的だった。今後も小学校との連携を一層図り、出前講座や対話型の鑑賞教室でみる楽しさを伝える取組を推進することが肝要であると思う。鑑賞作品のクイズやカード、そこから発展させた創作活動など多様な工夫を持たせることで、鑑賞の楽しさを発達段階に応じて若年から養うことが可能になると思われる。

学校で鑑賞の楽しさを学んだ子どもは、家に帰り親子や祖父母で来館し、大人を巻き込み二度鑑賞を楽しむことができる。子どもは一人では美術館に行くことはできない。子どもを中心に様々な年代層の人が美術館を探検し、楽しんで元気になることを期待している。

風巻 洋 委員

学校における図工・美術では、授業時間が縮減されている中で、鑑賞の分野がより重要視されてきている。学校の鑑賞活動として美術館での鑑賞は、本物の作品と触れ合える絶好の機会であり、空間である。ところが美術館では、企画展の観客動員数が財政的な指標とされており、美術館が独自に企画立案した展示がなかなか評価されない状況があるようだ。

このような状況の中、美術作品をどのように鑑賞していくべきかを根本的に考えていくと、常設展をどのように活用することができるかが重要な鍵となる。そのためには、子どもたちをはじめとする幅広い県民のための鑑賞プログラムを作成していくことが必要である。美術館は、作品鑑賞を通して生き方や在り方を考える機会を得ることのできる空間であり、複数回にわたって学び続けることのできるようなプログラムにしてほしいと思う。

また、美術館の地域での役割がどういふものかをあらためて考えてみるのが大切である。アメリカのある美術館では、教育の一環として美術館が機能しているところがあり、小学校から中学校までの教育の根幹として芸術（美術）があることを教えている。美術館の作品により歴史や地理を教えることをはじめ、生活やものの考え方など様々な領域の根底を知る機会となる場が美術館の役割の一つである。

次に、課題の一つとして美術館に若年層の人たちをどのようにしたら来館させることができるかということがある。その解決策の一つとしてインターネット上の情報がやはり大きな鍵となる。高校生をはじめとする若い世代では、1日の時間の中で

どれだけ携帯電話やスマートフォンに依存しているかを考えると、ホームページに展覧会の情報を充実させることは当然である。この他に、ネットからクーポン券を得るように、前売り券と同様なものを入手して、気軽に入館できるようにすることが必要なのではないだろうか。

多くの情報に埋もれて、ヴァーチャルの世界に依存しつつある中で、本物に触れる機会を多くつくっていくことが重要であろう。

上原 みゆき 委員

「象徴派—夢幻美の使徒たち」展に際しては、県内の図書館などでも広報が行われた。たとえば上越市立高田図書館では、カウンターのよく目立つところに、関連図書やユニークな「新聞」などが置かれ、多くの来館者が関心を示していた。私の所属する文学サークルでも、「象徴派」展のことが話題となり、恒例の秋の小旅行は近代美術館へ、ということになった。結果は好評であった。しかも、メンバーの大半が「もう一度よく見たい作品がある」等の理由で、あとから個々に再度近代美術館に出かける契機となった。

さらに、距離的には遠くとも心理的に近くなったということであろうか、その後も「通うことが習慣となった」メンバーもいる。ひとえに、図書館カウンターでの、図書を通じての広報がきっかけとなった成果であるといえる。

周辺の雰囲気も含めて、近代美術館・万代島美術館ともに、一度行けば必ずもう一度行きたくなる魅力がある。つまり、まずは距離のある所に住む人々にも、一度は来館してもらう必要がある。そのためのきっかけ作りをどうするか。このたびの図書館での広報には、多くのヒントがあると思っている。

上松 和義 委員

県立近代美術館、万代島美術館ともに地元作家調査のフィールドワークや小中学校との連携に努力されており、評価している。また、学芸員は調査・研究・執筆に積極的に取り組んでおり、心強い。しかし、美術館の使命や可能性も時代とともに少しずつ変わってきている面もあるのではないだろうか。そこで、いくつか提言をしたい。

- ①情報通信技術（ICT）の活用：おそらく、美術館を訪れる人の何割かはあらかじめ美術館のホームページを見ていると思われる。平成24年度は特にホームページの情報更新が速やかになされ大変良いことだが、さらに情報通信技術機器の活用もできれば、より幅広い年代の層にも関心を持ってもらえるのではないだろうか。登録者への展覧会・イベント情報の発信、スマートフォンを使った音声ガイドシステムの導入、美術講座でのタブレット端末の活用など、新しい可能性が生まれるだろう。
- ②大学との連携：長岡造形大学とは美術の専門校ということもあり、協力体制がとられていることは大変好ましいが、県内の他の大学との連携はできないのだろうか。各大学と

新潟県美術品収集委員会

個々に協定を結び、学生証提示で割引鑑賞（学生割引よりも安く）できるというのはどうか。美術館にとっては、これまで来館者に少なかった年代層を開拓できるメリットがあり、大学にとっては特徴の一つとして位置付けてもらえるだろう。

- ③大人向けの参加型イベント実施：通常の企画展では無理かもしれないが、話を聞くだけでなく体を動かして体験する鑑賞講座、ワークショップなど、参加者が自ら何か作品を作るようなイベントが実施できないだろうか。絵画、彫刻、版画などの初心者教室などもいいかもしれない。また、他の美術館で実施している、美術館の部屋と設備・道具を使ってもらう「アトリエ開放」のような、美術愛好家が集まれる企画があると楽しいのではないだろうか。

以上のことはすぐに実施できるというものではないが、美術館が市民に近づく方法として提案したい。

【委員】

- ◎宮田 亮平（東京藝術大学学長）
- 草薙奈津子（平塚市美術館長）
- 本江 邦夫（多摩美術大学教授）
- 前川 公秀（DIC川村記念美術館顧問）
- 柳原 正樹（京都国立近代美術館長、富山県水墨美術館長）
- 松本 透（東京国立近代美術館副館長）
- 郷 晃（新潟大学教授）
- ◎は委員長。

【日程及び内容】

平成25年度「新潟県美術品収集委員会

日程：平成26年2月2日(日)

内容：(1) 平成25年度美術品収集について

- ①収集候補の全体説明
 - ②収集候補の内覧
 - ③収集候補作品の協議
- (2) その他

新潟県立美術館友の会

新潟県立美術館友の会は、新潟県立近代美術館開館の翌年、平成6年4月8日に「新潟県立近代美術館友の会」として発足。平成15年、新潟県立万代島美術館の開館にともない2館共通の友の会組織となり、「新潟県立美術館友の会」と改称した。

広く美術を愛する人達を中心として、美術館の活動及び運営に協力するとともに、美術を通じて教養を豊かにし、会員相互の親睦を深め、芸術文化の普及、向上を図ることを目的として活動している。

また、本年度は、会員特権の見直し、運営方法等の改革を行い、新たな体制での友の会をスタートさせた。

【会費・会員の種類】

一般会員	一般	2,000円	414人
	後期	1,000円	5人
	学生	1,000円	14人
ファミリー会員		4,000円	91人
特別会員	個人	30,000円	0人
	法人		29人
計			553人

【会員の特典】

- ・会員証による近代美術館コレクション展、万代島美術館所蔵品の無料観覧
- ・近代美術館、万代島美術館の企画展を観覧できるモニター券の配布（モニター券1枚で一回観覧可）
- ・近代島美術館、万代島美術館の企画展の優待観覧（団体料金）
- ・企画展図録の割引
- ・近代美術館、万代島ビル内のレストランの割引
- ・友の会だより、美術館便り等の配布
- ・近代美術館、万代島美術館の企画展会場式への参加

【役員体制】

会 長 丸山 結香
 副会長 榎谷 一代、小林 新治、上松 和義、小栗 俊郎、
 澤秀 一郎、宮澤奈緒子、舛岡 武雄
 理 事 伊藤 英之、佐藤 明、丸岡 稔
 監 事 松永 芳文、桐山 晃
 代議員 阿部 貴子、阿部美恵子、石丸 雨虹、永島 賢司、
 大平 剛、尾崎 正、小幡 武代、恩田 里士、
 片野 トク、佐藤 丈二、近藤フジエ、斎藤 裕子、
 佐藤 節子、高野 豊昌、田中 弘邦、土屋 蔵三、
 永井 正二、羽賀 享、原 和彦、樋口 栄治、
 保坂 太、丸山 智、宮本 恵子、柳沢 一道、
 山梨玲江子、山本 正明
 顧 問 徳永 健一、豊口 協、平山 征夫
 事務局 吏科 昌江

【事業内容】

- ◇5月28日 代議員会
会場：近代美術館会議室
- ◇6月23日 ルーベンス解説会
会場：近代美術館会議室
平松学芸課長代理による解説会
- ◇7月15日 近代美術館開館20周年イベント
（近代美術館との協働・協賛）
- ◇8月18日 キンピでカラーレッスン
会場：近代美術館 講座室
講師：宮崎朋子
- ◇9月14日 記念講演会&交流会
講演会会場：近代美術館講堂
講師：豊口 協
- ◇10月1日～10月6日 第17回友の会文化祭・作品展
会場：近代美術館ギャラリー
- ◇11月1日～11月10日 友の会文化祭・作品展
（近代美術館の縮小版）
会場：万代島美術館ロビー
- ◇近代美術館20周年「HANAを咲かそう！」プロジェクトへの参加（近代美術館、アートボランティアとの協働）
※「近代美術館開館20周年記念事業の項を参照
- ◇友の会だよりの発行
- ◇ミュージアムグッズの販売
近代美術館、万代島美術館のミュージアムショップにてグッズを委託販売
- ◇各種情報提供、美術館だより等の送付

沿革

《新潟県立近代美術館》

昭和63年度予算で美術館建設調査費計上

昭和63年12月

「新潟県美術品収集基金条例」制定

平成元年10月

新潟県美術館建設基本構想を策定

平成2年3月

新潟県美術館建設基本計画を策定

平成2年3月

県立近代美術館建設の設計者選考方式を指名設計競技（コンペ）に決定

平成2年3月

指名設計競技の参加設計事務所5社を決定

平成2年7月

県立近代美術館建設指名設計競技審査会開催

(株)日本設計の作品が入選

平成2年8月

設計業務の委託を(株)日本設計と契約

平成3年2月

県立近代美術館建設の実施設計策定

平成3年5月

県立近代美術館建設工事入札

大成・吉原・小杉特定共同企業体等が落札

平成3年7月

県議会で建設工事の契約承認

平成3年7月

新潟県立近代美術館の建設着工

平成4年12月

県立近代美術館建設本体工事完了・引き渡し

平成5年3月

新潟県立近代美術館条例公布

平成5年4月

新潟県立近代美術館発足

平成5年7月

開館

《新潟県立近代美術館万代島美術館》

平成12年8月

新潟県新美術館基本構想を発表

平成13年2月

新潟県新美術館基本計画を策定

平成14年4月

新潟県新美術館開設準備室発足

平成15年8月

新美術館の名称を一般公募により「新潟県立万代島美術館」と決定

平成15年3月

朱鷺メッセ万代島ビル竣工

平成15年4月

新潟県立近代美術館万代島美術館発足

平成15年7月

開館

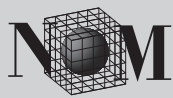
平成25年度

新潟県立近代美術館／新潟県立万代島美術館 年報

編集 新潟県立近代美術館／新潟県立万代島美術館

印刷 株式会社第一印刷所

発行 平成27年3月10日



THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART

新潟県立近代美術館

新潟県立万代島美術館

The Niigata **Bandaijima** Art Museum